

2025年度

大 学 院

履 修 要 項

文 学 研 究 科 編

中 央 大 学

充実した研究活動のために

この履修要項は、本大学院の法学・経済学・商学・文学・総合政策の5研究科（理工学研究科、国際情報研究科は別冊）における授業科目の履修や研究活動を行うために必要な基本項目を示したガイドブックです。

内容は、《学業に関する事項》《学生生活に関する事項》《施設・設備に関する事項》および《中央大学大学院関係諸規程等》の5研究科共通編と、《学業に関する事項》（各研究科個別事項）の各研究科編に分類されています。

5研究科共通編の《学業に関する事項》には履修の方法や修了要件が、《学生生活に関する事項》には、学籍に関する事項や研究助成制度などの学生支援システム、そして奨学金制度など充実した学生生活・研究活動を展開していくためのさまざまな事柄が網羅されています。《施設・設備に関する事項》には、大学院学生が関わる施設設備に関する情報が記載されています。そして末尾には、中央大学大学院学則をはじめとする、大学院学生に直接関連する学内諸規程等が収録されています。

また、各研究科の《学業に関する事項》には、各研究科のカリキュラムや学位論文の提出方法に加えて、学位論文審査に関する取扱要領、各研究科の学位授与方針等が収録されています。

なお、具体的な授業内容などについては、manabaで公開されている講義要項をご覧ください。

ご承知のように、近年における学術研究の著しい進展や急激な技術革新、社会経済の高度化・複雑化などは、大学院教育の役割を飛躍的に増大させつつありますが、この社会的な使命に答えていくためには、何よりも学生各自がより高度な学識や能力を身につけ、自立した研究活動を展開することが不可欠です。この要項を活用し、実り多い研究成果が得られるよう心から期待しております。

中央大学大学院

2025年度 文系大学院 学年暦・行事日程表

【法】…法学研究科 【経】…経済学研究科 【商】…商学研究科
 【文】…文学研究科 【総】…総合政策研究科 【教職】教職関連
 M…博士前期課程 D…博士後期課程 の学生のみに関連する事項です。

※行事日程表に記載のない行事のスケジュールについては、各研究科編の「学業に関する事項」または随時Cplus等でお知らせしますので、ご確認ください。

カレンダー		日程	課程		行事予定	詳細																																											
■ 全日休講日	■ 祝日の授業実施日		M	D		5研究科 共通編	各研究科編																																										
4月 April <table border="1"> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr> <tr><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td></tr> <tr><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td></tr> <tr><td>20</td><td>21</td><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td></tr> <tr><td>27</td><td>28</td><td>29</td><td>30</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>		日	月	火	水	木	金	土			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30				1日(火)~8日(火)	○	○	学習指導期間		
日	月	火	水	木	金	土																																											
		1	2	3	4	5																																											
6	7	8	9	10	11	12																																											
13	14	15	16	17	18	19																																											
20	21	22	23	24	25	26																																											
27	28	29	30																																														
		2日(水)	○	○	入学式																																												
		4日(金)	○		既修得単位認定申請 締切日	13頁																																											
		初旬	○	○	給付奨学金 応募締切	39頁																																											
		9日(水)	○	○	前期授業開始																																												
		9日(水)	○	○	指導教授届 提出締切	9頁																																											
		9日(水)	○		【経】基本科目選択届 提出締切		13頁																																										
		中旬	○		【教職】教員免許状一括申請手続き	22頁																																											
		11日(金)~15日(火)	○	○	履修登録期間	14頁																																											
		18日(金)~22日(火)	○	○	履修変更期間	14頁																																											
		14日(月)	○		【教職】「教職履修届」提出締切	21頁																																											
		15日(火)	○		特別聴講制度(単位互換) 手続締切	16頁																																											
		29日(火)	○	○	昭和の日(授業実施日)																																												
		30日(水)		○	【法・経・商・文・総】研究状況報告書 提出締切		25・30・31・21・19頁																																										
		30日(水)	○	○	臨時休業日																																												
5月 May <table border="1"> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td></tr> <tr><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td></tr> <tr><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>17</td></tr> <tr><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td><td>22</td><td>23</td><td>24</td></tr> <tr><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td><td>30</td><td>31</td></tr> </table>		日	月	火	水	木	金	土					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1日(木)、2日(金)	○	○	臨時休業日		
日	月	火	水	木	金	土																																											
				1	2	3																																											
4	5	6	7	8	9	10																																											
11	12	13	14	15	16	17																																											
18	19	20	21	22	23	24																																											
25	26	27	28	29	30	31																																											
		6日(火)	○	○	振替休日																																												
		7日(水)	○	○	履修届チェックリスト配布開始	14頁																																											
		7日(水)	○		【総】修士論文計画書・題名届 提出締切		14頁																																										
		9日(金)	○	○	【文】研究年報・査読付論文 執筆登録締切	43頁																																											
		31日(土)		○	【法・経・商・文・総】研究計画書 提出締切		25・30・31・21・19頁																																										
		31日(土)	○		【商】修士論文題名届 提出締切		19頁																																										
6月 June <table border="1"> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td></tr> <tr><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td></tr> <tr><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td></tr> <tr><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td></tr> <tr><td>29</td><td>30</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>		日	月	火	水	木	金	土	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30						2日(月)	○		修了見込証明書 発行開始	32頁	
日	月	火	水	木	金	土																																											
1	2	3	4	5	6	7																																											
8	9	10	11	12	13	14																																											
15	16	17	18	19	20	21																																											
22	23	24	25	26	27	28																																											
29	30																																																
		6日(金)	○	○	【法・経・商・文・総】研究年報・査読付論文 応募締切	43頁																																											
7月 July <table border="1"> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr> <tr><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td></tr> <tr><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td></tr> <tr><td>20</td><td>21</td><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td></tr> <tr><td>27</td><td>28</td><td>29</td><td>30</td><td>31</td><td></td><td></td></tr> </table>		日	月	火	水	木	金	土			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31			8日(火)	○	○	創立記念日(授業実施日)		
日	月	火	水	木	金	土																																											
		1	2	3	4	5																																											
6	7	8	9	10	11	12																																											
13	14	15	16	17	18	19																																											
20	21	22	23	24	25	26																																											
27	28	29	30	31																																													
		中旬~	○		【法】修士論文中間発表会		17頁																																										
		中旬~	○		【商】修士論文中間報告会		19頁																																										
		21日(月)	○	○	海の日(授業実施日)																																												
		23日(水)~31日(木)	○	○	補講期間																																												
		下旬		○	博士学位授与式																																												
		※法学研究科の修士論文中間発表会は7月中旬~下旬に行います。詳細は法学研究科編17頁をご覧ください。 ※商学研究科の修士論文中間報告会は7月~9月に行います。詳細は商学研究科編19頁をご覧ください。																																															

カレンダー		日程	課程		行事予定	詳細																																																		
全日休講日	祝日の授業実施日		M	D		5研究科 共通編	各研究科編																																																	
8月 August <table border="1"> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td></tr> <tr><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td></tr> <tr><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td></tr> <tr><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td><td>22</td><td>23</td></tr> <tr><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td><td>30</td></tr> <tr><td>31</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>		日	月	火	水	木	金	土						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31							1日(金)	○	○	夏季休業開始(~9月20日(土))		
日	月	火	水	木	金	土																																																		
					1	2																																																		
3	4	5	6	7	8	9																																																		
10	11	12	13	14	15	16																																																		
17	18	19	20	21	22	23																																																		
24	25	26	27	28	29	30																																																		
31																																																								
9月 September <table border="1"> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td></tr> <tr><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td></tr> <tr><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td></tr> <tr><td>21</td><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td></tr> <tr><td>28</td><td>29</td><td>30</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>		日	月	火	水	木	金	土		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30					中旬	○	○	前期開講科目 成績発表	15頁								
日	月	火	水	木	金	土																																																		
	1	2	3	4	5	6																																																		
7	8	9	10	11	12	13																																																		
14	15	16	17	18	19	20																																																		
21	22	23	24	25	26	27																																																		
28	29	30																																																						
		22日(月)	○	○	後期授業開始																																																			
		22日(月)	○	○	履修届チェックリスト配布開始	14頁																																																		
		23日(火)	○	○	秋分の日(授業実施日)																																																			
		25日(木)	○	○	【経】基本科目変更届 提出締切	13頁																																																		
		25日(木)~26日(金)	○	○	履修変更期間	14頁																																																		
		25日(木)	○	○	【法・商・総】研究年報・一般論文または研究ノート 応募締切	43頁																																																		
		27日(土)	○		【経】修士論文中間報告会		14頁																																																	
		27日(土)		○	【経】博士論文公開研究会		30頁																																																	
		27日(土)	○		【総】修士論文中間発表会		15頁																																																	
10月 October <table border="1"> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> <tr><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td></tr> <tr><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td></tr> <tr><td>19</td><td>20</td><td>21</td><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td></tr> <tr><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td><td>30</td><td>31</td><td></td></tr> </table>		日	月	火	水	木	金	土				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31		10日(金)	○		【法・経・文】修士論文題名届 締切		17・15・20頁							
日	月	火	水	木	金	土																																																		
			1	2	3	4																																																		
5	6	7	8	9	10	11																																																		
12	13	14	15	16	17	18																																																		
19	20	21	22	23	24	25																																																		
26	27	28	29	30	31																																																			
		13日(月)	○	○	スポーツの日(授業実施日)																																																			
		下旬~11月上旬	○		【教職】一括申請ガイダンス	22頁																																																		
		29日(水)	○		臨時休業日																																																			
		30日(木)	○		全日休講																																																			
		31日(金)	○		白門祭期間(全日休講)																																																			
11月 November <table border="1"> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td></tr> <tr><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td></tr> <tr><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td><td>22</td></tr> <tr><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td></tr> <tr><td>30</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>		日	月	火	水	木	金	土							1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30							1日(土)~3日(月)	○	○	白門祭期間(全日休講)		
日	月	火	水	木	金	土																																																		
						1																																																		
2	3	4	5	6	7	8																																																		
9	10	11	12	13	14	15																																																		
16	17	18	19	20	21	22																																																		
23	24	25	26	27	28	29																																																		
30																																																								
		4日(火)	○	○	臨時休業日																																																			
		24日(月)	○	○	振替休日(授業実施日)																																																			

カレンダー		日程	課程		行事予定	詳細																																											
○	■		M	D		5研究科 共通編	各研究科編																																										
12月 December <table border="1"> <tr><th>日</th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土</th></tr> <tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td></tr> <tr><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td></tr> <tr><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td></tr> <tr><td>21</td><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td></tr> <tr><td>28</td><td>29</td><td>30</td><td>31</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>		日	月	火	水	木	金	土		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31				24日(水)	○	○	冬季休業開始(～1月6日(火))		
日	月	火	水	木	金	土																																											
	1	2	3	4	5	6																																											
7	8	9	10	11	12	13																																											
14	15	16	17	18	19	20																																											
21	22	23	24	25	26	27																																											
28	29	30	31																																														
1月 January <table border="1"> <tr><th>日</th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土</th></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td></tr> <tr><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td></tr> <tr><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>17</td></tr> <tr><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td><td>22</td><td>23</td><td>24</td></tr> <tr><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td><td>30</td><td>31</td></tr> </table>		日	月	火	水	木	金	土					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	7日(水)	○	○	授業開始		
日	月	火	水	木	金	土																																											
				1	2	3																																											
4	5	6	7	8	9	10																																											
11	12	13	14	15	16	17																																											
18	19	20	21	22	23	24																																											
25	26	27	28	29	30	31																																											
		9日(金)	○		修士論文 提出締切日(17:00)																																												
		13日(火)	○	○	臨時休業日																																												
		14日(水)～15日(木)	○	○	後期補講期間																																												
		16日(金)～17日(土)	○	○	全日休講																																												
		26日(月)～31日(土)	○	○	後期補講期間																																												
		30日(金)	○	○	休学願提出締切	25頁																																											
		下旬～2月中旬	○		【文】修士論文最終試験(～2月中旬)		20頁																																										
※文学研究科の修士論文最終試験の日程は、別途お知らせします。																																																	
2月 February <table border="1"> <tr><th>日</th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土</th></tr> <tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td></tr> <tr><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td></tr> <tr><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td></tr> <tr><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td></tr> </table>		日	月	火	水	木	金	土	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	1日(日)	○	○	春季休業開始(～3月31日(火))									
日	月	火	水	木	金	土																																											
1	2	3	4	5	6	7																																											
8	9	10	11	12	13	14																																											
15	16	17	18	19	20	21																																											
22	23	24	25	26	27	28																																											
		5日(木)	○		【商】修士論文最終試験		20頁																																										
		13日(金)	○		【総】修士論文最終試験		15頁																																										
		17日(火)	○		【法】修士論文最終試験		17頁																																										
		18日(水)	○		【経】修士論文最終試験		15頁																																										
3月 March <table border="1"> <tr><th>日</th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土</th></tr> <tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td></tr> <tr><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td></tr> <tr><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td></tr> <tr><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td></tr> <tr><td>29</td><td>30</td><td>31</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>		日	月	火	水	木	金	土	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31					上旬	○		2025年度 修了者発表・成績発表(修了者のみ)	15頁	
日	月	火	水	木	金	土																																											
1	2	3	4	5	6	7																																											
8	9	10	11	12	13	14																																											
15	16	17	18	19	20	21																																											
22	23	24	25	26	27	28																																											
29	30	31																																															
		上旬	○	○	2025年度 後期開講・通年科目 成績発表(修了者以外)	15頁																																											
		上旬～4月末		○	特別研究員 ID・パスワード発行期間	41頁																																											
		中旬～下旬		○	博士学位授与式																																												
		中旬～下旬	○		修士学位授与式																																												
※修了者発表・成績発表の日程は、別途お知らせします。																																																	
※博士学位授与式・修士学位授与式の日程は、別途お知らせします。																																																	

INDEX

◎2025年度文系大学院学年暦・行事日程表	2
◎中央大学大学院の概観[中央大学の建学の精神／中央大学大学院の使命と目的]	6
◎文学研究科の学位授与方針、教育課程の編成・実施方針	7

学 業 に 関 す る 事 項

◎文学研究科 修了までの流れについて	18
1. 文学研究科に関する事項	20
■博士前期課程・博士後期課程 [履修方法／修士論文／カリキュラムマップ／研究および履修方法／博士学位候補資格／博士学位請求論文／カリキュラムマップ／アーキビスト養成プログラムについて／研究科設置科目一覧／臨床心理士の資格取得について／公認心理師の受験資格取得について]	
2. 文学研究科の学位審査に関する取扱要領	68
■文学研究科学位論文審査及び最終試験に関する取扱要領	68
3. 文学研究科の学位授与方針に基づく知識・能力の到達度評価表	72
■文学研究科博士前期課程	72
■文学研究科博士後期課程	74
(付録)	
◎多摩キャンパスマップ	77
◎緊急時の避難について	78

中央大学大学院の概観

1. 中央大学の建学の精神 — 實地應用ノ素ヲ養フ —

中央大学は、1885（明治18）年、18人の若き法律家たちによって「英吉利法律学校」として創設されました。創立者たちがこの学校を設立した目的は、イギリス法（英米法）の長所である法の実地応用に優れた人材を育成するために、イギリス法の全科を教授し、その書籍を著述し、その書庫を設立することにあります。

創立者たちの「建学の精神」は、抽象的体系性よりも具体的実証性を重視し、実地応用に優れたイギリス法についての理解と法知識の普及こそが、わが国の独立と近代化に不可欠であるというものでした。それゆえ「實地應用ノ素ヲ養フ」教育によって、イギリス法を身につけ、品性の陶冶された法律家を育成し、わが国の法制度の改良をめざしたのです。

創立者たちは、イギリス法が明治の日本を近代的な法治国家にするために最も適していると確信し、経験を重んじ自由を尊ぶイギリス法の教育を通して、実社会が求める人材を養成しようとしたのでした。

創立から140年の歴史の中で、「實地應用ノ素ヲ養フ」という建学の精神は、8学部、大学院8研究科、専門職大学院2研究科、4附属高等学校、2附属中学校を擁する総合学園となった現在、多様な学問研究と幅広い実践的な教育を通して

「行動する知性。— Knowledge into Action —」

を育むという本学のユニバーシティ・メッセージに受け継がれています。

2. 中央大学大学院の使命と目的

中央大学は、学則第2条にて「本大学は、その伝統及び私立大学の特性を生かしつつ、教育基本法の精神に則り、学術の中心として、広く知識を授け、深く専門の理論及び応用を教授・研究し、もって個性豊かな人間の育成を期するとともに、文化の創造・発展と、社会・人類の福祉に貢献することを使命とする」と定めています。

また、中央大学の使命を踏まえ、その上位課程である大学院では、大学院学則第2条にて「課程の目的に応じ、学術の理論及び応用を教授・研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、本大学の使命を達成することを目的とする」と定め、とりわけ高等教育機関等の研究教育者の育成を基本理念に運営されています。

各研究科・課程における教育研究上の目的は、中央大学大学院学則第4条の5に定められており、また、3つの方針（学位授与、教育課程編成・実施、入学者受け入れ）についても、研究科毎の指針が明文化されています。これらの方針に基づき、各研究科において教育研究活動をおこなっています。

● 文学研究科の教育研究上の目的等（中央大学大学院学則第4条の5第5項）

「人文科学、社会科学及びその関連諸分野に関する理論並びに諸現象にかかる高度な教育研究を行い、高い研究能力と広く豊かな学識を有し、専攻分野における教育研究活動その他の高度の専門性を必要とする業務を遂行することのできる人材を養成する。」

文学研究科の学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

養成する人材像

中央大学大学院文学研究科においては、人文科学、社会科学およびその関連諸分野に関する理論並びに諸現象にかかわる高度な研究教育を行い、高い研究能力と広く豊かな学識を有し、専攻分野における教育研究活動その他の高度な専門性を必要とする業務を遂行することのできる人材を養成することを目的とします。

博士前期課程においては、本研究科の目的及び「人間の内面と社会、テキスト、データおよび事象を中心に考察する」という基本理念に基づき、文学、歴史学、哲学、社会学、社会情報学、教育学、心理学など本研究科の扱う広範な学問分野を通じて、人間・社会・歴史・文化などを実践的に読み解く力を有し、グローバル化、高度情報化が進行する国際社会と地域社会に貢献できる知的教養、実践力を身につけた人材を養成します。

博士後期課程においては、前期課程の方針を基盤に置きながら、さらに高度な専門性を身につけることを目指します。具体的には、自立した研究活動をおこない、それぞれの研究分野・学界に貢献できる人材を養成します。その上で、大学や研究所のほか、広く国際社会と地域社会において活躍できる研究者・高度専門職業人の養成を目指します。

修了するにあたって備えるべき知識・能力

文学研究科を修了するにあたって備えるべき知識・能力は次のとおりです。

【博士前期課程】

・実践力

研究能力および広く豊かな学識を背景に、自己の専門分野や実社会における問題を解決できる。

国文学：日本文学・日本語学・漢文学・日本文化に関する幅広い知識を教育実践に活かしたり、実社会における円滑な人間関係の構築に役立てたりすることができる。

英文学：高度な英語力と英語圏文学・英語圏文化・英語学・言語科学・英語教育学に関する知識を背景に、実社会における問題解決に向けて、着実に取り組むことができる。

独文学：ドイツ語圏の語学・言語学・文学・文化・歴史・社会等に関し、自分の研究対象とした分野について問題の発見を行い、それに対して独自の見解を実証的・論理的な解法で提示できる。

仏文学：フランス語の体系的な理解やフランス語圏の文学の歴史に関する幅広い知識を背景として、それらの意義を日本語やフランス語を通じて実社会に対して説明することができる（文学文化コース）。フランス語の体系的な理解やフランス美術の歴史に関する幅広い知識を背景として、実社会における美術の普及に活用することができる（美術史コース）。

中国言語文化：日本語および中国語を使って専門分野の文献資料を正確に読み取り、自分の研究課題に対して広い視野から主体的な学びができる。

日本史学：学内外の研究会や史料調査活動等への積極的な参加を通じて、自らの研究テーマを掘り下げることができる。

東洋史学：アジア・アフリカの原典史料の解釈力および歴史的な視点に立った思考力を背景に、自己の専門分野や社会の諸問題を解決することができる。

西洋史学：豊かな市民生活に不可欠な、生涯にわたる学びの礎を築くことができる。

哲学：広く豊かな哲学・思想史的な学識にもとづき、人間存在に根ざす普遍的・根本的課題と現代社会が抱える現実問題を相補的に理解し解決していくことができる。

社会学：調査研究にて培った学識、調査力、構想力をもとに、専門研究領域において貢献するとともに新しい社会を構想する力を持つ。

社会情報学：社会情報学についての研究能力および豊かな学識を背景に、社会情報に関連する諸問題を解決で

きる。

教育学：教育学および関連する学問領域を踏まえて研究対象・方法を適切に設定したうえで分析・考察することができ、教育に関する実務においても実践することができる。

心理学：心理学コース：最先端の研究方法を学び、研究場面で実際に運用することができる。

臨床心理学コース：心理学の科学的研究方法を学んだ上で、臨床心理学のテーマ設定ができ、それに相応しい研究方法を選択し運用することができる。加えて、臨床場面では公認心理師・臨床心理士に相応しい心理支援の専門職としての基本的な技能を発揮することができる。

・知的教養

グローバル化、高度情報化が進行する国際社会と地域社会に貢献できる知的教養を有し、さらに、日本および海外の文化を学ぶことで、自己の専門分野とその関連する領域を広く豊かに認識できる。

国文学：蓄積した幅広い知識と具体的な事象に即した思考方法とによって獲得できた日本についての深い認識によって、日本文化とその歴史を相対化し、その特質と魅力を国際社会と地域社会に向けてアピールできる。

英文学：高度な英語力と英語圏文学・英語圏文化・英語学・言語科学・英語教育学に関する知識を背景に、国際社会と地域社会に貢献できる知的教養を、グローバルに共有することができる。自分と他者のもつ文化や言語を広く深く豊かに認識できる。

独文学：グローバル化、多民族化、高度情報化が進行するドイツ語圏諸国との国際交流に貢献できる知的教養を有し、日本およびドイツ語圏諸国の文化を学ぶことで、自己の専門分野とその関連する領域を広く豊かに認識できる。

仏文学：フランス語圏の思想や文化、社会に関する高度の知識を有し、その知識を基盤として応用し、フランス語圏の文学の歴史（文学文化コース）、フランス美術の歴史（美術史コース）を深く理解することができる。

中国言語文化：中国言語文化：専門分野の研究方法に関する基本的な知識を修得するとともに、漢字を紐帯とする東アジアの多様な文化を理解し、学識を広げることができる。

日本史学：日本史学・考古学を主とする幅広い知識と専門的な学力をもち、歴史的な視点で社会をとらえることができる。

東洋史学：現代世界に貢献できるアジア・アフリカに関する知識や情報を有し、日本社会とアジア・アフリカの歴史・文化を関連づけて学ぶことで、自己の専門分野および関連諸領域を深く認識できる。

西洋史学：世界の複数の地域と時代の多種多様な人々の生き方を、それぞれの史料と論理的方法論を用いて分析することができる。

哲学：広く日本・中国・西洋における古今の知的教養を主体的に学修することによって、世界の文化の多様性をその根源から柔軟に理解することができる。

社会学：グローバルな視点と臨牀的な視点の複眼的思考のもと、現代社会並びにその過去と未来の姿を見通し、多様な社会のあり方を論ずることができる。

社会情報学：グローバル化、高度情報化が進行する国際社会と地域社会に貢献できる社会情報学の知的教養を有し、社会情報とその関連する領域を広く豊かに認識できる。

教育学：教育学だけでなく関連する学問領域にも目を配り、幅広い視野から教育に関する諸課題の構造や問題点について認識することができる。

心理学：心理学コース：心理学のみならず関連する学問領域において幅広い知識を有し、研究結果を多角的に論じることができる

臨床心理学コース：心理学・臨床心理学全般のさまざまな知識を有するだけでなく、人間の心理的な営みの結果である文化や歴史についての幅広い教養を備え、研究と臨牀の両面に活用することができる。

・論理構築力

研究対象と真摯に向き合い、そこから論理を構築し、その結果出てくる自己の考えや高度な理論を正確に論述し説明することができる。

国文学：日本文学・日本語学・漢文学・日本文化に関して丁寧かつ批判的に読解・分析する修練を通じて獲得した語彙力や思考力によって、研究史をふまえた上で自らの研究を構想し、読解・分析・考察したことを他者にわかるように合理的かつ説得的に論述することができる。

英文学：高度な英語力と共に身につけた言語理解力と言語分析力、および、英語圏文学・英語圏文化・英語学・言語科学・英語教育学の研究を通して磨いた論理的思考と合理的説得力を基盤に、他者の考えとその背景にある主張を理解し、自分の考えを明確に説明することができる。

独文学：ドイツ語圏諸国の対象分野を研究する方法論と分析手法を修得し、論理的思考の結果として導かれる自己の考えや高度な理論を正確に論述し説明することができる。

仏文学：専門的な視点や手法の修得を通じて、フランス語圏の文学の歴史（文学文化コース）、フランス美術の歴史（美術史コース）を研究することができる。その上で、自らの問題意識に基づくテーマを設定し、精密な資料批評に基づく実証的な方法を通じて分析・考察を行い、独自の見解を説得的に提示することができる。

中国言語文化：原典資料等を用いて仮説を検証する能力を身につけ、学問的課題に関する思考プロセスを明確にし、論理的に筋道を立てて考えていくことができる。

日本史学：着実な手法で史料（資料）から情報を読み取り、先行研究との違いを十分に意識しながら歴史を叙述することができる。

東洋史学：アジア・アフリカに関する研究対象と真摯に向き合い、独自の論理を構築し、自己の考えや理論を的確に論述・説明することができる。

西洋史学：厳格な史料読解と分析に基づいて、各自がテーマとする事象を客観的に再構成することができる。

哲学：高度な論理性に裏打ちされた思考能力を習得することにより、異なった思考回路や価値観に対しても開かれた柔軟な論理的思考と、説得力に富んだ表現力を形成することができる。

社会学：帰納的ならびに演繹的な方法を用いて理論構築が出来、かつ様々な理論レベルで議論し、かつ記述や説明ができる。

社会情報学：社会情報学の研究対象と真摯に向き合い、そこから論理を構築し、自己の考えや高度な理論を正確に論述し説明することができる。

教育学：教育学における規範的アプローチ、実証的アプローチ、実践的アプローチの違いを踏まえ、適切な学問的手法を用いて研究を遂行することができる。

心理学：心理学コース：先行研究に基づいて仮説を設定し、科学的な手法を用いて得られたデータを基に統計学的手法によって仮説を検証し、新たな問題設定に繋げることができる。

臨床心理学コース：事例研究や質的研究を含む幅広い先行研究に基づいて問題を設定し、科学的な手法を用いて得られたデータを客観性を担保しながら分析し、新たな問題設定に繋げることができる。

・発信力

自己の研究成果を学会等での発表、著書や論文を通じて積極的に発信し、世に広く問うていくことができる。

国文学：深めた知見を学内外の学会で発表し、研究成果を社会に発信できる。また、学修で得た日本文学・日本語学・漢文学・日本文化に関する幅広い知識と独自の知見を、自らの得意とする方法で社会に発信・還元することができる。

英文学：高度な英語力を活かして、自己の研究成果を学会発表や合同研究会を通じて積極的に発信し、国内外の学生や研究者に問うことができる。

独文学：自己の研究成果をドイツ語圏諸国と日本の学会等で発表し、ドイツ語と日本語の著書や論文を通じて積極的に発信し、世に広く問うていくことができる。

仏文学：研究発表等を通じて、自らの研究成果を論理的・実証的に示し、他者の質問や批評に適切に応答する

ことができる。

中国言語文化：自己の調査結果や研究成果を口頭や文章によって効果的に伝える技術を修得し、発信することができる。

日本史学：様々な学会に参加して研究発表を行い、研究成果を論文にまとめて主張することができる。

東洋史学：アジア・アフリカに関する自己の研究成果を学会等で発表し、論文等を通じて的確に発信し、幅広く社会に問いかけていくことができる。

西洋史学：知的好奇心とクリティカルな思考に基づいて、行動することができる。

哲学：学術的な研究成果を専門学会等で継続的に発表し続けると同時に、その研究成果が広く社会に受容され積極的な影響を与えられるような一般的な仕方でも発信していくことができる。

社会学：書籍、論文、研究発表において、自己の議論や研究上の発見が他者によって明確に理解されるように、提示できる。

社会情報学：社会情報学の研究成果を、学会等での発表・著書や論文を通じて積極的に発信し、世に広く問うていくことができる。

教育学：研究成果を学会発表あるいは論文などによって発信するとともに、教育に関する実務においても展開することができる。

心理学：心理学コース：研究成果を国内外の学会等で発表した上で、論文として提示することができる。

臨床心理学コース：研究成果を国内外の学会等で発表した上で、論文として提示することが出来る。

臨床事例の経過とアセスメントを過不足無く要約し、事例検討会で発表することができる。

【博士後期課程】

・独創性

研究能力および広く豊かな学識を背景に、自己の専門分野や実社会に新しい知見を独自の視点で加えていくことができる。

国文学：日本文学・日本語学・漢文学・日本文化に関する深い学識にもとづき、独自の視点で自らの研究分野に清新な論を積み上げることができる。

英文学：専門的な研究を通して培った研究能力および広く豊かな学識を背景に、学界や実社会に対し、独自の視点から新しい知見や発想を加え、展開することができる。

独文学：ドイツ語圏諸国に関する専門分野の研究能力および広く豊かな学識を背景に、自己の専門分野や実社会に新しい知見を独自の視点で加えていくことができる。

仏文学：自らの専門分野に関する先行研究を調査し、フランスの最新の学問的潮流や傾向を把握したうえで、高度な問題意識に基づく独自の視点を導き出すことができる。

中国言語文化：日々の基礎研究を通じて研究テーマの本質について理解を深め、新しい視点から自己の研究成果を作り上げ、その重要性を示すことができる。

日本史学：着実な史料（資料）分析をもとに先行研究を批判的に検討し、歴史に対する独自の見方を提示することができる。

東洋史学：研究能力およびアジア・アフリカに関する幅広い学識を背景に、自己の専門分野や現代社会に新しい知見と独自の視点を加えていくことができる。

西洋史学：知的好奇心とクリティカルな思考に基づいて、独自の研究を展開することができる。

哲学：哲学・思想の豊かな伝統を新たに再構築することによって、これまで取り上げられることのなかった新しい問題位相に光を当て、そこから独自の解釈ないし思考を展開していくことができる。

社会学：高度な知的教養と論理構築力を基礎とし、従来の研究上の欠落を埋める新しい知見を加えることができる。

社会情報学：社会情報学の研究能力および広く豊かな学識を背景に、社会情報に関して、専門分野や実社会に新しい知見を独自の視点で加えていくことができる。

教育学：教育に関する諸課題について、教育学あるいは関連する学問領域における高度な研究手法によって深

く分析・考察することができる。

心理学：問題設定した領域において、国際水準の新規な成果を挙げることができる。

・発信力

自己の研究成果を学会等での発表、著書や論文を通じて積極的に発信し、自立した研究者として世に広く問うていくことができる。

国文学：日本文学・日本語学・漢文学・日本文化に関する国内外での学会発表や学術誌への論文発表を通じて、自らの研究成果を積極的に発信できる。

英文学：最先端の研究成果を国内外の学会での発表、日本語や英語による著書や論文を通じて積極的に発信し、自立した研究者として世に広く問うていくことができる。

独文学：ドイツ語圏諸国や日本国内をはじめとする学会、またその他の国際学会等での自己の研究成果発表、著書や論文を通じて積極的に発信し、自立した研究者として世に広く問うていくことができる。

仏文学：学会での発表や、学会誌および学内紀要への論文投稿を通して、研究成果を積極的に発信し、日本やフランス語圏諸国において、研究者・教育者として自立し活動できる。

中国言語文化：日本語または中国語による学会での口頭発表や学術論文の執筆・刊行を通じて、自己の研究成果に関する情報を公表することができる。

日本史学：様々な学会に参加して研究発表を行い、成果を論文にまとめて提示することをくり返すことで、独自の見解を主張することができる。

東洋史学：アジア・アフリカに関する自己の研究成果を学会等で発表し、著書や論文等を通じて積極的に発信し、研究者として社会に問いかけ続けることができる。

西洋史学：歴史への問いかけや研究成果を言語化し、市民社会の一員として学会の内外で活動できる。

哲学：学術的な研究成果を専門学会等で継続的に発表し、学術専門書や論文を介してそれを世に問い続けると同時に、その研究成果が広く社会に受容され積極的な影響を与えられるような一般的な仕方でも発信していくことができる。

社会学：自己の研究成果を明確に伝える力のみならず、自立した研究者として新しい研究領域を開拓し、アピールする力を持つ。

社会情報学：社会情報学の研究成果を、学会等での発表・著書や論文を通じて積極的に発信し、自立した研究者として世に広く問うていくことができる。

教育学：教育学あるいは関連する学問領域における高度な研究手法によって分析・考察した結果を、著書や論文などで公表し、高い評価を受けることができる。

心理学：国内外の学会等で研究成果を繰り返し発表し、学会の査読付き雑誌に複数回論文を掲載できる。

・知的教養

グローバル化、高度情報化が進行する国際社会と地域社会に貢献できる知的教養を有し、さらに、日本および海外の文化を学ぶことで、自己の専門分野とその関連する領域を独自の視点で広く豊かに認識できる。

国文学：蓄積した幅広い知識と具体的な事象に即した思考方法とによって獲得できた日本についての深い認識によって、日本文化とその歴史を相対化し、その特質と魅力を国際社会と地域社会に向けてアピールできる。

英文学：学術研究を通して得た教養に基盤を置き、グローバル化、高度情報化が進行する国際社会と地域社会に貢献できる知的教養を有するだけでなく、自己と他者を広く深く豊かに認識し、尊重することができる。

独文学：グローバル化、多民族化、高度情報化が進行するドイツ語圏諸国との国際交流に貢献できる知的教養を有し、日本およびドイツ語圏諸国の文化を学ぶことで、自己の専門分野とその関連する領域を広く豊かに認識できる。

仏文学：フランス語圏文学やフランス美術の歴史を理解するとともに、その背景にある思想や文化、社会につ

いて高度の専門知識に習熟する。フランスと日本、フランスと諸外国との相互的な影響関係に関心をもち、国際的な視野に基づきながら、主体的に研究・教育活動や社会貢献活動に関わることができる。

中国言語文化：中国語原典資料の読解を軸とした知的訓練を体系的に積み重ねることによって、専門分野にとらわれない汎用的な思考力を養い、学問的課題を発見することができる。

日本史学：日本史学・考古学を主とする幅広い知識と専門的な学力をもち、歴史的な視点で社会をとらえ、社会の問題に取り組むことができる。

東洋史学：現代世界に貢献できるアジア・アフリカに関する知識や情報を有し、日本社会とアジア・アフリカの歴史・文化を関連づけて学ぶことで、自己の専門分野および関連諸領域を独自の視点から深く認識することができる。

西洋史学：ある現象を一定の距離からクリティカルに観察し、また、その史料の複雑さを十分に理解し、それを評価することができる。

哲学：広く日本・中国・西洋における古今の知的教養を主体的に学修することによって、世界の文化の多様性をその根源から柔軟に理解すると同時に、自己の専門領域に固有な理解をいわば世界哲学的な観点から多元的に再構築することができる。

社会学：グローバルと臨床という複眼的思考のもと、社会の過去と未来の姿を見通し、多様な社会のあり方を論じることに加えて、社会のあるべき姿についても論じる知的教養をもつ。

社会情報学：グローバル化、高度情報化が進行する国際社会と地域社会に貢献できる社会情報学の知的教養を有し、社会情報とその関連する領域を独自の視点で広く豊かに認識できる。

教育学：教育学あるいは関連する学問領域に精通し、幅広い視野と深い分析能力をもって教育に関する諸課題の構造や問題点について認識することができる。

心理学：心理学のみならずさまざまな領域における幅広い教養を有し、自身の研究成果をそれらと関連づけながら論じることができる。

・論理構築力

研究対象と真摯に向き合い、そこから論理を構築し、その結果出てくる自己の考えや高度な理論を正確に論述し、様々な分野の人々を説得することができる。

国文学：日本文学・日本語学・漢文学・日本文化に関して丁寧かつ批判的に読解・分析する修練を通じて獲得した語彙力や思考力によって、研究史をふまえた上で自らの研究を構想し、読解・分析・考察したことを他者にわかるように合理的かつ説得的に論述することができる。

英文学：高度な英語力と学術研究を通して磨いた論理的思考と合理的説得力を基盤に、様々な考えを持つ他者とその背景にある主張を理解し、自分の考えを明確に説明するだけでなく、立場や考え方の違いを超えて、共感を得ることができる。

独文学：ドイツ語圏諸国に関する研究対象と真摯に向き合い、そこから論理を構築し、その結果出てくる自己の考えや高度な理論を正確に論述し様々な分野の人々を説得することができる。

仏文学：フランス語圏文学やフランス美術史を研究するための専門的な視点と手法に習熟するとともに、高度の資料批評に基づく実証的な方法を通して分析・考察し、独自の見解を説得的に提示することができる。

中国言語文化：人文科学・中国学分野の研究方法を修得することによって客観的事実と原典資料に依拠した論理的思考を展開し、自己の提示した仮説を説得力のある結論へと導くことができる。

日本史学：着実な手法で史料（資料）から情報を読み取り、先行研究との違いを十分に意識しながら歴史像を組み立てることができる。

東洋史学：アジア・アフリカに関する研究対象と真摯に向き合い、独自の論理を構築し、自己の考えや理論を正確に論述し、多様な分野の人びとを説得することができる。

西洋史学：多角的な視点と歴史記述の深い理解からエビデンスを分析し、歴史的出来事の因果関係を理解することができる。

哲学：高度な論理性に裏打ちされた思考能力を習得することにより、異なった思考回路や価値観に対しても開かれた柔軟な論理的思考を展開し、強靱で説得力に富んだ表現方法を開発・構築していくことができる。

社会学：理論構築を行い、かつ理論的に記述・説明できる力に加えて、自己の研究分野において新しい理論や理論的枠組を提示できる。

社会情報学：社会情報と真摯に向き合い、論理を構築し、自己の考えや高度な理論を正確に論述し、様々な分野の人々を説得することができる。

教育学：教育学における規範的アプローチ、実証的アプローチ、実践的アプローチの違いを踏まえたうえで適切に組み合わせるなど、高度な学問的手法を用いて研究を遂行することができる。

心理学：心理学ないし臨床心理学の最先端の研究成果を踏まえた問題設定を行った上で、科学的手法によって収集されたデータに対し独自の視点を含む多角的な分析を加え、緻密な論理構成に基づいてその学問領域における新たな成果を提示できる。

・実践力

研究能力および広く豊かな学識を背景に、自己の専門分野や実社会において、根本的な問題提起をすることができる。

国文学：日本文化・日本文学・日本語学・漢文学に関する幅広い知識を背景に、自らの研究を深め、それを教育実践に活かしたり、専門分野に寄与するような問題提起をしたりすることができる。

英文学：高度な言語能力、研究能力および広く豊かな学識知識を背景に、専門分野および実社会における問題を発見し、その解決に向けて着実に取り組むことができる。

独文学：ドイツ語の専門文献を解読し、ドイツ語の資料を分析する能力およびドイツ語圏に関する学識を背景に、自己の専門分野や実社会において、根本的な問題提起をすることができる。

仏文学：実践的な職業のための高度なフランス語運用能力およびプレゼンテーション能力を発揮できる。美術館でのインターンを通して、専門的な知識だけでなく実践的な経験を活かして職業に結びつけることができる。

中国言語文化：高度な中国語運用能力・専門知識・分析力・判断力を駆使し、高度専門職業人として活躍することができる。

日本史学：学内外の研究会や史料調査活動への積極的な参加を通じて自らの研究テーマを掘り下げると同時に、社会に貢献することができる。

東洋史学：アジア・アフリカの原典史料の解釈力および歴史的な視点に立った思考力を背景に、自己の専門分野や現代社会における根本的な問題への解決方法を提示することができる。

西洋史学：史料の収集・分析や論理の構築など、知的なトレーニングを経て得られたクリティカルな思考力を日常生活において活用することができる。

哲学：広く豊かな哲学・思想史的な学識にもとづき、人間存在に根ざす普遍的・根本的な哲学的課題と現代社会が抱える現実問題を相補的に理解し、そこから新たな解決策を提案していくことができる。

社会学：自己の研究分野における貢献のみならず、あるべき社会を構想・提案し、その実現に向けて行動する力を持つ。

社会情報学：社会情報学の研究能力および広く豊かな学識を背景に、社会情報学や実社会において、根本的な問題提起をすることができる。

教育学：教育学および関連する学問領域に精通したうえで遂行された研究結果を公表するとともに、教育に関する諸課題の解決に向けて研究活動および実務において高度な実践力を発揮することができる。

心理学：心理学のみならず関連する諸領域の幅広い学識に基づいて設定された問題に対し、最新の方法を含む多様な研究手法を駆使して解決に向かうことができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

カリキュラムの基本構成

文学研究科では、ディプロマ・ポリシーで掲げた人材を養成するため、専門分野に関する科目について、講義と演習をセットにしたカリキュラムを基本にして、各専門分野の全領域を体系的に網羅するよう授業科目を配置しています。

【博士前期課程】

以下の科目群の履修を通じて、実践力・知的教養・論理構築力・発信力を修得します。

共通科目・・・文学・歴史学・哲学・社会学・社会情報学・教育学・心理学など本研究科で専門的に学ぶことが出来る知的教養を修得するための科目および学術論文を執筆するための基礎を学びます。

講義科目・・・当該学問分野についての体系的な理解および個別の専門的な知識を修得し、修士論文執筆を見据えた多くの研究成果に触れる機会とします。

演習科目・・・修士論文の執筆に向けて、適切な研究テーマと研究計画を設定し、研究成果を取り纏めていくために必要な技量を修得します。具体的には、文献の読解、史料の収集、調査研究の手法等を学び、自立的な研究へと発展させていきます。

【博士後期課程】

以下の科目群の履修を通じて、独創性・発信力・知的教養・論理構築力・実践力を修得します。

共通科目・・・文学研究科の専攻を横断する形で科目を設置し、領域横断的に人文社会科学の思想的・方法論的基礎を学びます。

特殊研究科目・・・1つのテーマ・論点を深く掘り下げ、専門性を究めるとともに、幅広い視野から多面的な思考を身に着け、論理構築力・発信力・実践力と独創性を持った自立的な研究者としての能力を向上させます。

カリキュラムの体系性

【博士前期課程】

文学研究科では、専攻横断で設置している共通科目、講義科目と演習科目を組み合わせることで、人間・社会・歴史・文化などを実践的に読み解く力、グローバル化、高度情報化が進行する国際社会と地域社会に貢献できる知的教養、実践力を身に着けます。

入学初年次・・・共通科目においては、文学・歴史学・哲学・社会学・社会情報学・教育学・心理学など本研究科で専門的に学ぶことが出来る知的教養と論文執筆における基礎能力を身に着けます。講義科目においては、当該学問分野についての体系的な理解および個別の専門的な知識を修得します。さらに、演習科目では、文献の読解、史料の収集、調査研究の手法等を学び、適切な研究テーマと研究計画を設定していきます。

2年次以降・・・講義科目においては、修士論文執筆を見据えた多くの研究成果に触れるとともに、演習科目においては、先行研究の検討と他の授業参加者との議論を通して、自ら設定した研究テーマと研究計画に基づき、研究成果を取り纏めて修士論文の作成をしていきます。

国文学：カリキュラム履修に研究者・高度職業人モデルと教職モデルを有しています。前者は基本的な学問知識を土台に日本文学・日本語学・漢文学・日本文化に関する専門科目を集中的に履修することで、博士後期課程への進学を視野に専門分野の研究をおこない、後者は基礎的な知識から実践的教養までを網羅的に履修することで、教育現場で役立つ幅広い学問的知見の獲得をめざします。2年次には修士学位論文に関する学内学会発表を通じて、複数教員から広く助言や指導を受けます。

英文学：「英語圏文学文化コース」「英語学・言語科学コース」「英語教育コース」の各コースでの学修を通して、着実に専門知識と研究力を獲得します。英語による修士論文執筆のために、英語表現演習で英語によるアカデミック・ライティングの手法を学びます。また、英語学・言語科学・英語教育を専門とする場合は、英語学術発表演習でプレゼンテーション力を磨き、国際学会や共同研究発表会で研究発表を行います。

独文学：ドイツ語圏の言語学、文学、文化学、歴史学等に関する授業を通し、学際的な専門知識を修得しながら

特定の専門分野の研究を進めるための能力を獲得します。各専門分野について高度に学術的な発見能力を養成し、研究テーマの中間発表をドイツ語と日本語で行う機会を設け、ドイツ語と日本語による研究発表能力を身に付けます。

仏文学：近現代のフランス語圏の文学の歴史（文学文化コース）、フランス美術の歴史（美術史コース）に関連する授業科目やインターン等を通じて、フランス語圏の思想や社会、文化に関する知識を高度に専門的な水準まで深めます。また、研究発表等を通じて、鋭い問題意識に基づく文献の読解力、発信力、論理構築力に習熟するとともに、専門的な能力と知識を活かした職業を想定しつつ、実践的な学びを深めます。

中国言語文化：中国語圏の文学・文化・思想・言語等に関する専門知識・研究能力・外国語運用能力を活かして国際社会に貢献できる人材を育成するとともに、修士学位論文の執筆のために必要となる読解力・分析力・発信力等を養成します。

日本史学：講義・演習を通じて専門文献や史料（資料）の読解力・分析力を身につけ、修士論文の作成を進めます。また、長期休暇中等に実施する史料調査や発掘調査を重視しています。史料（資料）が残された現地に赴き、実物の史料を手にとって検討することで歴史の理解を深めます。

東洋史学：アジア・アフリカの歴史世界についての体系的な理解および個別の専門的な知識を修得すると同時に、文献の読解を通じて史料解釈・史料操作のスキルを身につけ、歴史的思考力と卓越した語学力を養います。さらに、史料収集や調査研究の手法等を学びつつ、個々の研究テーマと研究計画を作成し、多くの先行研究に触れながら、研究成果を取りまとめて修士論文を作成していきます。

西洋史学：専門に直結する原典史料（英・独・仏・ラテン語・アッカド語など）と二次文献の読解を行います。基礎演習では、書評の書き方から、先行研究のまとめ方、論文の書き方、および、論の運び方など、論文執筆に必要な全てのスキルを習得します。専門領域を超えて議論するための方法を学び、研究発表を行います。

哲学：専門とする領域のテキストを正確にかつ十分な創造的理解力をもって読解することを最重要課題としています。

入学初年次・・・哲学原典を正確に読み取り、理解した内容を適切に表現できる言語運用能力を習得すると同時に、当該テキストを理解するために必要な先行研究を多様に活用し、得られた理解を論文として論理的に構築していく基礎的能力の育成を行ないます。

2年次以降・・・自らの設定したテーマに即した修士論文執筆に向けて、主要テキストのみならず、関連するテキストにも広く目を通し、提示すべき自身の解釈ないし思考を論証するために必要な文献や思想内容に取り組みながら、研究計画に基づいて修士論文を作成していきます。

社会学：調査研究の基礎となる社会学の諸理論と多様な調査方法を徹底的に学びながら、プロジェクト演習にて研究プロジェクトを構想し構築する力を養います。2年次以降では、修士学位請求論文執筆を始めるための知力や技能を備えているかどうかを判断するためQualifying Examination(QE)を受けます。論文執筆を進めるために、プロジェクト演習にて調査研究を進めます。また、学生が複眼的かつ多様な観点から社会現象を観察し解釈する力を備えられるよう、複数・集団指導体制のもとで学習と研究を進めます。

社会情報学：講義科目においては、修士論文執筆を見据え、社会情報学の多くの研究成果に触れ、演習科目においては、自ら設定した研究テーマと研究計画に基づき、研究成果を取り纏めて修士論文の作成をしていきます。

教育学：教育哲学、教育史、教育行政学、教育社会学、教育方法学、生涯学習論などに関する特講および演習によって各領域における学問的知識や研究手法を修得するとともに、教育学総合演習によって領域横断的な視点を有することができるようにする。

心理学：心理学コース：設定された問題の解決に通じる研究手法に習熟するとともに、関連する領域に関する幅広い知識を獲得し、国際学会等で成果を公表し論文化する能力を身につけます。

臨床心理学コース：臨床心理学を中心に心理学を幅広く学び、広く実践にも目を向けその素養・技術を身につけます。また、研究者を目指すにあたり必要となる、設定された問題の解決に通じる研究手法に

習熟します。

【博士後期課程】

講義科目においては、修士論文執筆を見据えた多くの研究成果に触れるとともに、演習科目においては、先行研究の検討と他の授業参加者との議論を通して、自ら設定した研究テーマと研究計画に基づき、研究成果を取り纏めて修士論文の作成をしていきます。

1・2年次・各専攻に設置された特殊研究科目のうち、自身の研究分野に留まらず、隣接する専門分野の科目についても履修します。これにより幅広い視野から多面的な思考を修得し、自身の研究を深化させ、博士学位請求論文の執筆に取り掛かります。

3年次以降・カリキュラムにおける学修と並行し、研究指導を受けながら博士学位請求論文の完成、そして修了後に自立した研究者となることを目標として、自身の研究活動を進めます。研究の遂行にあたり、学内外に積極的に論文を公開することを研究科として求めています。また、研究科で定める博士学位請求論文申請の要件を満たす過程で、学問の社会的意味を理解し自身の研究に対する批判的な分析機会を重ねることで、自立した研究者として活動します。

国文学：専門分野を中心に隣接する専門分野の科目を履修し、指導教員以外の教員からも指導を受けることにより、幅広い視野からの多面的な思考を獲得し、自らの研究の深化をはかります。また、日本文学・日本語学・漢文学・日本文化に関する国内外の学会での発表や学術誌への論文発表を通じて、自らの研究成果を積極的に発信しながら博士学位請求論文の完成をめざし、研究者として自立できる力を蓄えます。

英文学：最先端の研究を行うために、多くの文献や研究発表に触れて先行研究を広く深く知るとともに、研究者間での議論や共同研究を通して批判的思考や分析力を磨き、学会発表や論文発表を重ねることで、新たな課題や問題を浮かび上がらせ、理論とデータに裏打ちされた説得力のある博士学位請求論文を仕上げていきます。現在の標準的な英語だけでなく、様々な英語や日本語の文献、あるいは、インタビューや心理言語学実験を通して豊かで鋭い感性を磨きます。自立した研究者としての実力と自信を培うと共に、学界での活躍や社会への貢献に欠かせない企画力・実践力・発信力を身につけます。

独文学：ドイツ語圏の言語学、文学、文化学、歴史学等に関する授業を通し、学際的な専門知識を修得しながら特定の専門分野の研究を進めるための能力を獲得します。各専門分野について高度に学術的な発見能力を養成し、研究テーマの中間発表をドイツ語と日本語で行う機会を設け、博士学位請求論文執筆に向け、複数教員による指導の下、ドイツ語と日本語による研究発表能力を身に付けます。

仏文学：専門領域において、研究課題を深化させ、博士学位請求論文の執筆を目指して、長期的な計画に基づく主体的な研究活動を進めます。研究教育職を目指しながら、学会での研究発表、学内外の雑誌への論文投稿を通して成果を発表します。

中国言語文化：中国語圏の文学・文化・思想・言語等に関する独創的研究を行うために高度な専門知識と分析力、外国語運用能力を養成するとともに、学会等での口頭発表、研究論文の執筆、博士学位請求論文の完成のために継続的指導を行います。

日本史学：専門文献や史料（資料）の読解力・分析力をさらに磨きながら、博士学位請求論文の作成に向けて、論文投稿や研究発表を積極的に進めます。また、長期休暇中等に実施される史料調査や発掘調査に主体的に取り組むことで、研究者として自立的に調査を行う能力を身につけます。

東洋史学：アジア・アフリカに関する多様な視点と多面的な思考力を養い、自己の研究テーマを深化させ、研究指導を受けながら学内外で意欲的に学会等に参加・発表し、積極的に論文を公開していきます。博士学位請求論文申請の要件を満たす過程において、自身の研究に対して批判的な分析視角を身に付けると同時に、社会的な要請に対応し独創的な研究を継続的に発表できる研究者として活動します。

西洋史学：原典史料と二次文献をクリティカルに読むことが一層重要となります。計画的に学内外の学術雑誌に論文を投稿し、また、研究発表を行います。西洋史学のそれぞれの専門分野の学術レベルに見合った、独創性の高い論文を執筆することで、自立した歴史研究者を目指します。

哲学：専門領域における哲学原典の読解法に基づき、さらに広く深く文献を読解していきながら、博士論文の構想・執筆を通して、自立した専門研究者として持続的に研究活動を行なっていくために必要な諸能力を育

成していきます。

1・2年次・・・自身が専門とする領域の学識を一層深めると同時に、関連する諸領域にも柔軟に知見を広げつつ、博士学位請求論文の執筆に取り掛かります。また、学会等での研究発表や雑誌論文執筆に積極的に取り組むことによって、自身の研究成果を客観視する一方で自身とは異なる多くの有力な観点を知る機会としていきます。

3年次以降・・・自らの設定したテーマに即した博士学位請求論文の完成に向けて、入念に研究指導を受けつつ、自身の研究活動を続けていきます。専門研究者としてさらに持続的に自立した研究活動を展開していくためより一層の主体性が求められます。

社会学：博士学位請求論文の執筆を念頭に置き、1年次に、各自の研究が依拠する理論の検討と練磨の場所として、社会学理論科目を履修します。博士学位の取得のための調査研究を進める場所としてプロジェクト演習科目を履修します。2年次には、博士学位請求論文の執筆を開始できる知力や技能を備えているかどうかを判断するためQualifying Examination(QE)を行います。新しい社会を構想できる力をつけるため、社会構想論を履修します。また2年次から、各自の研究を深めるために必要な多言語教育を行います。3年次には、博士学位請求論文の執筆を精力的に進めるため、プロジェクト演習にて複数回にわたって研究発表を行います。多様な視点や複眼的な思考を錬成強化するため、全学年次において複数・集団指導体制のもとでの研究指導を行います

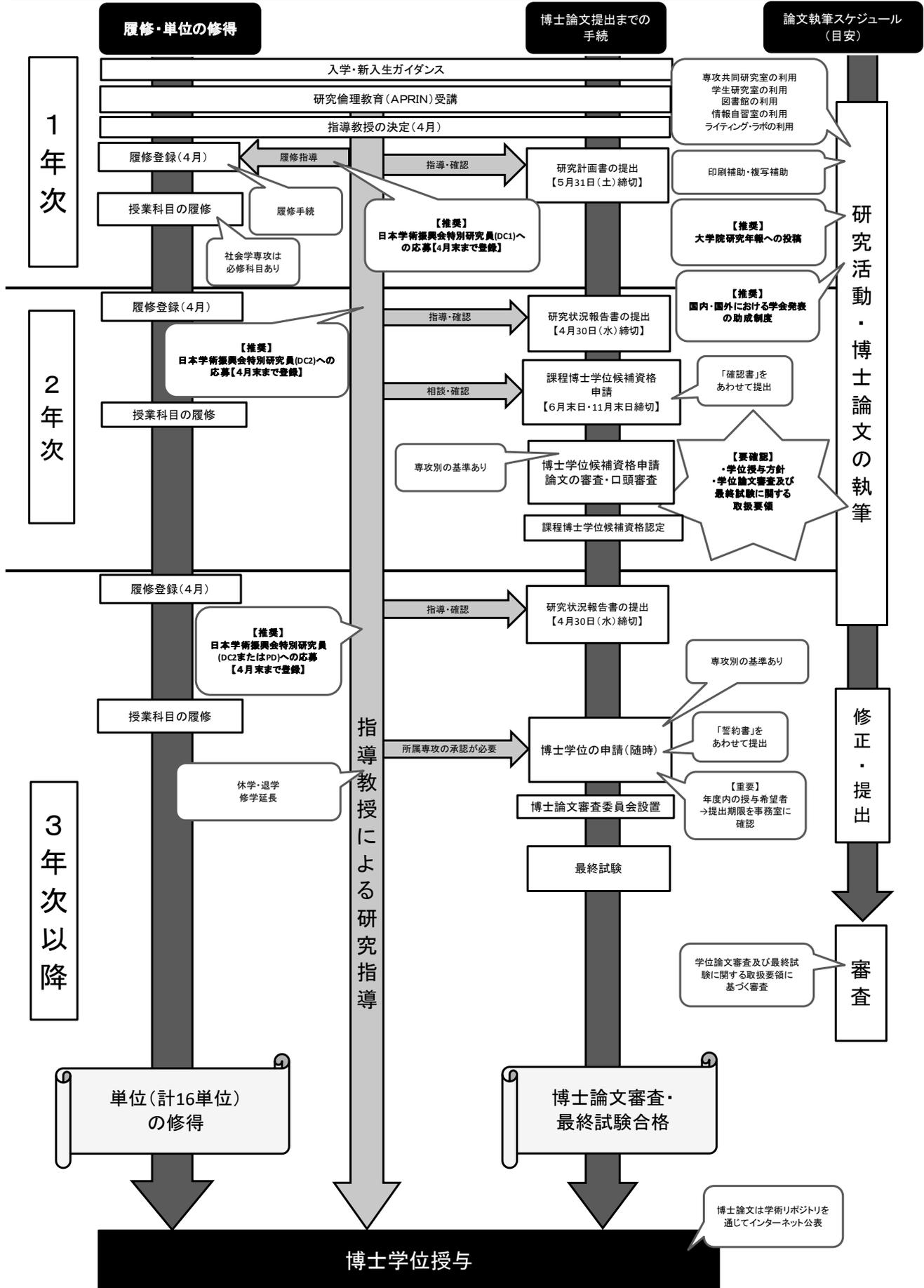
社会情報学：身につけた知識・能力を土台に社会情報学の研究を進め、博士学位請求論文の作成を通じて、自立して研究活動を行い得る能力を身につけることを目標とします。研究の遂行にあたって、学内外に積極的に論文を公開することを求めます。

教育学：教育哲学、教育史、教育行政学、教育社会学、教育方法学、生涯学習論などの研究領域について博士学位請求論文の作成を目標とした継続的指導を行い、学会発表や論文投稿など研究成果の発信を積極的に進めいきます。

心理学：心理学の複数の領域における深い学びが得られるとともに、各領域における第一線の研究者を毎年入れ替わりで招き最先端の研究動向に触れ続けます。

学業に関する事項

文学研究科博士後期課程 修了までの流れについて



1. 文学研究科に関する事項

■博士前期課程

<1>履修方法

(1) 修了必修単位数について

32単位を修得していることが必要になります。

(2) 他専攻・他研究科および交流・協力校が聴講を認めた授業科目の履修について

1) 2021年度以降入学生

指導教授が必要と認めた場合は、(1)にかかわらず、12単位を上限に(A)他専攻の授業科目(B)他研究科が聴講を認めた授業科目の中から選択履修できます。(C)交流・協力校(留学を含む)が聴講を認めた授業科目の単位認定は15単位を限度とします。ただし、修了単位への算入は所属する専攻の授業科目の単位を中心に行うこととなります。各専攻の履修方法は各専攻頁を確認してください。

2) 2020年度以前入学生

指導教授が必要と認めた場合は、(1)にかかわらず、12単位を上限に(A)他専攻の授業科目(B)他研究科が聴講を認めた授業科目(C)交流・協力校が聴講を認めた授業科目の中から選択履修できます。ただし、「(C)交流・協力校が聴講を認めた授業科目」の単位認定は10単位を限度とします。

(3) 必修科目について

各専攻頁の必修科目部分を確認してください。

(4) 特別指定科目の履修方法について

特別指定科目の履修方法等の細目は、大学院事務室にてお伝えします。

<2>修士論文

(1) 提出までの過程について

1) 修士論文題名届および確認書の提出

Webサイト「文系大学院掲示板」(学位)よりダウンロードした所定の届出用紙を期日までに大学院事務室まで提出してください。なお、提出にあたり、指導教授の確認が必要になります。

対象者：博士前期課程 2年生以上全員(在学期間を延長する人も含む)

提出締切：10月10日(金)

※詳細な手続については、Cplusにてお知らせします。必ず確認してください。

2) 修士論文中間発表会

専攻によっては、修士論文中間発表会を実施しています。これは、教員・学生の前で報告を行う機会を設けることで、早い時期から論文テーマの設定と分析目的の明確化、論文体系の整合的な構築などを意識して論文作成を行い、より質の高い修士論文の完成を目指すことを目的としています。詳細については、指導教授にお問い合わせください。

(2) 修士論文提出日について

以下に指定する提出期限までに、完成した修士論文を提出してください。

提出期限：2026年1月9日(金) 17時 厳守

提出物：論文(A4版・字数指定なし)、申請書類、誓約書

※提出期限以降の提出は受け付けません。

※提出方法については、10月下旬頃にWebサイト「文系大学院掲示板」(学位)及びmanabaでお知らせします。

(3) 審査について

主査・副査による論文審査が行われた後、修士論文に関する口述試験(最終試験)を行います。最終試験に欠席した場合、当該年度に修了することはできません。

修士論文最終試験：1月末～2月中旬(専攻によって最終試験実施日が異なるため、決定次第Cplusで公表します。)

(4) その他

詳細については、随時Cplusにお知らせします。

<3>カリキュラムマップ

カリキュラムマップとは、ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）に基づき、各授業科目が、「修了するにあたって備えるべき知識・能力」のどの項目と関連するのか、学修成果の達成にどの授業科目が寄与するかを示したものです。

本学公式Webサイトにてご確認ください。

■博士後期課程

<1>研究および履修方法

(1) 「研究計画書」および「研究状況報告書」について

1年次生は5月31日（土）までに「研究計画書」を、また2年次生以上は4月30日（水）までに「研究状況報告書」を、指導教授を経由して研究科委員会に提出しなければなりません。

(2) 修了必修単位数について

修了するためには、各専攻の授業科目および共通科目の中から、指導教授の指導により講義科目および演習科目16単位を選択履修していることが必要になります。

(3) 他専攻・他研究科・および交流・協力校が聴講を認めた授業科目の履修について

指導教授が必要と認めた場合は、(A)他専攻の授業科目(B)他研究科の授業科目(C)交流・協力校が聴講を認めた授業科目の中から、8単位を選択履修することができます。

<2> 博士学位候補資格

文学研究科にて「課程博士論文」を提出するためには、「課程博士学位候補資格」（以下「資格」という）の認定を受ける必要があります。「資格」の審査では、博士論文にかかわる研究を主体的に遂行するために必要な能力を有し、在学中に博士学位請求論文を提出できる研究の蓄積があるかどうかについて「提出された資料の審査」および「口頭審査」にて審査を行います。「資格」の認定を受けるための手続は、以下のとおりです。

(1) 申請資格

- 1) 文学研究科博士後期課程に1年以上在学している者（休学者を除く）
- 2) 各専攻が定める申請要件を満たしている者（23頁参照）

(2) 申請書類（申請書類は返却しません。所定の用紙はWebサイト「文系大学院掲示板」（学位）からダウンロードしてください。）

- 1) 「課程博士候補資格申請書」・・・・・・・・・・・・・・・・ 1部
- 2) 研究業績書・・・・・・・・・・・・・・・・ 4部
- 3) 博士学位請求論文を構成する予定の論文（申請時点で完成しているもの全て）・・・・ 各4部
・公表論文は、抜刷、或いは全文のコピーを提出すること
・学会誌等に掲載決定の論文で、公表時期が間に合わない場合には校正段階の論文コピーでも代用可
・上記以外の未発表論文については、原稿を提出すること
- 4) 書き下ろし論文（博士学位請求論文の全体を見通すことのできるもの）（注）・・・・ 4部
（注）多くの人文社会科学系分野の博士学位論文において序章として位置づけられる論文のもととなる内容が記されていること
- 5) 確認書・・・・・・・・・・・・・・・・ 1部

(3) 審査過程

- 1) 申請後、当該専攻の推薦に基づき、研究科委員会において論文審査委員を決定します。審査委員は指導教授を主査とし、主査の推薦を受けた副査2名以上とします。
- 2) 必要に応じて「資格」認定の口頭審査を10月末日（6月末日申請）または2月中旬（11月末日申請）までに行います。
- 3) 「資格」の認定は、審査結果等をふまえ研究科委員会の議により行います。

(4) 申請時期

申請の期限は、毎年6月末日と11月末日です（休日の場合はその前日）。

(5) 博士候補資格の取り扱い

- 1) 6月末に申請を行った場合、「資格」認定後、当該年度に休学しても「資格」は有効です。
- 2) 「資格」の有効期限は、博士後期課程に在学できる6年次までとなります。

博士学位候補資格		申請要件	
専攻	申請要件		留意事項
国文学	1) 学術誌（査読付）掲載論文が1本以上あること。		※申請時点で博士学位請求論文の7割程度が準備されていること。 1) については大学院研究年報も可とする。
英文学	1) 学術誌（査読付）掲載論文が1本以上あること。		※申請時点で博士学位請求論文の7割程度が準備されていること。 1) については大学院研究年報も可とする。
独文学	1) 専門領域の研究論文を2本以上発表していること、少なくとも内1本は学術誌（査読付）掲載論文であること。 2) 学外の専門分野の学会での研究発表が1回以上あること。		1) については大学院研究年報も可とする。
仏文学	1) 学術誌（査読付）掲載論文が1本以上あること。（フランス語圏でのMaster2あるいはそれに相当する学位論文でも可） 2) 学外の専門分野の学会での研究発表が1回以上あること。		※申請時点で博士学位請求論文の7割程度が準備されていること。 1) については大学院研究年報も可とする。
中国言語文化	1) 学術誌（査読付）掲載論文が1本以上あること。		1) については大学院研究年報も可とする。
日本史学	1) 学術誌（査読付）掲載論文が1本以上あること。		1) は原則として、歴史学に関する学術誌とする。
東洋史学	1) 学術誌（査読付）掲載論文が1本以上あること。		1) については大学院研究年報も可とする。
西洋史学	1) 学術誌（査読付）掲載論文が1本以上あること。（海外の大学院で修士学位、或いは博士学位候補資格の審査のために提出した論文でも可）		1) については大学院研究年報も可とする。
哲学	1) 学術誌（査読付）掲載論文が2本以上あること。少なくとも内1本は全国レベルの学会誌（査読付）掲載論文であること。 2) 学外の全国レベルの学会での研究発表が1回以上あること。		※申請時点で博士学位請求論文の7割程度が準備されていること。
社会学	1) 専門領域の研究論文を2本以上発表していること、少なくとも内1本は学術誌（査読付）掲載論文であること。 2) 学外での専門分野の学会での研究発表が1回以上あること。		1) の内1本については共著論文も可とする。その場合、第一執筆者であること。 1) については大学院研究年報も可とする。
社会情報学	1) 学術誌（査読付）掲載論文が2本以上あること。 2) 学外の専門分野の学会での研究発表が1回以上あること。		1) については大学院研究年報も可とする。
教育学	1) 学術誌（査読付）の掲載論文が1本以上あること。		1) については大学院研究年報も可とする。
心理学	1) 学術誌（査読付）の掲載論文が1本以上あること。		1) については紀要、大学院研究年報は不可とする。

<3> 博士学位請求論文

- (1) 博士学位請求論文の提出が可能になるための条件など
 - 1) 博士後期課程在学中（休学者を除く）の方で2年以上在学している者。ただし、優れた研究業績を上げた者については、博士後期課程に1年以上在学すれば足りるものとする。
 - 2) 「<1>研究および履修方法」（21頁）で定められた履修すべき単位（16単位）を取得していること（学位請求該年度の修得見込を含む）。
 - 3) 課程博士候補資格の認定を受けた者（課程博士候補資格の認定については、前項を参照すること）。
 - 4) 「課程博士論文」の基準事項を満たした上で、予め専攻内で博士学位請求論文提出の承認が得られていること。
 - 5) 指導教授により、当該論文が大学の定める方法で剽窃等がないかの確認を受けていること。
- (2) 審査過程

博士学位請求論文は、文学研究科委員会において審査されます。指導教授を通じて提出された博士学位請求論文は、以下の審査過程を経て学位授与が決定されます。なお、博士学位論文の審査および最終試験は、「文学研究科学位論文審査及び最終試験に関する取扱要領」（68頁）に基づき行われます。

 - 1) 博士学位請求論文の審査委員選出（主査1名、副査2名以上。副査のうち、1名は、他大学等の研究者などが審査委員になります。）
 - 2) 博士学位請求論文の論文審査開始
 - 3) 最終試験
 - 4) 3) に基づき審査・審議のうえ、投票により博士学位授与を決定
 - ※1) 最終試験は、大学公式Webサイト上でその日時などをあらかじめ公開し、傍聴が原則として許可されます。
 - 2) 論文要旨は、最終試験に先立って大学公式Webサイト等で公開します。
- (3) 申請書類等

博士学位申請書（所定様式）、履歴書4部（所定書式。原本他に複写3部）、博士学位請求論文4部、博士学位請求論文要旨4部とその電子データ（電子データの提出方法は申請時に案内します）、誓約書、博士論文のインターネット公表（中央大学学術リポジトリ掲載）および複写請求に関する確認書

 - ※1) 博士学位請求論文及び博士学位請求論文要旨は、任意書式となり、ページ制限等ありません。指導教授と相談のうえ、作成してください。
 - 2) 審査委員が、4名以上となる場合には、博士学位請求論文、博士学位請求論文要旨、履歴書の提出部数を追加します。
- (4) 申請時期

(1) の条件が整えば、随時申請可能です。ただし、博士学位請求論文を提出した年度内での博士学位授与を希望される場合は、審査期間との関係から、該年度の10月末までの申請をお勧めします。詳細は必ず大学院事務室までお問い合わせください。
- (5) 学位授与の時期

学位授与の時期は、原則として年度末である3月下旬に行われます。なお、場合により7月下旬または8月上旬に行われる場合もあります。
- (6) 学位授与後の博士論文の取り扱い

学位授与後、博士論文は、本学学術リポジトリを利用してインターネット公表されます。また、国立国会図書館には電子版が、また本学図書館には上製本が収蔵され、広く一般に公開されます。そのため、原則、学位授与日に、本学図書館に収蔵するための博士学位論文1冊と国立国会図書館に収蔵するための当該論文の「全文」の電子データを大学院事務室に提出していただきます。なお、両図書館等において、上製本に対する複写請求などがあった場合には、著作権法上の範囲内（論文総ページ数の2分の1以下）での複写が許可されます。この範囲を超えての複写については、執筆者の許可の有無によります。そのため、予めこの著作権法上の範囲を超える執筆についての許可の有無をお伺いし、後日の複写許諾請求時の時々において、大学院事務室及び本学図書館が複写許諾請求者からの問い合わせに対応できるようにします。
- (7) その他

最終在学年次である6年次生として在学する年度の3月までに、博士学位申請を行った場合は、審査のうえ、翌年度中に博士学位が授与される場合があります。この場合、3月末日をもって、退学届を提出した方（退学届を提出せず除籍者となった者は除く）は満期退学の取り扱いとなりますが、審査の結果、博士学位が授与された場合、3月末日にさかのぼり、博士後期課程修了の取り扱いとなります。なお、学位授与日については、博士学位授与日となります。この制度を利用した博士学位の取得については、必ず早い段階で大学院事務室へご相談ください。

博士学位請求論文		申請要領		
専攻	分量	使用言語	副論文等の添付	その他必要事項
国文学	雑誌論文5本以上に相当する内容と分量	日本語	特に定めず	
英文学	本文が30,000語以上	英語		
独文学	特に定めず	日本語 または ドイツ語	・日本語論文の場合にはドイツ語要約を添付 ・ドイツ語論文の場合には400字×20枚程度の日本語要約を添付	
仏文学	400字×250枚以上 (フランス語論文の場合は、これに相当する分量)	日本語 または フランス語	・日本語論文にはフランス語による要約を添付 ・フランス語論文には日本語による要約を添付	
中国言語文化	特に定めず	日本語 または 中国語	特に定めず	以下の要件を満たすこと。 1) 研究論文が3本以上あること。内2本は、学術誌(査読付)に掲載されたものであること。
日本史学	特に定めず	原則として日本語	参考資料として添付を求める場合がある	以下の要件を満たすこと。 1) 専門領域の研究書を1冊以上、または研究論文3本以上(内1本は全国レベルの学会誌(査読付)あるいはこれに準ずる研究書に掲載された論文)であること。
東洋史学	特に定めず	指導教授の指導による	特に定めず	以下の要件を満たすこと。 1) 研究論文が3本以上あること。内2本は、学術誌(査読付)に掲載されたものであること。
西洋史学	特に定めず	日本語・英語・ドイツ語・フランス語のいずれか	特に定めず	以下の要件を満たすこと。 1) 研究論文が3本以上あること。内1本は、学術誌(査読付)に掲載されたものであること。
哲学	400字×150枚以上	日本語	特に定めず	以下の要件を満たすこと。 1) 博士学位請求論文を提出するまでに、予め専攻内での選考を経ること。
社会学	特に定めず	日本語 または 英語	特に定めず	以下の要件を満たすこと。 1) 専門領域の研究論文を3本以上発表していること、少なくとも内2本は学術誌(査読付)掲載論文であること。 2) 学外での専門分野の学会での研究発表が2回以上あること。 (留意事項) 1) の内1本については共著論文も可とする。その場合、第一執筆者であること。 1) の内1本については大学院研究年報も可とする。
社会情報学	特に定めず	原則として日本語	特に定めず	以下2つの要件を満たすこと。 1) 学術誌(査読付)掲載論文が2本以上あること(いずれも後期課程入学後の業績であること) 2) 学外の専門分野の学会での研究発表が2回以上あること。
教育学	特に定めず	原則として日本語	特に定めず	以下の要件を満たすこと。 1) 学術誌(査読付)の掲載論文が2本以上あること。(①②のいずれかの条件をみたすこと) ①教育学関連各種専門学会の全国誌(査読付)1本以上 ②地方教育学会紀要、研究機関紀要、中央大学大学院研究年報などの掲載論文(査読付)1本以上
心理学	特に定めず	日本語 または 英語	不要	以下の要件を満たすこと。 1) 学術誌(査読付)掲載論文が2本以上あること。

<4>カリキュラムマップ

カリキュラムマップとは、ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）に基づき、各授業科目が、「修了するにあたって備えるべき知識・能力」のどの項目と関連するのか、学修成果の達成にどの授業科目が寄与するかを示したものです。

詳細は本学公式 Web サイトにてご確認ください。

<5>アーキビスト養成プログラムについて

文学研究科には、記録管理の専門職であるアーキビストを養成するプログラムがあります。このプログラムを修了すれば、独立行政法人国立公文書館による認証アーキビストに認定されるために必要な(イ) 知識・技能等（高等教育機関の科目履修又は研修修了）、(ロ) 調査研究能力（修士課程修了レベル）、(ハ) 実務経験（アーカイブズに係る実務経験原則3年以上）の3要件のうち、(イ) 知識・技能等を満たすことができます。

<(イ) 知識・技能等を修得するために必要な科目・単位>

必要単位	科目名	単位	
必修 (10 単位)	インターンシップ (アーキビスト実務研修)	2	
	アーカイブズ法制論	2	
	地域アーカイブズ論	2	
	図書館情報学特講 A	2	
	図書館情報学特講 B	2	
選択必修 ^{※1} (4 単位)	アーカイブズ学研究 A ^{※2}	2	4
	アーカイブズ学研究 B ^{※2}	2	
	記録管理学特講 A	2	4
	記録管理学特講 B	2	

※1 選択必修科目は「アーカイブズ学研究」「記録管理学特講」いずれかの A・B を両方履修して 4 単位分満たすこと。

※2 在学生に限り、2022 年度以前に履修した科目は以下のとおり読み替えます。

ただし、読み替えの場合は次頁の「国立公文書館認証アーキビストに認定されるためのフロー」(イ) 知識・技能等の①を充足することはできません。

読み替え前 科目		読み替え後 科目
記録史料学研究 A	→	アーカイブズ学研究 A
記録史料学研究 B	→	アーカイブズ学研究 B

<主なスケジュール>

時期	ガイダンス・手続き等
4月上旬	アーキビスト養成プログラム ガイダンス（参加必須） 履修登録
4月中旬	アーキビスト養成プログラム 参加申込
修了年 3月	必要単位数修得 → 修了証発行（課程修了時）

<注意事項>

- ・アーキビスト養成プログラムのガイダンスは必ず参加してください。
- ・プログラムへの参加申込は必ず行ってください。
- ・独立行政法人国立公文書館の認証アーキビストとして認定されるためには、本プログラム修了の他に、国立公文書館が定める3要件のうち、(ロ) 調査研究能力、(ハ) 実務経験を各自において満たす必要があります。

<オープンバッジ発行>

本プログラム修了者には中央大学大学院文学研究科より知識、スキル、経験のデジタル証明であるオープンバッジを交付します。本プログラム修了者は大学院修了後もデジタルウォレット内のオープンバッジによって学修成果を提示することができます。

<国立公文書館認証アーキビストに認定されるためのフロー>

2020年度から独立行政法人国立公文書館が開始した認証アーキビスト制度が定める要件を充足し、アーキビストとして認証されるためには下記(イ)～(ハ)の3要件をすべて満たす必要があります

- (イ) 知識・技能等：国立公文書館が定めるアーキビストの職務基準書に示された知識・技能等に関する大学院修士課程の科目を修得し、又は同程度と認められる関係機関の研修を修了していること。
- (ロ) 調査研究能力：修士課程相当を修了し、アーカイブズに係る調査研究実績を1点以上有すること
- (ハ) 実務経験：職務基準書に定める職務に知識・技能等を活かして、3年以上従事した経験を有していること。

(イ) 知識・技能等

本大学院に所属する大学院生は、次の①・②のいずれかを満たすことで充足することができます。

①中央大学大学院アーキビスト養成プログラムを修了する。

本大学院アーキビスト養成プログラムは、2023年度から国立公文書館によりアーキビスト認証のための教育課程として認められています。ただし、前頁「(イ) 知識・技能等を修得するために必要な科目・単位」にて科目読み替えをした場合は充足できません。

②史料管理学研究(4単位)を履修し、単位を修得する。

史料管理学研究は、人間文化研究機構国文学研究資料館が毎年夏季休暇期間中に実施するアーカイブズ・カレッジ(長期コース)に参加し、修了することによって単位を認定されます(国立公文書館が定める「同程度と認められる関係機関の研修を修了していること」に該当)。アーカイブズ・カレッジは、7月下旬から9月中旬頃のうち6週間実施される教育課程で、所定の講義を履修するとともに修了論文(12,000字程度)を提出し、合格することで国文学研究資料館より修了証が発行されます(本大学院アーキビスト養成プログラムの修了証は発行されません)。

(ロ) 調査研究能力

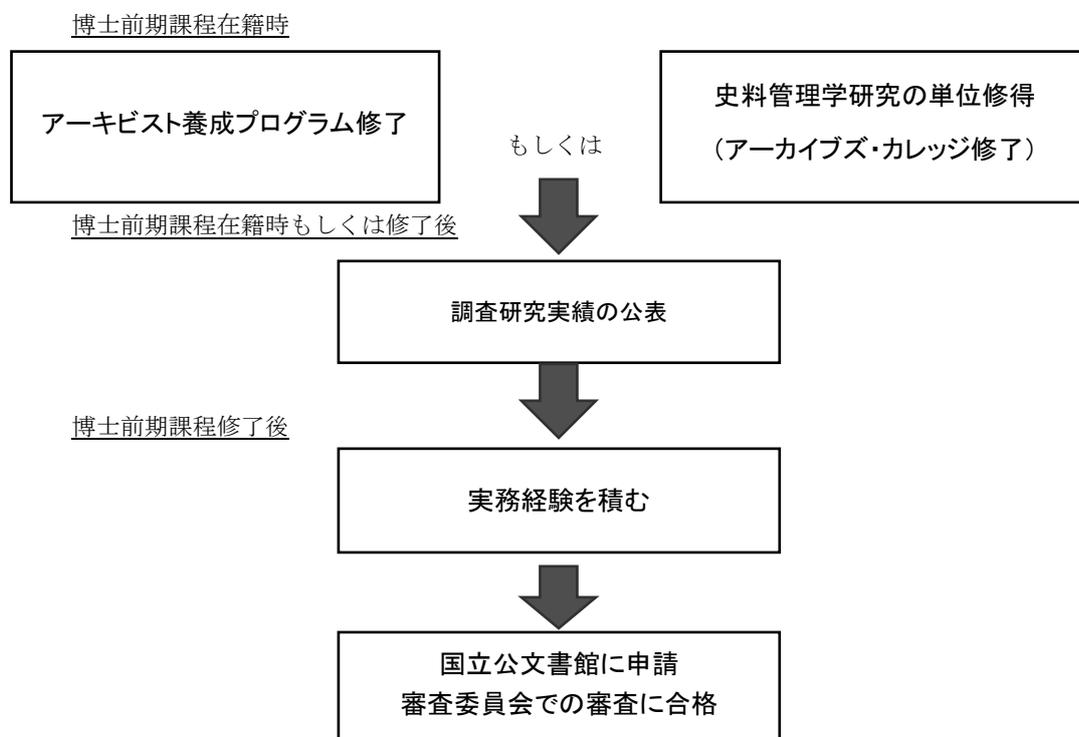
①「修士課程相当を修了」することと、②「アーカイブズに係る調査研究実績を1点以上有すること」の両方が求められています。①は学位の種別は問わないので、どの専攻に所属していても大学院博士前期課程を修了すれば満たすことができます。②の「調査研究実績」は、「(1)申請者の単独、分担又は共同の執筆物であって、文章に論理的な整合性」が認められる、「(2)申請時まで公表された又は公表予定が明らかでない書籍、論文、研究ノート、書籍等の翻訳、書評、調査報告、資料紹介、業務報告書その他の成果物」を指します。

(ハ) 実務経験

実務経験の「3年以上」とは、職務に従事した日から申請書類提出までの間で、「一週間当たり3日以上

(ひと月の勤務日数13日以上)の勤務日数による3年(36か月)以上の実務経験」とされています。就業時の役職・採用形態(常勤・非常勤)は問われません。

【認証アーキビスト制度を申請するためのフローチャート】



※1 フローチャートは、学部卒業後、そのまま大学院へ進学したケースを想定したものです。大学院入学以前に、職務経験や研究業績がある場合はプロセスが異なります。

※2 国立公文書館への申請は、大学院事務室を通さず、申請者個人による手続きとなります。

※3 アーカイブズ学の専門学会である日本アーカイブズ学会による資格制度もあります。①修士または博士の学位を取得していること、②アーカイブズに関する専門的業務の経験を2年以上有すること、③アーカイブズ学に関する論文(10,000字以上)を1本以上有すること、④所定の教育課程を修了していることが要件とされます。このうち、アーキビスト養成プログラムもしくはアーカイブズ・カレッジ修了者は、①・④を満たすことができます。詳細は、同会のホームページを参照してください。カリキュラムマップとは、ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)に基づき、各授業科目が、「修了するにあたって備えるべき知識・能力」のどの項目と関連するのか、学修成果の達成にどの授業科目が寄与するかを示したものです。

<6> 研究科設置科目一覧 ー博士前期課程ー ー博士後期課程ー

※オープン・ドメイン制度については、研究科共通編23頁を参照のうえ、履修してください。
 ※英語による科目は、表中の「英語」に○がついています。留学生、留学を希望する学生、専門分野を英語で学んでみようと思う学生は、是非履修してください。履修方法・履修条件は、一般的な科目と同じです。

共通科目 博士前期課程

授業科目名	英字授業科目名	単位	英語開講	担当者	
特殊講義(アカデミック・ライティングの方法と実践)	Special Lecture(Academic Writing)	2		教授	伊 智 鉉
特殊講義(アカデミック・ライティングの方法と実践)	Special Lecture(Academic Writing)	2		教授	伊 智 鉉
特殊講義(アカデミック・ライティングの方法と実践)	Special Lecture(Academic Writing)	2		教授	伊 智 鉉
特殊講義(アカデミック・ライティングの方法と実践)	Special Lecture(Academic Writing)	2		教授	伊 智 鉉
特殊講義(留学生のためのアカデミック・ライティング I 基礎編)	Special Lecture(Academic Writing for International students - Basics)	2		兼任講師	中野 玲子
特殊講義(留学生のためのアカデミック・ライティング I 基礎編)	Special Lecture(Academic Writing for International students - Basics)	2		兼任講師	中野 玲子
特殊講義(留学生のためのアカデミック・ライティング II 実践編)	Special Lecture(Academic Writing for International students - Practice)	2		兼任講師	中野 玲子
特殊講義(留学生のためのアカデミック・ライティング II 実践編)	Special Lecture(Academic Writing for International students - Practice)	2		兼任講師	中野 玲子
総合講座	Interdisciplinary Lecture	2			休講
インターンシップ(博物館実務研修)	Internship	2		教授	小林 謙一
インターンシップ(美術館実務研修)	Internship	2		教授	阿部 成樹
インターンシップ(アーキビスト実務研修)	Internship	2		准教授	清水 善仁

共通科目 博士後期課程

授業科目名	英字授業科目名	単位	英語 開講	担当者
特別研究	Special			休講
総合研究	Interdisciplinary			休講
インターンシップ(博物館実務研修)	Internship	2		教授 小林 謙一
インターンシップ(美術館実務研修)	Internship	2		教授 阿部 成樹
インターンシップ(アーキビスト実務研修)	Internship	2		休講

国文学専攻博士前期課程

<履修方法について>

※英語による科目は、表中の「英語」に○がついています。留学生、留学を希望する学生、専門分野を英語で学んでみようと思う学生は、是非履修してください。履修方法・履修条件は、一般的な科目と同じです。

1. 専攻の科目を中心に32単位を履修すること。
2. 履修にあたっては研究者・高度職業人（教職以外）モデル、教職モデルといったモデルケースがあるので、指導教授と相談の上、履修をすること。

授業科目名	英字授業科目名	単位	英語開講	担当者
上代文学研究A	Japanese Literature in Heian Period A	2		休講
上代文学研究B	Japanese Literature in Heian Period B	2		休講
中古文学研究A	Japanese Literature in Heian Period A	2	教授	中川 照将
中古文学研究B	Japanese Literature in Heian Period B	2	教授	中川 照将
中世文学研究A	Japanese Literature in Middle Period A	2	教授	吉野 朋美
中世文学研究B	Japanese Literature in Middle Period B	2	教授	吉野 朋美
近世文学研究A	Japanese Literature in Edo Period A	2		休講
近世文学研究B	Japanese Literature in Edo Period B	2	教授	鈴木 俊幸
近代文学研究A	Modern Japanese Literature A	2	教授	山下 真史
近代文学研究B	Modern Japanese Literature B	2	教授	山下 真史
近代文学研究A	Modern Japanese Literature A	2		休講
近代文学研究B	Modern Japanese Literature B	2	准教授	富塚 昌輝
現代文学研究A	Contemporary Japanese Literature A	2	教授	宇佐美 毅
現代文学研究B	Contemporary Japanese Literature B	2	教授	宇佐美 毅
日本漢文学研究A	Japanese Literature written in Chinese Style A	2		休講
日本漢文学研究B	Japanese Literature written in Chinese Style B	2		休講
国語学研究A	Japanese Linguistics A	2	教授	藤原 浩史
国語学研究B	Japanese Linguistics B	2	教授	藤原 浩史
国語史研究A	History of the Japanese Language A	2		休講
国語史研究B	History of the Japanese Language B	2		池田 幸恵
書誌学	Bibliography	2	兼任講師	堀川 貴司
浮世絵学	Ukiyoe Studies	2	兼任講師	松村 真佐子
映像文化史	Picture Cultural History	2	兼任講師	山中 剛史
マンガ論	Manga Criticism	2	兼任講師	高橋 明彦
国語科教育研究A	Teaching Japanese as School Subject A	2	兼任講師	野中 潤
国語科教育研究B	Teaching Japanese as School Subject B	2	兼任講師	野中 潤
古文教材研究	Practicum in Classical Japanese Literature	2	教授	鈴木 俊幸
漢文教材研究	Practicum in Classical Chinese (Sinitic)	2		休講
現代文教材研究	Practicum in Modern Japanese Literature	2	准教授	富塚 昌輝
国文法	Practicum in Japanese Grammar	2	特任教授	池田 幸恵

<研究者・高度職業人（教職以外）モデル>

<中古・中世>		<近代・現代>		<国語学>	
近世・漢文					
上代文学研究A	近代文学研究A	国語学研究A			
上代文学研究B	近代文学研究B	国語学研究B			
中古文学研究A	近代文学研究A	国語史研究A			
中古文学研究B	近代文学研究B	国語史研究B			
中世文学研究A	現代文学研究A				
中世文学研究B	現代文学研究B				
近世文学研究A					
近世文学研究B					
日本漢文学研究A					
日本漢文学研究B					
書誌学・浮世絵学・映像文化史・マンガ論					
国語科教育研究A・国語科教育研究B					
古文教材研究・漢文教材研究・現代文教材研究・国文法					

中間発表会（2年次）
修士論文

<履修イメージ>

基礎学問からより専門的な学問的知見の獲得を目指します。

初期段階で近接分野も履修

基本的な学問知識を土台に
専門科目を集中的に履修

博士後期課程への進学を視野に
研究者として更なる専門分野の研究
を行う



<教職モデル>

国語科教育研究A / 国語科教育研究B		
古文教材研究・漢文教材研究・現代文教材研究・国文法		
<中古・中世>	<近代・現代>	<国語学>
近世・漢文		
上代文学研究A	近代文学研究A	国語学研究A
上代文学研究B	近代文学研究B	国語学研究B
中古文学研究A	近代文学研究A	国語史研究A
中古文学研究B	近代文学研究B	国語史研究B
中世文学研究A	現代文学研究A	
中世文学研究B	現代文学研究B	
近世文学研究A		
近世文学研究B		
日本漢文学研究A		
日本漢文学研究B		
浮世絵学・映像文化史・マンガ論・書誌学		

中間発表会（2年次）
修士論文

<履修イメージ>

幅広く履修することで学問知識の修得から実践的教養までを網羅します。



国文学専攻博士後期課程

<履修方法について>

1. 専攻の科目を中心に16単位を履修すること。
2. 履修にあたっては研究者モデルのモデルケースがあるので、指導教授と相談の上、履修をすること。

授業科目名	英字授業科目名	単位	英語開講	担当者
上代文学特殊研究A	Ancient Japanese Literature A	2		休講
上代文学特殊研究B	Ancient Japanese Literature B	2		休講
中古文学特殊研究A	Japanese Literature in Heian Period A	2	教授	中川 照将
中古文学特殊研究B	Japanese Literature in Heian Period B	2	教授	中川 照将
中世文学特殊研究A	Japanese Literature in Middle Period A	2	教授	吉野 朋美
中世文学特殊研究B	Japanese Literature in Middle Period B	2	教授	吉野 朋美
近世文学特殊研究A	Japanese Literature in Edo Period A	2	教授	鈴木 俊幸
近世文学特殊研究B	Japanese Literature in Edo Period B	2	教授	鈴木 俊幸
近代文学特殊研究A	Modern Japanese Literature A	2	教授	山下 真史
近代文学特殊研究B	Modern Japanese Literature B	2	教授	山下 真史
近代文学特殊研究A	Modern Japanese Literature A	2		休講
近代文学特殊研究B	Modern Japanese Literature B	2		休講
現代文学特殊研究A	Contemporary Japanese Literature A	2	教授	宇佐美 毅
現代文学特殊研究B	Contemporary Japanese Literature B	2	教授	宇佐美 毅
国語学特殊研究A	History of the Japanese Language A	2	教授	藤原 浩史
国語学特殊研究B	History of the Japanese Language B	2	教授	藤原 浩史
日本漢文学特殊研究A	Japanese Literature written in Chinese Style A	2		休講
日本漢文学特殊研究B	Japanese Literature written in Chinese Style B	2		休講
国語史特殊研究A	History of the Japanese Language A	2		休講
国語史特殊研究B	History of the Japanese Language B	2		休講

<研究者モデル>

<中古・中世・近世・漢文>

<近代・現代>

<国語学>

上代文学特殊研究A	近代文学特殊研究A	国語学特殊研究A
上代文学特殊研究B	近代文学特殊研究B	国語学特殊研究B
中古文学特殊研究A	近代文学特殊研究A	国語史特殊研究A
中古文学特殊研究B	近代文学特殊研究B	国語史特殊研究B
中世文学特殊研究A	現代文学特殊研究A	
中世文学特殊研究B	現代文学特殊研究B	
近世文学特殊研究A		
近世文学特殊研究B		
日本漢文学特殊研究A		
日本漢文学特殊研究B		

指導教授を中心に
専門分野の探求

指導教授を中心に
専門分野の探求

指導教授を中心
に専門分野の
探求



国文学会その他、専門の学会での発表

博士学位候補資格の取得

博士學位請求論文

英文学専攻博士前期課程

<履修方法について>

※英語による科目は、表中の「英語」に○がついています。留学生、留学を希望する学生、専門分野を英語で学んでみようと思う学生は、是非履修してください。履修方法・履修条件は、一般的な科目と同じです。

1. 専攻の科目を中心に32単位を履修すること。

授業科目名	英字授業科目名	単位	英語開講	担当者
英文学研究(演劇)A	English Drama A	2		休講
英文学研究(演劇)B	English Drama B	2		休講
英文学研究(現代小説)A	English Novel (Twentieth and Twenty-First Century) A	2		休講
英文学研究(現代小説)B	English Novel (Twentieth and Twenty-First Century) B	2		教授 丹治 竜郎
英文学研究(近代小説)A	English Novel (Eighteenth and Nineteenth Century) A	2		教授 大田 美和
英文学研究(近代小説)B	English Novel (Eighteenth and Nineteenth Century) B	2		教授 大田 美和
英文学研究(詩)A	English Poetry A	2		教授 兼武 道子
英文学研究(詩)B	English Poetry B	2		教授 兼武 道子
英語圏文学研究 A	Literatures in English A	2		教授 中尾 秀博
英語圏文学研究 B	Literatures in English B	2		教授 中尾 秀博
米文学研究(近代)A	American Literature (Nineteenth Century) A	2		休講
米文学研究(近代)B	American Literature (Nineteenth Century) B	2		休講
米文学研究(現代Ⅰ)A	American Literature (Twentieth and Twenty-First Century) I A	2		教授 久保 尚美
米文学研究(現代Ⅰ)B	American Literature (Twentieth and Twenty-First Century) I B	2		教授 久保 尚美
米文学研究(現代Ⅱ)A	American Literature (Twentieth and Twenty-First Century) II A	2		教授 デール、ジョシュア・ポール
米文学研究(現代Ⅱ)B	American Literature (Twentieth and Twenty-First Century) II B	2		休講
米文学研究(現代Ⅲ)A	American Literature (Twentieth and Twenty-First Century) III A	2		教授 中野 学而
米文学研究(現代Ⅲ)B	American Literature (Twentieth and Twenty-First Century) III B	2		教授 中野 学而
英語学研究(意味論・語用論)A	Semantics and Pragmatics A	2		教授 松井 智子
英語学研究(意味論・語用論)B	Semantics and Pragmatics B	2		教授 松井 智子
英語学研究(形態論・統語論)A	Morphology and Syntax A	2		教授 若林 茂則
英語学研究(形態論・統語論)B	Morphology and Syntax B	2		教授 若林 茂則
英語学研究(音声学・音韻論)A	Phonetics and Phonology A	2	○	休講
英語学研究(音声学・音韻論)B	Phonetics and Phonology B	2	○	教授 マシューズ、 ジョン
英語学研究(言語習得論)A	Language Acquisition A	2		教授 平川 真規子
英語学研究(言語習得論)B	Language Acquisition B	2		教授 平川 真規子
英語学研究(社会言語学)A	Sociolinguistics A	2		休講
英語学研究(社会言語学)B	Sociolinguistics B	2		休講
英語学研究(心理言語学)A	Psycholinguistics A	2		兼任講師 矢野 雅貴
英語学研究(心理言語学)B	Psycholinguistics B	2		兼任講師 矢野 雅貴
英語学研究(英語史)A	Historical Linguistics A	2		休講
英語学研究(英語史)B	Historical Linguistics B	2		休講
英語教育研究ⅠA	TESOL Studies I A	2		准教授 福田 純也
英語教育研究ⅠB	TESOL Studies I B	2		准教授 福田 純也
英語教育研究ⅡA	TESOL Studies II A	2		休講
英語教育研究ⅡB	TESOL Studies II B	2		休講
英語教育のための文学文化研究ⅠA	Literary and Cultural Studies for TESOL I A	2		教授 丹治 竜郎
英語教育のための文学文化研究ⅠB	Literary and Cultural Studies for TESOL I B	2		休講
英語教育のための文学文化研究ⅡA	Literary and Cultural Studies for TESOL II A	2		休講
英語教育のための文学文化研究ⅡB	Literary and Cultural Studies for TESOL II B	2		教授 デール、ジョシュア・ポール
英語教育のための言語科学研究A	Language Science for TESOL A	2		教授 マシューズ、 ジョン
英語教育のための言語科学研究B	Language Science for TESOL B	2		休講
英語表現演習Ⅰ	English Scholarly Writing I	2	○	教授 マシューズ、 ジョン
英語表現演習Ⅱ	English Scholarly Writing II	2		教授 デール、ジョシュア・ポール
英語学術発表演習Ⅰ	Academic Presentation in English I	2		教授 若林 茂則
英語学術発表演習Ⅱ	Academic Presentation in English II	2		休講

<履修モデル>

<英語圏文学文化モデル>	<英語学・言語科学モデル>	<英語教育モデル>
英語圏の文学・文化を深く研究します。	英語による授業を中心に英語学・言語科学を学びます。	中高での英語教員に求められる専門的な知識と技術を身につけます。
英文学研究(演劇)A	英語学研究(意味論・語用論)A	英語教育研究ⅠA
英文学研究(演劇)B	英語学研究(意味論・語用論)B	英語教育研究ⅠB
英文学研究(現代小説)A	英語学研究(形態論・統語論)A	英語教育研究ⅡA
英文学研究(現代小説)B	英語学研究(形態論・統語論)B	英語教育研究ⅡB
英文学研究(近代小説)A	英語学研究(音声学・音韻論)A	英語教育のための文学文化研究ⅠA
英文学研究(近代小説)B	英語学研究(音声学・音韻論)B	英語教育のための文学文化研究ⅠB
英文学研究(詩)A	英語学研究(言語習得論)A	英語教育のための文学文化研究ⅡA
英文学研究(詩)B	英語学研究(言語習得論)B	英語教育のための文学文化研究ⅡB
英語圏文学研究 A	英語学研究(社会言語学)A	英語教育のための言語科学研究A
英語圏文学研究 B	英語学研究(社会言語学)B	英語教育のための言語科学研究B
米文学研究(近代)A	英語学研究(心理言語学)A	英語学術発表演習Ⅱ
米文学研究(近代)B	英語学研究(心理言語学)B	
米文学研究(現代Ⅰ)A	英語学研究(英語史)A	
米文学研究(現代Ⅰ)B	英語学研究(英語史)B	
米文学研究(現代Ⅱ)A	英語学術発表演習Ⅰ	
米文学研究(現代Ⅱ)B		
米文学研究(現代Ⅲ)A		
米文学研究(現代Ⅲ)B		
	英語表現演習Ⅰ 英語表現演習Ⅱ	

+

修士論文

<履修イメージ>

英語での論文執筆能力を鍛える「英語表現演習Ⅰ・Ⅱ」を1年次に履修することを推奨します。その上で、「英語圏文学文化モデル」、「英語学・言語科学モデル」、「英語教育モデル」から1つを選択し科目履修をしてください。各モデルに用意された科目を履修することで関連・隣接分野における積み上げ式の学修効果を狙います。

英文学専攻博士後期課程

<履修方法について>

1. 専攻の科目を中心に16単位を履修すること。

授業科目名	英字授業科目名	単位	英語開講	担当者
英文学特殊研究 I A	English Literature I A	2		休講
英文学特殊研究 I B	English Literature I B	2		休講
英文学特殊研究 II A	English Literature II A	2	教授	丹治 竜郎
英文学特殊研究 II B	English Literature II B	2	教授	丹治 竜郎
英文学特殊研究 III A	English Literature III A	2	教授	大田 美和
英文学特殊研究 III B	English Literature III B	2	教授	大田 美和
英文学特殊研究 IV A	English Literature IV A	2	教授	兼武 道子
英文学特殊研究 IV B	English Literature IV B	2	教授	兼武 道子
英文学特殊研究 V A	English Literature V A	2		休講
英文学特殊研究 V B	English Literature V B	2		休講
英文学特殊研究 VI A	English Literature VI A	2		休講
英文学特殊研究 VI B	English Literature VI B	2		休講
英文学特殊研究 VII A	English Literature VII A	2		休講
英文学特殊研究 VII B	English Literature VII B	2		休講
英文学特殊研究 VIII A	English Literature VIII A	2		休講
英文学特殊研究 VIII B	English Literature VIII B	2		休講
米文学特殊研究 I A	American Literature I A	2	教授	中尾 秀博
米文学特殊研究 I B	American Literature I B	2	教授	中尾 秀博
米文学特殊研究 II A	American Literature II A	2		休講
米文学特殊研究 II B	American Literature II B	2		休講
米文学特殊研究 III A	American Literature III A	2	教授	デー、ジョシュア・ポール
米文学特殊研究 III B	American Literature III B	2	教授	デー、ジョシュア・ポール
米文学特殊研究 IV A	American Literature IV A	2	教授	中野 学而
米文学特殊研究 IV B	American Literature IV B	2	教授	中野 学而
米文学特殊研究 V A	American Literature V A	2	教授	久保 尚美
米文学特殊研究 V B	American Literature V B	2	教授	久保 尚美
英語学特殊研究 I A	English Linguistics I A	2	教授	松井 智子
英語学特殊研究 I B	English Linguistics I B	2	教授	松井 智子
英語学特殊研究 II A	English Linguistics II A	2	教授	若林 茂則
英語学特殊研究 II B	English Linguistics II B	2	教授	若林 茂則
英語学特殊研究 III A	English Linguistics III A	2	教授	マシューズ、ジョン
英語学特殊研究 III B	English Linguistics III B	2	教授	マシューズ、ジョン
英語学特殊研究 IV A	English Linguistics IV A	2	教授	平川 真規子
英語学特殊研究 IV B	English Linguistics IV B	2	教授	平川 真規子
英語学特殊研究 V A	English Linguistics V A	2		休講
英語学特殊研究 V B	English Linguistics V B	2		休講

独文学専攻博士前期課程

<履修方法について>

※英語による科目は、表中の「英語」に○がついています。留学生、留学を希望する学生、専門分野を英語で学んでみようと思う学生は、是非履修してください。履修方法・履修条件は、一般的な科目と同じです。

1. 専攻の科目を中心に32単位を履修すること。

授業科目名	英字授業科目名	単位	英語開講	担当者
ドイツ文学演習A	German Literature A (Seminar)	2		休講
ドイツ文学演習B	German Literature A (Seminar)	2		休講
ドイツ語学・教授法演習A	German Linguistics A (Seminar)	2	教授	林 明子
ドイツ語学・教授法演習B	German Linguistics B (Seminar)	2	教授	林 明子
ドイツ文化演習A	German Culture A (Seminar)	2	准教授	チジャック, オルガ
ドイツ文化演習B	German Culture B (Seminar)	2	准教授	チジャック, オルガ
ドイツ芸術論演習A	German Art A (Seminar)	2	教授	縄田 雄二
ドイツ芸術論演習B	German Art B (Seminar)	2	教授	縄田 雄二
ドイツ社会誌演習A	Contemporary German History and Society A (Seminar)	2	教授	磯部 裕幸
ドイツ社会誌演習B	Contemporary German History and Society B (Seminar)	2	教授	磯部 裕幸
比較文学・比較文化演習A	Comparative Literature and Culture A (Seminar)	2	教授	羽根 礼華
比較文学・比較文化演習B	Comparative Literature and Culture B (Seminar)	2	教授	羽根 礼華
学術ドイツ語・研究法演習A	German for Academic Purposes A (Seminar)	2	兼任講師	シュミット, マリア ガブリエラ
学術ドイツ語・研究法演習B	German for Academic Purposes B (Seminar)	2	兼任講師	シュミット, マリア ガブリエラ
ドイツ文化論研究 A	German Studies A	2		縄田 雄二／林 明子／磯部 裕幸 ／羽根 礼華／チジャック, オルガ
ドイツ文化論研究 B	German Studies B	2		縄田 雄二／林 明子／磯部 裕幸 ／羽根 礼華／チジャック, オルガ

独文学専攻博士後期課程

<履修方法について>

1. 専攻の科目を中心に16単位を履修すること。

授業科目名	英字授業科目名	単位	英語 開講	担当者
ドイツ文学特殊研究A	German Literature A	2		休講
ドイツ文学特殊研究B	German Literature B	2		休講
ドイツ語学・教授法特殊研究 A	German Linguistics A	2	教授	林 明子
ドイツ語学・教授法特殊研究 B	German Linguistics B	2	教授	林 明子
ドイツ文化特殊研究 A	German Culture A	2	准教授	チジャック, オルガ
ドイツ文化特殊研究 B	German Culture B	2	准教授	チジャック, オルガ
ドイツ芸術論特殊研究A	German Art A	2	教授	縄田 雄二
ドイツ芸術論特殊研究B	German Art B	2	教授	縄田 雄二
ドイツ社会誌特殊研究A	Contemporary German History and Society A	2	教授	磯部 裕幸
ドイツ社会誌特殊研究B	Contemporary German History and Society B	2	教授	磯部 裕幸
比較文学・比較文化特殊研究A	Comparative Literature and Culture A	2	教授	羽根 礼華
比較文学・比較文化特殊研究B	Comparative Literature and Culture B	2	教授	羽根 礼華

仏文学専攻文学文化コース博士前期課程

<履修方法について>

※英語による科目は、表中の「英語」に○がついています。留学生、留学を希望する学生、専門分野を英語で学んでみようと思う学生は、是非履修してください。履修方法・履修条件は、一般的な科目と同じです。

1. 専攻の科目を中心に32単位を履修すること。

授業科目名	英字授業科目名	単位	英語開講	担当者
フランス古典啓蒙文学演習 A	Classic&Enlightenment French Literature A (Seminar)	2		教授 田口 卓臣
フランス古典啓蒙文学演習 B	Classic&Enlightenment French Literature B (Seminar)	2		教授 田口 卓臣
フランス近代文学演習 A	Modern French Literature A (Seminar)	2		教授 小野 潮
フランス近代文学演習 B	Modern French Literature B (Seminar)	2		教授 小野 潮
フランス現代文学演習 A	Contemporary French Literature A (Seminar)	2		准教授 学谷 亮
フランス現代文学演習 B	Contemporary French Literature B (Seminar)	2		准教授 学谷 亮
フランス詩演習 A	French Poetry A (Seminar)	2		教授 前之園 望
フランス詩演習 B	French Poetry B (Seminar)	2		教授 前之園 望
フランス演劇・映画演習 A	French Drama & Movie A (Seminar)	2		休講
フランス演劇・映画演習 B	French Drama & Movie B (Seminar)	2		休講
フランス言語思想演習 A	French Linguistic Philosophy A (Seminar)	2		休講
フランス言語思想演習 B	French Linguistic Philosophy B (Seminar)	2		休講
フランス文化・社会史演習 A	French Cultural & Social History A (Seminar)	2		教授 フェリエ, ミカエル フランキー
フランス文化・社会史演習 B	French Cultural & Social History B (Seminar)	2		教授 フェリエ, ミカエル フランキー
フランス近代美術史演習 A	History of Modern French Art A (Seminar)	2		教授 阿部 成樹
フランス近代美術史演習 B	History of Modern French Art B (Seminar)	2		教授 阿部 成樹
フランス近代美術史演習 A	History of Modern French Art A (Seminar)	2		教授 泉 美知子
フランス近代美術史演習 B	History of Modern French Art B (Seminar)	2		教授 泉 美知子

仏文学専攻美術史コース博士前期課程

<履修方法について>

※英語による科目は、表中の「英語」に○がついています。留学生、留学を希望する学生、専門分野を英語で学んでみようと思う学生は、是非履修してください。履修方法・履修条件は、一般的な科目と同じです。

1. 必修科目を含め、専攻の科目を中心に32単位を履修すること。

科目群	授業科目名	英字授業科目名	単位	英語開講	担当者
必修	フランス近代美術史演習 A	History of Modern French Art A (Seminar)	2		教授 阿部 成樹
	フランス近代美術史演習 B	History of Modern French Art B (Seminar)	2		教授 阿部 成樹
	フランス近代美術史演習 A	History of Modern French Art A (Seminar)	2		教授 泉 美知子
	フランス近代美術史演習 B	History of Modern French Art B (Seminar)	2		教授 泉 美知子
選択必修	フランス古典啓蒙文学演習 A	Classic&Enlightenment French Literature A (Seminar)	2		教授 田口 卓臣
	フランス古典啓蒙文学演習 B	Classic&Enlightenment French Literature B (Seminar)	2		教授 田口 卓臣
	フランス近代文学演習 A	Modern French Literature A (Seminar)	2		教授 小野 潮
	フランス近代文学演習 B	Modern French Literature B (Seminar)	2		教授 小野 潮
	フランス現代文学演習 A	Contemporary French Literature A (Seminar)	2		准教授 学谷 亮
	フランス現代文学演習 B	Contemporary French Literature B (Seminar)	2		准教授 学谷 亮
	フランス詩演習 A	French Poetry A (Seminar)	2		教授 前之園 望
	フランス詩演習 B	French Poetry B (Seminar)	2		教授 前之園 望
	フランス演劇・映画演習 A	French Drama & Movie A (Seminar)	2		休講
	フランス演劇・映画演習 B	French Drama & Movie B (Seminar)	2		休講
	フランス言語思想演習 A	French Linguistic Philosophy A (Seminar)	2		休講
	フランス言語思想演習 B	French Linguistic Philosophy B (Seminar)	2		休講
	フランス文化・社会史演習 A	French Cultural & Social History A (Seminar)	2		教授 フェリエ, ミカエル フランキー
	フランス文化・社会史演習 B	French Cultural & Social History B (Seminar)	2		教授 フェリエ, ミカエル フランキー

仏文学専攻博士後期課程

<履修方法について>

1. 専攻の科目を中心に16単位を履修すること。

授業科目名	英字授業科目名	単位	英語 開講	担当者
フランス古典啓蒙文学特殊研究 A	Classic&Enlightenment French A	2		教授 田口 卓臣
フランス古典啓蒙文学特殊研究 B	Classic&Enlightenment French B	2		教授 田口 卓臣
フランス近代文学特殊研究 A	Modern French Literature A	2		教授 小野 潮
フランス近代文学特殊研究 B	Modern French Literature B	2		教授 小野 潮
フランス現代文学特殊研究 A	Contemporary French Literature A	2		休講
フランス現代文学特殊研究 B	Contemporary French Literature B	2		休講
フランス詩特殊研究 A	French Poetry A	2		休講
フランス詩特殊研究 B	French Poetry B	2		休講
フランス演劇・映画特殊研究 A	French Drama & Movie A	2		休講
フランス演劇・映画特殊研究 B	French Drama & Movie B	2		休講
フランス言語思想特殊研究 A	French Linguistic Philosophy A	2		休講
フランス言語思想特殊研究 B	French Linguistic Philosophy B	2		休講
フランス文化・社会史特殊研究 A	French Cultural & Social History A	2		教授 フェリエ, ミカエル フランキー
フランス文化・社会史特殊研究 B	French Cultural & Social History B	2		教授 フェリエ, ミカエル フランキー
フランス近代美術史特殊研究 A	History of Modern French Art A	2		教授 阿部 成樹
フランス近代美術史特殊研究 B	History of Modern French Art B	2		教授 阿部 成樹
フランス近代美術史特殊研究 A	History of Modern French Art A	2		教授 泉 美知子
フランス近代美術史特殊研究 B	History of Modern French Art B	2		教授 泉 美知子

中国言語文化専攻博士前期課程

<履修方法について>

※英語による科目は、表中の「英語」に○がついています。留学生、留学を希望する学生、専門分野を英語で学んでみようと思う学生は、是非履修してください。履修方法・履修条件は、一般的な科目と同じです。

1. 専攻の科目を中心に32単位を履修すること。

授業科目名	英字授業科目名	単位	英語開講	担当者
中国現代文学演習A	Contemporary Chinese Literature A (Seminar)	2		准教授 明田川 聡士
中国現代文学演習B	Contemporary Chinese Literature B (Seminar)	2		准教授 明田川 聡士
中国古典文学演習A	Classical Chinese Literature A (Seminar)	2		教授 材木谷 敦
中国古典文学演習B	Classical Chinese Literature B (Seminar)	2		教授 材木谷 敦
中国思想文化演習A	Chinese Thought and Culture A (Seminar)	2		教授 及川 淳子
中国思想文化演習B	Chinese Thought and Culture B (Seminar)	2		教授 及川 淳子
日中比較文化演習A	Chinese-Japanese Comparative Culture A (Seminar)	2		教授 榎本 泰子
日中比較文化演習B	Chinese-Japanese Comparative Culture B (Seminar)	2		教授 榎本 泰子
中国語現代文法演習A	Contemporary Chinese Grammar A (Seminar)	2		教授 石村 広
中国語現代文法演習B	Contemporary Chinese Grammar B (Seminar)	2		教授 石村 広
中国語語彙論演習A	Chinese Lexical Studies A (Seminar)	2		休講
中国語語彙論演習B	Chinese Lexical Studies B (Seminar)	2		休講
中国語表現演習A	Academic Chinese A (Seminar)	2		兼任講師 李 佳樑
中国語表現演習B	Academic Chinese B (Seminar)	2		兼任講師 李 佳樑
中国語翻訳演習A	Chinese Translation Studies A (Seminar)	2		准教授 明田川 聡士
中国語翻訳演習B	Chinese Translation Studies B (Seminar)	2		准教授 明田川 聡士

中国言語文化専攻博士後期課程

<履修方法について>

1. 専攻の科目を中心に16単位を履修すること。

授業科目名	英字授業科目名	単位	英語 開講	担当者	
中国語学特殊研究ⅠA	Chinese LinguisticsⅠA	2		教授	石村 広
中国語学特殊研究ⅠB	Chinese LinguisticsⅠB	2		教授	石村 広
中国語学特殊研究ⅡA	Chinese LinguisticsⅡA	2		兼任講師	李 佳樑
中国語学特殊研究ⅡB	Chinese LinguisticsⅡB	2		兼任講師	李 佳樑
中国文学特殊研究ⅠA	Chinese LiteratureⅠA	2		准教授	明田川 聡士
中国文学特殊研究ⅠB	Chinese LiteratureⅠB	2		准教授	明田川 聡士
中国文学特殊研究ⅡA	Chinese LiteratureⅡA	2		教授	材木谷 敦
中国文学特殊研究ⅡB	Chinese LiteratureⅡB	2		教授	材木谷 敦
中国文化特殊研究ⅠA	Chinese CultureⅠA	2		教授	及川 淳子
中国文化特殊研究ⅠB	Chinese CultureⅠB	2		教授	及川 淳子
中国文化特殊研究ⅡA	Chinese CultureⅡA	2		教授	榎本 泰子
中国文化特殊研究ⅡB	Chinese CultureⅡB	2		教授	榎本 泰子

日本史学専攻博士前期課程

<履修方法について>

※英語による科目は、表中の「英語」に○がついています。留学生、留学を希望する学生、専門分野を英語で学んでみようと思う学生は、是非履修してください。履修方法・履修条件は、一般的な科目と同じです。

1. 専攻の科目を中心に32単位を履修すること。

授業科目名	英字授業科目名	単位	英語開講	担当者
日本古代史演習ⅠA	Ancient Japanese History I A (Seminar)	2		准教授 志村 佳名子
日本古代史演習ⅠB	Ancient Japanese History I B (Seminar)	2		准教授 志村 佳名子
日本古代史演習ⅡA	Ancient Japanese History II A (Seminar)	2		教授 白根 靖大
日本古代史演習ⅡB	Ancient Japanese History II B (Seminar)	2		兼任講師 佐々木 憲一
日本古代史演習ⅢA	Ancient Japanese History III A (Seminar)	2		兼任講師 榎本 淳一
日本古代史演習ⅢB	Ancient Japanese History III B (Seminar)	2		兼任講師 榎本 淳一
日本中世史演習ⅠA	Japanese History in the Middle Ages I A (Seminar)	2		教授 西川 広平
日本中世史演習ⅠB	Japanese History in the Middle Ages I B (Seminar)	2		教授 西川 広平
日本中世史演習ⅡA	Japanese History in the Middle Ages II A (Seminar)	2		兼任講師 榎原 雅治
日本中世史演習ⅡB	Japanese History in the Middle Ages II B (Seminar)	2		兼任講師 榎原 雅治
日本中世史演習ⅢA	Japanese History in the Middle Ages III A	2		休講
日本中世史演習ⅢB	Japanese History in the Middle Ages III B	2		休講
日本近世史演習ⅠA	Early Modern Japanese History I A (Seminar)	2		教授 山崎 圭
日本近世史演習ⅠB	Early Modern Japanese History I B (Seminar)	2		教授 山崎 圭
日本近世史演習ⅡA	Early Modern Japanese History II A (Seminar)	2		兼任講師 渡辺 浩一
日本近世史演習ⅡB	Early Modern Japanese History II B (Seminar)	2		兼任講師 渡辺 浩一
日本近代史演習ⅠA	Modern Japanese History I A (Seminar)	2		准教授 清水 善仁
日本近代史演習ⅠB	Modern Japanese History I B (Seminar)	2		准教授 清水 善仁
日本近代史演習ⅡA	Modern Japanese History II A (Seminar)	2		兼任講師 三村 昌司
日本近代史演習ⅡB	Modern Japanese History II B (Seminar)	2		兼任講師 三村 昌司
日本政治史演習ⅠA	Political History of Japan I A (Seminar)	2		教授 白根 靖大
日本政治史演習ⅠB	Political History of Japan I B (Seminar)	2		教授 白根 靖大
日本政治史演習ⅡA	Political History of Japan II A (Seminar)	2		兼任講師 藤實 久美子
日本政治史演習ⅡB	Political History of Japan II B (Seminar)	2		兼任講師 藤實 久美子
日本政治史演習ⅢA	Political History of Japan III A (Seminar)	2		兼任講師 加藤 聖文
日本政治史演習ⅢB	Political History of Japan III B (Seminar)	2		兼任講師 加藤 聖文
日本考古学演習A	Japanese Archaeology A (Seminar)	2		教授 小林 謙一
日本考古学演習B	Japanese Archaeology B (Seminar)	2		教授 小林 謙一
史料管理学研究	records management	4		教授 山崎 圭
考古学研究A	Archaeological Studies A	2		兼任講師 櫻井 準也
考古学研究B	Archaeological Studies B	2		兼任講師 櫻井 準也
歴史教育研究Ⅰ	History Education Research I	2		兼任講師 松岡 昌和
歴史教育研究Ⅱ	History Education Research II	2		特任教授 大西 信行
史料教材研究Ⅰ	Historical Sources as Teaching Materials I	2		新免 康／高橋 宏明／阿部 幸信／鈴木 恵美／木村 拓／唐橋 文／鈴木 直志／杉崎 泰一郎／堀内 隆行
史料教材研究Ⅱ	Historical Sources as Teaching Materials II	2		小林 謙一／清水 善仁／志村 佳名子／白根 靖大／西川 広平／山崎 圭
アーカイブズ法制論	Theory on Archives Legislation	2		清水 善仁／村上 裕章
地域アーカイブズ論	Theory on Local Archives	2		兼任講師 福嶋 紀子
アーカイブズ学研究A	Archival Science A	2		准教授 清水 善仁
アーカイブズ学研究B	Archival Science B	2		准教授 清水 善仁

日本史学専攻博士後期課程

<履修方法について>

1. 専攻の科目を中心に16単位を履修すること。

授業科目名	英字授業科目名	単位	英語 開講	担当者
日本古代史特殊研究A	Ancient Japanese History A	2		教授 白根 靖大
日本古代史特殊研究B	Ancient Japanese History B	2		兼任講師 佐々木 憲一
日本中世史特殊研究A	Japanese History in the Middle Ages A	2		休講
日本中世史特殊研究B	Japanese History in the Middle Ages B	2		休講
日本中世史特殊研究A	Japanese History in the Middle Ages A	2		教授 西川 広平
日本中世史特殊研究B	Japanese History in the Middle Ages B	2		教授 西川 広平
日本近世史特殊研究A	Early Modern Japanese History A	2		教授 山崎 圭
日本近世史特殊研究B	Early Modern Japanese History B	2		教授 山崎 圭
日本近代史特殊研究A	Modern Japanese History A	2		休講
日本近代史特殊研究B	Modern Japanese History B	2		休講
日本近代史特殊研究A	Modern Japanese History A	2		兼任講師 三村 昌司
日本近代史特殊研究B	Modern Japanese History B	2		兼任講師 三村 昌司
日本政治史特殊研究 I A	Political History of Japan I A	2		教授 白根 靖大
日本政治史特殊研究 I B	Political History of Japan I B	2		教授 白根 靖大
日本政治史特殊研究 II A	Political History of Japan II A	2		兼任講師 加藤 聖文
日本政治史特殊研究 II B	Political History of Japan II B	2		兼任講師 加藤 聖文
日本史学特殊研究 I A	Japanese History I A	2		兼任講師 榎本 淳一
日本史学特殊研究 I B	Japanese History I B	2		兼任講師 榎本 淳一
日本史学特殊研究 II A	Japanese History II A	2		兼任講師 渡辺 浩一
日本史学特殊研究 II B	Japanese History II B	2		兼任講師 渡辺 浩一
日本史学特殊研究 II A	Japanese History II A	2		兼任講師 榎原 雅治
日本史学特殊研究 II B	Japanese History II B	2		兼任講師 榎原 雅治
日本考古学特殊研究A	Japanese Archaeology A	2		教授 小林 謙一
日本考古学特殊研究B	Japanese Archaeology B	2		教授 小林 謙一
史料学特殊研究	Archival Science	4		教授 山崎 圭

東洋史学専攻博士前期課程

<履修方法について>

※英語による科目は、表中の「英語」に○がついています。留学生、留学を希望する学生、専門分野を英語で学んでみようと思う学生は、是非履修してください。履修方法・履修条件は、一般的な科目と同じです。

1. 専攻の科目を中心に32単位を履修すること。

授業科目名	英字授業科目名	単位	英語開講	担当者
中国古代史特講A	Ancient Chinese History A	2	教授	阿部 幸信
中国古代史特講B	Ancient Chinese History B	2	教授	阿部 幸信
中国古代史演習A	Ancient Chinese History A (Seminar)	2	教授	阿部 幸信
中国古代史演習B	Ancient Chinese History B (Seminar)	2	教授	阿部 幸信
中国中世史特講A	Chinese History in the Middle Ages A	2		休講
中国中世史特講B	Chinese History in the Middle Ages B	2		休講
中国中世史演習A	Chinese History in the Middle Ages A (Seminar)	2		休講
中国中世史演習B	Chinese History in the Middle Ages B (Seminar)	2		休講
中国近世史特講A	Chinese History in the Early Modern Ages A	2	教授	木村 拓
中国近世史特講B	Chinese History in the Early Modern Ages B	2	教授	木村 拓
中国近世史演習A	Chinese History in the Early Modern Ages A (Seminar)	2	教授	木村 拓
中国近世史演習B	Chinese History in the Early Modern Ages B (Seminar)	2	教授	木村 拓
中国近代史特講A	Modern Chinese History A	2		休講
中国近代史特講B	Modern Chinese History B	2		休講
中国近代史演習A	Modern Chinese History A (Seminar)	2		休講
中国近代史演習B	Modern Chinese History B (Seminar)	2		休講
中央ユーラシア史特講A	Central Eurasian History A	2	教授	新免 康
中央ユーラシア史特講B	Central Eurasian History B	2	教授	新免 康
中央ユーラシア史演習A	Central Eurasian History A (Seminar)	2	教授	新免 康
中央ユーラシア史演習B	Central Eurasian History B (Seminar)	2	教授	新免 康
イスラーム史特講A	Islamic History A	2	教授	鈴木 恵美
イスラーム史特講B	Islamic History B	2	教授	鈴木 恵美
イスラーム史演習A	Islamic History A (Seminar)	2	教授	鈴木 恵美
イスラーム史演習B	Islamic History B (Seminar)	2	教授	鈴木 恵美
東南アジア史特講A	Southeast Asian History A	2	教授	高橋 宏明
東南アジア史特講B	Southeast Asian History B	2	教授	高橋 宏明
東南アジア史演習A	Southeast Asian History A (Seminar)	2	教授	高橋 宏明
東南アジア史演習B	Southeast Asian History B (Seminar)	2	教授	高橋 宏明
東洋文化特講A	Study on Asian Culture A	2		休講
東洋文化特講B	Study on Asian Culture B	2		休講
歴史教育研究 I	History Education Research I	2	兼任講師	松岡 昌和
歴史教育研究 II	History Education Research II	2	特任教授	大西 信行
史料教材研究 I	Historical Sources as Teaching Materials I	2		新免 康／高橋 宏明／阿部 幸信 ／鈴木 恵美／木村 拓／唐橋 文 ／鈴木 直志／杉崎 泰一郎／堀内 隆行
史料教材研究 II	Historical Sources as Teaching Materials II	2		小林 謙一／清水 善仁／志村 佳 名子／白根 靖大／西川 広平／山 崎 圭

東洋史学専攻博士後期課程

<履修方法について>

1. 専攻の科目を中心に16単位を履修すること。

授業科目名	英字授業科目名	単位	英語開講	担当者
中国古代史特殊研究A	Ancient Chinese History A	2		教授 阿部 幸信
中国古代史特殊研究B	Ancient Chinese History B	2		教授 阿部 幸信
中国中世史特殊研究A	Chinese History in the Middle Ages A	2		休講
中国中世史特殊研究B	Chinese History in the Middle Ages B	2		休講
中国近世史特殊研究A	Chinese History in the Early Modern Ages A	2		休講
中国近世史特殊研究B	Chinese History in the Early Modern Ages B	2		休講
中国近代史特殊研究A	Modern Chinese History A	2		休講
中国近代史特殊研究B	Modern Chinese History B	2		休講
中央ユーラシア史特殊研究A	Central Eurasian History A	2		教授 新免 康
中央ユーラシア史特殊研究B	Central Eurasian History B	2		教授 新免 康
イスラーム史特殊研究A	Islamic History A	2		教授 鈴木 恵美
イスラーム史特殊研究B	Islamic History B	2		教授 鈴木 恵美
東南アジア史特殊研究A	Southeast Asian History A	2		教授 高橋 宏明
東南アジア史特殊研究B	Southeast Asian History B	2		教授 高橋 宏明
東洋史学特殊研究(朝鮮史)A	Study on Asian History A (Korean History)	2		教授 木村 拓
東洋史学特殊研究(朝鮮史)B	Study on Asian History B (Korean History)	2		教授 木村 拓
東洋文化特殊研究A	Study on Asian Culture A	2		休講
東洋文化特殊研究B	Study on Asian Culture B	2		休講

西洋史学専攻博士前期課程

<履修方法について>

※英語による科目は、表中の「英語」に○がついています。留学生、留学を希望する学生、専門分野を英語で学んでみようと思う学生は、是非履修してください。履修方法・履修条件は、一般的な科目と同じです。

1. 専攻の科目を中心に32単位を履修すること。

授業科目名	英字授業科目名	単位	英語 開講	担当者
西洋古代史演習ⅠA	Ancient History I A (Seminar)	2		教授 唐橋 文
西洋古代史演習ⅠB	Ancient History I B (Seminar)	2		教授 唐橋 文
西洋古代史演習ⅡA	Ancient History II A (Seminar)	2		教授 唐橋 文
西洋古代史演習ⅡB	Ancient History II B (Seminar)	2		教授 唐橋 文
西洋古代史演習ⅢA	Ancient History III A (Seminar)	2		兼任講師 山田 雅道
西洋古代史演習ⅢB	Ancient History III B (Seminar)	2		兼任講師 山田 雅道
西洋中世史演習ⅠA	Medieval History I A (Seminar)	2		教授 杉崎 泰一郎
西洋中世史演習ⅠB	Medieval History I B (Seminar)	2		教授 杉崎 泰一郎
西洋中世史演習ⅡA	Medieval History II A (Seminar)	2		教授 杉崎 泰一郎
西洋中世史演習ⅡB	Medieval History II B (Seminar)	2		教授 杉崎 泰一郎
西洋近世史演習ⅠA	Early Modern History I A (Seminar)	2		教授 鈴木 直志
西洋近世史演習ⅠB	Early Modern History I B (Seminar)	2		教授 鈴木 直志
西洋近世史演習ⅡA	Early Modern History II A (Seminar)	2		教授 鈴木 直志
西洋近世史演習ⅡB	Early Modern History II B (Seminar)	2		教授 鈴木 直志
西洋近代史演習ⅠA	Early Modern History I A (Seminar)	2		休講
西洋近代史演習ⅠB	Early Modern History I B (Seminar)	2		休講
西洋近代史演習ⅡA	Early Modern History II A (Seminar)	2		休講
西洋近代史演習ⅡB	Early Modern History II B (Seminar)	2		休講
西洋現代史演習A	Modern History A (Seminar)	2		教授 堀内 隆行
西洋現代史演習B	Modern History B (Seminar)	2		教授 堀内 隆行
西洋史基礎演習ⅠA	Western History I A (Basic Seminar)	2		教授 堀内 隆行
西洋史基礎演習ⅠB	Western History I B (Basic Seminar)	2		教授 堀内 隆行
西洋史基礎演習ⅡA	Western History II A (Basic Seminar)	2		教授 堀内 隆行
西洋史基礎演習ⅡB	Western History II B (Basic Seminar)	2		教授 堀内 隆行
歴史教育研究Ⅰ	History Education Research I	2		兼任講師 松岡 昌和
歴史教育研究Ⅱ	History Education Research II	2		特任教授 大西 信行
史料教材研究Ⅰ	Historical Sources as Teaching Materials I	2		阿部 幸信／高橋 宏明／木村 拓 ／新免 康／鈴木 恵美／唐橋 文 ／杉崎 泰一郎／鈴木 直志／堀内 隆行
史料教材研究Ⅱ	Historical Sources as Teaching Materials II	2		小林 謙一／清水 善仁／志村 佳 名子／白根 靖大／西川 広平／山 崎 圭

西洋史学専攻博士後期課程

<履修方法について>

1. 専攻の科目を中心に16単位を履修すること。

授業科目名	英字授業科目名	単位	英語 開講	担当者	
西洋現代史特殊研究A	Modern and Contemporary History A	2		教授	堀内 隆行
西洋現代史特殊研究B	Modern and Contemporary History B	2		教授	堀内 隆行
西洋近代史特殊研究A	Early Modern History A	2			休講
西洋近代史特殊研究B	Early Modern History B	2			休講
西洋近世史特殊研究A	Modern and Contemporary History A	2		教授	鈴木 直志
西洋近世史特殊研究B	Modern and Contemporary History B	2		教授	鈴木 直志
西洋中世史特殊研究A	Medieval History A	2		教授	杉崎 泰一郎
西洋中世史特殊研究B	Medieval History B	2		教授	杉崎 泰一郎
西洋古代史特殊研究A	Ancient History A	2		教授	唐橋 文
西洋古代史特殊研究B	Ancient History B	2		教授	唐橋 文

哲学専攻博士前期課程

<履修方法について>

※英語による科目は、表中の「英語」に○がついています。留学生、留学を希望する学生、専門分野を英語で学んでみようと思う学生は、是非履修してください。履修方法・履修条件は、一般的な科目と同じです。

1. 専攻の科目を中心に32単位を履修すること。

授業科目名	英字授業科目名	単位	英語 開講	担当者
西洋古代中世哲学研究ⅠA	Ancient and Medieval Philosophy I A	2		教授 出村 和彦
西洋古代中世哲学研究ⅠB	Ancient and Medieval Philosophy I B	2		教授 出村 和彦
西洋古代中世哲学研究ⅡA	Ancient and Medieval Philosophy II A	2		教授 出村 和彦
西洋古代中世哲学研究ⅡB	Ancient and Medieval Philosophy II B	2		教授 出村 和彦
西洋近世哲学研究ⅠA	European Philosophy in the Early Modern Ages I A	2		教授 青木 滋之
西洋近世哲学研究ⅠB	European Philosophy in the Early Modern Ages I B	2		教授 青木 滋之
西洋近世哲学研究ⅡA	European Philosophy in the Early Modern Ages II A	2		教授 青木 滋之
西洋近世哲学研究ⅡB	European Philosophy in the Early Modern Ages II B	2		教授 青木 滋之
西洋近代哲学研究ⅠA	Modern European Philosophy I A	2		教授 寺本 剛
西洋近代哲学研究ⅠB	Modern European Philosophy I B	2		教授 寺本 剛
西洋近代哲学研究ⅡA	Modern European Philosophy II A	2		教授 寺本 剛
西洋近代哲学研究ⅡB	Modern European Philosophy II B	2		教授 寺本 剛
西洋近代哲学研究ⅠA	Modern European Philosophy I A	2		休講
西洋近代哲学研究ⅠB	Modern European Philosophy I B	2		休講
西洋現代哲学研究ⅠA	Contemporary European Philosophy I A	2		教授 中村 昇
西洋現代哲学研究ⅠB	Contemporary European Philosophy I B	2		教授 中村 昇
西洋現代哲学研究ⅡA	Contemporary European Philosophy II A	2		教授 中村 昇
西洋現代哲学研究ⅡB	Contemporary European Philosophy II B	2		教授 中村 昇
中国哲学研究ⅠA	Chinese Philosophy I A	2		教授 水上 雅晴
中国哲学研究ⅠB	Chinese Philosophy I B	2		教授 水上 雅晴
中国哲学研究ⅡA	Chinese Philosophy II A	2		教授 水上 雅晴
中国哲学研究ⅡB	Chinese Philosophy II B	2		教授 水上 雅晴
日本倫理思想研究ⅠA	History of Moral Philosophy in Japan I A	2		教授 大川 真
日本倫理思想研究ⅠB	History of Moral Philosophy in Japan I B	2		教授 大川 真
日本倫理思想研究ⅡA	History of Moral Philosophy in Japan II A	2		教授 大川 真
日本倫理思想研究ⅡB	History of Moral Philosophy in Japan II B	2		教授 大川 真
日本倫理思想研究ⅠA	History of Moral Philosophy in Japan I A	2		兼任講師 日野 慧運
日本倫理思想研究ⅠB	History of Moral Philosophy in Japan I B	2		兼任講師 日野 慧運
科学哲学A	Philosophy of Science A	2		兼任講師 伊佐敷 隆弘
科学哲学B	Philosophy of Science B	2		兼任講師 伊佐敷 隆弘

哲学専攻博士後期課程

<履修方法について>

1. 専攻の科目を中心に16単位を履修すること。

授業科目名	英字授業科目名	単位	英語 開講	担当者
西洋古代中世哲学特殊研究A	Ancient and Medieval Philosophy A	2		教授 出村 和彦
西洋古代中世哲学特殊研究B	Ancient and Medieval Philosophy B	2		教授 出村 和彦
西洋近世哲学特殊研究A	European Philosophy in the Early Modern Ages A	2		教授 青木 滋之
西洋近世哲学特殊研究B	European Philosophy in the Early Modern Ages B	2		教授 青木 滋之
西洋近代哲学特殊研究A	Modern European Philosophy A	2		教授 寺本 剛
西洋近代哲学特殊研究B	Modern European Philosophy B	2		教授 寺本 剛
西洋現代哲学特殊研究A	Contemporary European Philosophy A	2		教授 中村 昇
西洋現代哲学特殊研究B	Contemporary European Philosophy B	2		教授 中村 昇
日本倫理思想特殊研究A	History of Moral Philosophy in Japan A	2		教授 大川 真
日本倫理思想特殊研究B	History of Moral Philosophy in Japan B	2		教授 大川 真
日本倫理思想特殊研究A	History of Moral Philosophy in Japan A	2		休講
日本倫理思想特殊研究B	History of Moral Philosophy in Japan B	2		休講
中国哲学特殊研究A	Chinese Philosophy A	2		教授 水上 雅晴
中国哲学特殊研究B	Chinese Philosophy B	2		教授 水上 雅晴
科学哲学特殊研究A	Philosophy of Science A	2		兼任講師 伊佐敷 隆弘
科学哲学特殊研究B	Philosophy of Science B	2		兼任講師 伊佐敷 隆弘

社会学専攻 博士前期課程 ≪2020年度以降入学生対象≫

<履修方法について>

※英語による科目は、表中の「英語」に○がついています。留学生、留学を希望する学生、専門分野を英語で学んでみようと思う学生は、是非履修してください。履修方法・履修条件は、一般的な科目と同じです。

1. 科目群「必修科目」の科目を全て履修し、科目群「選択必修科目」については以下の「2.」に従い履修すること。つまり、必修科目、選択必修科目を履修し修了に必要な単位数32単位を満たすようすべての科目群から履修をすること。
2. 「社会学プロジェクト演習Ⅰ～Ⅵ」については、以下の3群(①、②、③)に分かれています。
 - ①群「社会学プロジェクト演習(グローバル)」
 - ②群「社会学プロジェクト演習(ヴィジョナリー)」
 - ③群「社会学プロジェクト演習(クリニカル)」
 また、履修方法については Semester 毎に指定されています。(次頁参照)
3. 修士論文の提出条件としてQualifying Examが設定されているので、必ず受験をすること。(次頁参照)
4. 社会学専攻では文学研究科共通科目(29頁参照)「特殊講義(アカデミック・ライティングの方法と実践)」あるいは「特殊講義(留学生のためのアカデミック・ライティングⅠ基礎編)」のどちらかを1年次に履修することを強く推奨します。

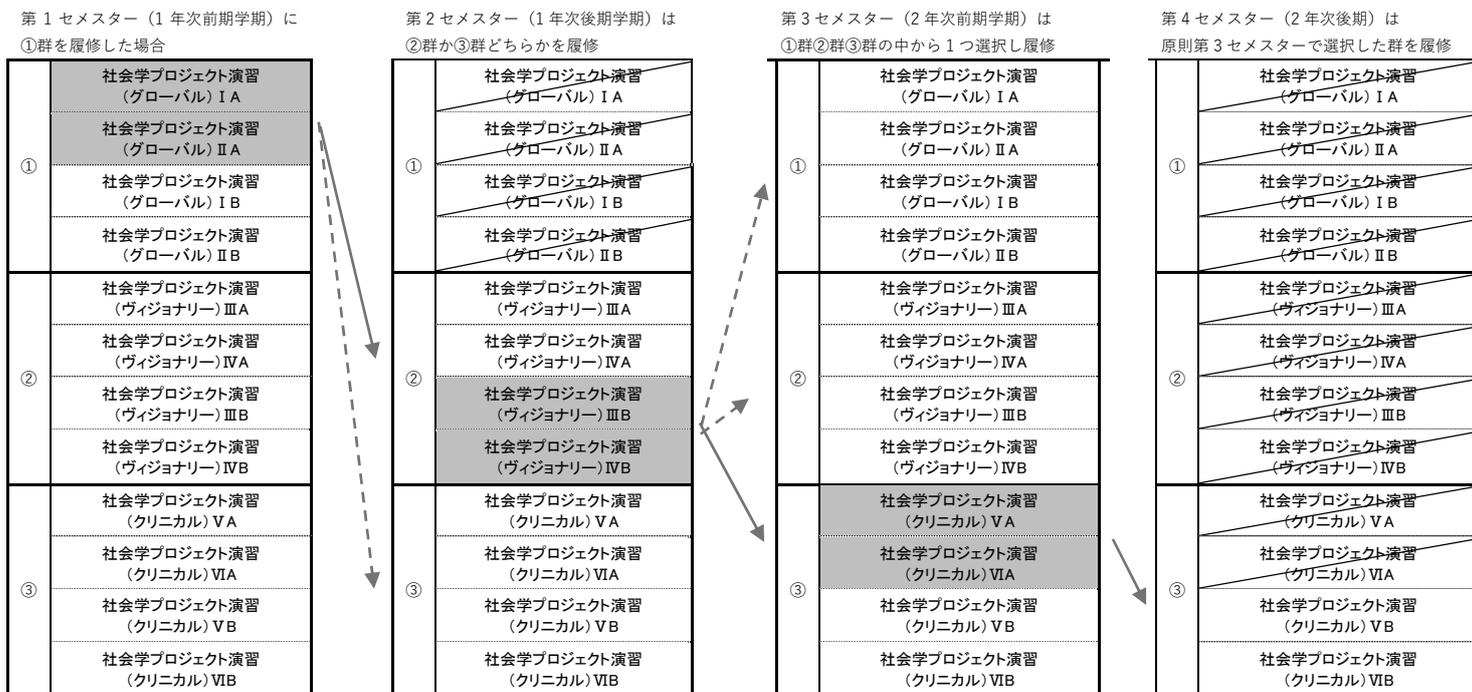
科目群	授業科目名	英字授業科目名	英語開講	担当者	単位	最低取得単位数
必修科目	社会学理論特講(古典)	Sociological Theories (Classic)		教授 矢野 善郎	2	12
	社会学理論特講(現代)	Sociological Theories (Modern)		教授 矢野 善郎	2	
	質的社会調査特講	Qualitative Research Method		兼任講師 高山 真	2	
	量的社会調査特講	Quantitative Research Method		兼任講師 前田 悟志	2	
	社会構想論特講	Sociological Imagination		矢野 善郎/山田 昌弘 鈴木 恭子	2	
	社会学ライティング特講	Sociological Writing		兼任講師 高山 真	2	
選択必修科目	①群 社会学プロジェクト演習(グローバル)ⅠA	Seminar in Sociology I A		教授 天田 城介	2	16
	社会学プロジェクト演習(グローバル)ⅡA	Seminar in Sociology IIA		教授 矢野 善郎	2	
	社会学プロジェクト演習(グローバル)ⅠB	Seminar in Sociology I B		教授 天田 城介	2	
	社会学プロジェクト演習(グローバル)ⅡB	Seminar in Sociology IIB		教授 矢野 善郎	2	
	②群 社会学プロジェクト演習(ヴィジョナリー)ⅢA	Seminar in Sociology IIIA		教授 首藤 明和	2	
	社会学プロジェクト演習(ヴィジョナリー)ⅣA	Seminar in Sociology IVA		教授 山田 昌弘	2	
	社会学プロジェクト演習(ヴィジョナリー)ⅢB	Seminar in Sociology IIIB		教授 首藤 明和	2	
	社会学プロジェクト演習(ヴィジョナリー)ⅣB	Seminar in Sociology IVB		教授 山田 昌弘	2	
	③群 社会学プロジェクト演習(クリニカル)ⅤA	Seminar in Sociology VA		教授 新原 道信	2	
	社会学プロジェクト演習(クリニカル)ⅥA	Seminar in Sociology VIA		准教授 鈴木 恭子	2	
	社会学プロジェクト演習(クリニカル)ⅤB	Seminar in Sociology VB		教授 新原 道信	2	
	社会学プロジェクト演習(クリニカル)ⅥB	Seminar in Sociology VIB		准教授 鈴木 恭子	2	
選択必修科目	社会運動論特講	Social Movements and Collective Action		休講	2	4
	社会変動論特講	Social Change		教授 首藤 明和	2	
	グローバルイゼーション論特講	Globalization		准教授 鈴木 恭子	2	
	東アジア社会論特講	East Asian Society		休講	2	
	地域社会学特講	Regional Sociology		教授 新原 道信	2	
	都市社会学特講	Urban Sociology		教授 新原 道信	2	
	臨床社会学特講	Clinical Sociology		教授 天田 城介	2	
	家族社会学特講	Sociology of Family		教授 山田 昌弘	2	
	歴史社会学特講	Historical Sociology		教授 天田 城介	2	
	ジェンダー・セクシュアリティ特講	Gender and Sexuality		教授 山田 昌弘	2	
	現代社会学特講	Modern Sociology		休講	2	
	文献講読特講A	In-depth Literatura A		兼任講師 高山 真	2	
	文献講読特講B	In-depth Literatura B		兼任講師 高山 真	2	

修了必要単位数
32単位

<社会学プロジェクト演習 I ~ VIについて>

- 第1 Semester（1年次前期学期）：3つの群のうちから1つの群を選択し、2科目以上を履修すること。
- 第2 Semester（1年次後期学期）：第1 Semesterで選択した群を除く2つの群のうち、1つの群を選択し、2科目以上を履修すること。
- 第3 Semester（2年次前期学期）：3つの群のうちから1つの群を選択し、2科目以上を履修すること。
- 第4 Semester（2年次後期学期）：原則、第3 Semesterで選択した群から2科目以上を履修すること。

<履修例> ※網掛けは履修、矢印は網掛け部分を履修した場合の履修選択肢を意味する。



<Qualifying Examについて>

社会学専攻では毎年 Qualifying Exam（以下、QE とする。）を行います。QE とは修士論文執筆のための学術的な問題意識や知識が十分備わっていることを審査する制度であり、問いの重要性、先行研究の渉猟、研究のオリジナリティー、リサーチデザインなどの観点から確認を行います。QE に合格していない学生は修士論文を提出することが出来ません。

QE を受けるためには必修科目・選択必修科目のうち 18 単位以上を修得していることが条件となります。

<修了までのフロー図>



社会学専攻 博士後期課程 <<2020年度以降入学生対象>>

<履修方法について>

- 科目群「必修科目」の科目を全て履修すること。また、科目群「選択必修科目」については以下の「2.」に従い履修すること。
- 「社会学プロジェクト専門演習Ⅰ～Ⅵ」については、以下の3群（①、②、③）に分かれています。
 - ①群「社会学プロジェクト専門演習（グローバル）」
 - ②群「社会学プロジェクト専門演習（ヴィジョナリー）」
 - ③群「社会学プロジェクト専門演習（クリニカル）」
 また、履修方法についてはsemester毎に指定があります。（次頁参照）
- 博士学位請求論文の提出条件として博士学位候補資格認定の他にQualifying Examが設定されているので、必ず受験をすること。また、受験にあたっての条件が指定されております。（次頁参照）

科目群	授業科目名	英字授業科目名	英語開講	担当者	単位	最低取得単位数	
必修科目	文献講読特殊研究A	In-depth Literatura StudyA		兼任講師 高山 真	2	4	
	文献講読特殊研究B	In-depth Literatura Study B		兼任講師 高山 真	2		
	社会構想論特殊研究	Sociological Imagination		教授 天田 城介／新原 道信 ／首藤 明和	2	2	
選択必修科目	①群	社会学プロジェクト専門演習(グローバル)ⅠA	Seminar in Sociology IA	教授	天田 城介	2	10
		社会学プロジェクト専門演習(グローバル)ⅡA	Seminar in Sociology IIA	教授	矢野 善郎	2	
		社会学プロジェクト専門演習(グローバル)ⅠB	Seminar in Sociology IB	教授	天田 城介	2	
		社会学プロジェクト専門演習(グローバル)ⅡB	Seminar in Sociology IIB	教授	矢野 善郎	2	
	②群	社会学プロジェクト専門演習(ヴィジョナリー)ⅢA	Seminar in Sociology IIIA	教授	首藤 明和	2	
		社会学プロジェクト専門演習(ヴィジョナリー)ⅣA	Seminar in Sociology IVA	教授	山田 昌弘	2	
		社会学プロジェクト専門演習(ヴィジョナリー)ⅢB	Seminar in Sociology IIIB	教授	首藤 明和	2	
		社会学プロジェクト専門演習(ヴィジョナリー)ⅣB	Seminar in Sociology IVB	教授	山田 昌弘	2	
	③群	社会学プロジェクト専門演習(クリニカル)ⅤA	Seminar in Sociology VA	教授	新原 道信	2	
		社会学プロジェクト専門演習(クリニカル)ⅥA	Seminar in Sociology VIA	准教授	鈴木 恭子	2	
		社会学プロジェクト専門演習(クリニカル)ⅤB	Seminar in Sociology VB	教授	新原 道信	2	
		社会学プロジェクト専門演習(クリニカル)ⅥB	Seminar in Sociology VIB	准教授	鈴木 恭子	2	
選択科目	社会運動論特殊研究	Social Movements and Collective Action		休講	休講	2	
	社会変動論特殊研究	Social Change		教授	首藤 明和	2	
	グローバルイゼーション論特殊研究	Globalization		准教授	鈴木 恭子	2	
	東アジア社会論特殊研究	East Asian Society			休講	2	
	社会学理論特殊研究(古典)	History of Sociological Thoughts (Classic)		教授	矢野 善郎	2	
	地域社会学特殊研究	Regional Sociology		教授	新原 道信	2	
	社会学理論特殊研究(現代)	History of Sociological Thoughts (Modern)		教授	矢野 善郎	2	
	都市社会学特殊研究	Urban Sociology		教授	新原 道信	2	
	臨床社会学特殊研究	Clinical Sociology		教授	天田 城介	2	
	家族社会学特殊研究	Sociology of Family		教授	山田 昌弘	2	
	歴史社会学特殊研究	Historical Sociology		教授	天田 城介	2	
	ジェンダー・セクシュアリティ特殊研究	Gender and Sexuality		教授	山田 昌弘	2	
	現代社会学特殊研究	Modern Sociology			休講	2	

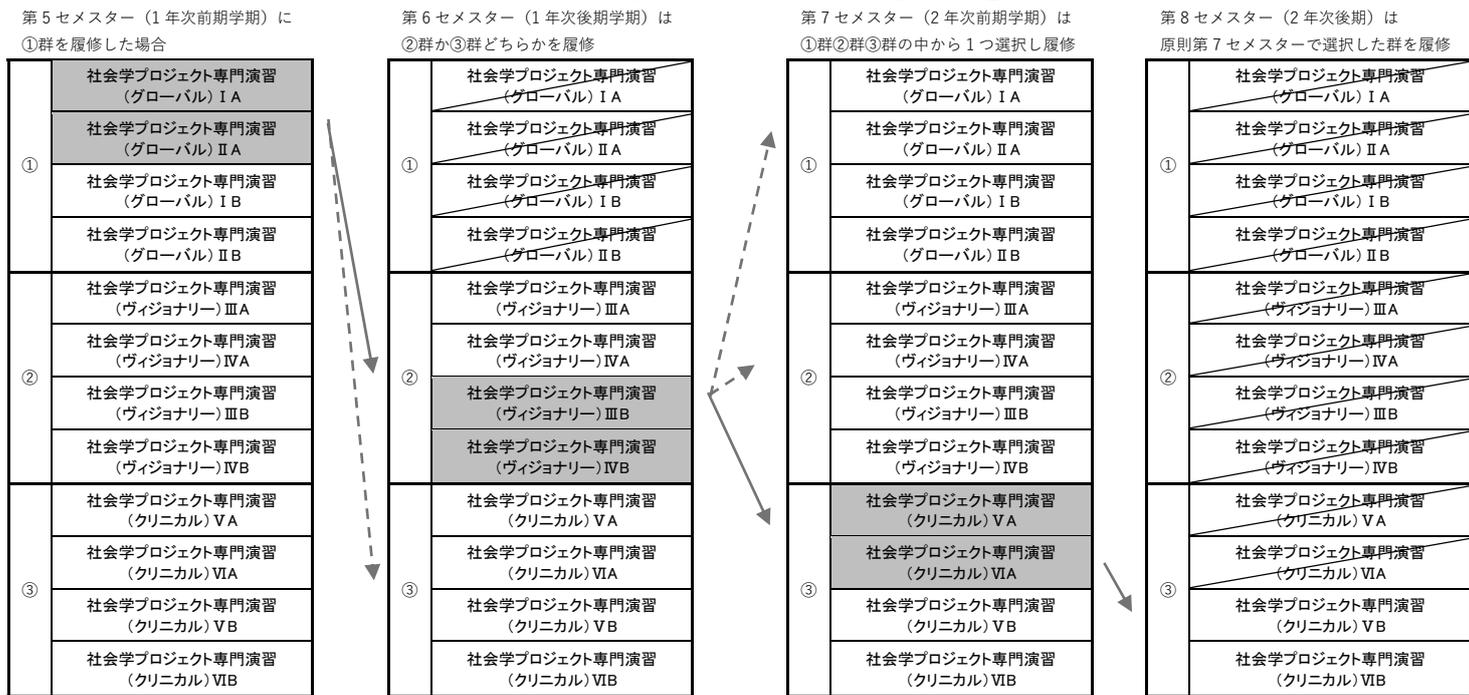
修了必要単位数 16 単位

<社会学プロジェクト専門演習Ⅰ～Ⅵについて>

※社会学専攻指定の博士学位請求論文執筆を見据えた履修方法です。

- 第5セメスター（1年次前期学期）：3つの群のうちから1つの群を選択し、2科目以上を履修すること。
- 第6セメスター（1年次後期学期）：第1セメスターで選択した群を除く2つの群のうち、1つの群を選択し、2科目以上を履修すること。
- 第7セメスター（2年次前期学期）：3つの群のうちから1つの群を選択し、2科目以上を履修すること。
- 第8セメスター（2年次後期学期）：原則、第7セメスターで選択した群から2科目以上を履修すること。

<履修例> ※網掛けは履修、矢印は網掛け部分を履修した場合の履修選択肢を意味する。



<Qualifying Examについて>

社会学専攻では毎年 Qualifying Exam（以下、QE とする。）を行います。QE とは博士学位請求論文執筆を開始するにあたり、学術的な問題意識や知識が十分備わっていることを審査する制度であり、論文の問いと目的、研究のオリジナリティー、関連研究群の中での位置づけ、先行研究の狩猟、リサーチデザイン、研究計画などの観点から確認を行います。

QE に合格していない学生は博士学位候補資格申請および、博士学位請求論文を提出することが出来ません。

【受験資格】

QE を受けるためには「社会構想論特殊研究」の単位を修得しており、かつ、受験する年度に「文献講読特殊研究 A」「文献講読特殊研究 B」を履修していることが条件となります。

<修了までのフロー図>



社会学専攻 博士後期課程 <<2019年度以前入学生対象>>

<履修方法について>

1. 専攻の授業科目および共通科目の中から選択履修し、16単位を修得すること。
2. 「社会学プロジェクト専門演習Ⅰ～Ⅵ」については、以下の3群（①、②、③）に分かれています。
 - ①群「社会学プロジェクト専門演習（グローバル）」
 - ②群「社会学プロジェクト専門演習（ヴィジョナリー）」
 - ③群「社会学プロジェクト専門演習（クリニカル）」

「社会学プロジェクト専門演習Ⅰ～Ⅵ」の履修については指導教授と相談のうえ、履修すること。

授業科目名	担当者		単位	修了必要 単位数 16単位
文献講読特殊研究A	兼任講師	高山 真	2	
文献講読特殊研究B	兼任講師	高山 真	2	
社会構想論特殊研究	教授	天田 城介／新原 道信／ 首藤 明和	2	
社会学プロジェクト専門演習(グローバル)ⅠA	教授	天田 城介	2	
社会学プロジェクト専門演習(グローバル)ⅡA	教授	矢野 善郎	2	
社会学プロジェクト専門演習(グローバル)ⅠB	教授	天田 城介	2	
社会学プロジェクト専門演習(グローバル)ⅡB	教授	矢野 善郎	2	
社会学プロジェクト専門演習(ヴィジョナリー)ⅢA	教授	首藤 明和	2	
社会学プロジェクト専門演習(ヴィジョナリー)ⅣA	教授	山田 昌弘	2	
社会学プロジェクト専門演習(ヴィジョナリー)ⅢB	教授	首藤 明和	2	
社会学プロジェクト専門演習(ヴィジョナリー)ⅣB	教授	山田 昌弘	2	
社会学プロジェクト専門演習(クリニカル)ⅤA	教授	新原 道信	2	
社会学プロジェクト専門演習(クリニカル)ⅥA	准教授	鈴木 恭子	2	
社会学プロジェクト専門演習(クリニカル)ⅤB	教授	新原 道信	2	
社会学プロジェクト専門演習(クリニカル)ⅥB	准教授	鈴木 恭子	2	
社会運動論特殊研究／比較社会学特殊研究A	教授	休講	2	
社会変動論特殊研究／現代社会学特殊研究A	教授	首藤 明和	2	
グローバリゼーション論特殊研究／比較社会学特殊研究B	准教授	鈴木 恭子	2	
東アジア社会論特殊研究／現代社会学特殊研究B		休講	2	
社会学理論特殊研究(古典)／理論社会学特殊研究A	教授	矢野 善郎	2	
地域社会学特殊研究／地域社会学特殊研究A	教授	新原 道信	2	
社会学理論特殊研究(現代)／理論社会学特殊研究B	教授	矢野 善郎	2	
都市社会学特殊研究／地域社会学特殊研究B	教授	新原 道信	2	
臨床社会学特殊研究／臨床社会学特殊研究A	教授	天田 城介	2	
家族社会学特殊研究／家族社会学特殊研究A	教授	山田 昌弘	2	
歴史社会学特殊研究／臨床社会学特殊研究B	教授	天田 城介	2	
ジェンダー・セクシュアリティ特殊研究／家族社会学特殊研究B	教授	山田 昌弘	2	
現代社会学特殊研究		休講	2	
社会病理学特殊研究A		休講	2	
社会病理学特殊研究B		休講	2	

社会情報学専攻博士前期課程

<履修方法について>

※英語による科目は、表中の「英語」に○がついています。留学生、留学を希望する学生、専門分野を英語で学んでみようと思う学生は、是非履修してください。履修方法・履修条件は、一般的な科目と同じです。

1. 専攻の科目を中心に32単位を履修すること。

授業科目名	英字授業科目名	単位	英語開講	担当者
社会心理学特講A	Social Psychology A	2		教授 安野 智子
社会心理学特講B	Social Psychology B	2		教授 安野 智子
社会心理学演習A	Social Psychology A (Seminar)	2		教授 安野 智子
社会心理学演習B	Social Psychology B (Seminar)	2		教授 安野 智子
文化社会学特講A	Sociology of Culture A	2		教授 辻 泉
文化社会学特講B	Sociology of Culture B	2		教授 辻 泉
文化社会学演習A	Sociology of Culture A (Seminar)	2		教授 辻 泉
文化社会学演習B	Sociology of Culture B (Seminar)	2		教授 辻 泉
メディア・コミュニケーション論特講A	Media Communication Theory A	2		教授 松田 美佐
メディア・コミュニケーション論特講B	Media Communication Theory B	2		教授 松田 美佐
メディア・コミュニケーション論演習A	Media Communication Theory A (Seminar)	2		教授 松田 美佐
メディア・コミュニケーション論演習B	Media Communication Theory B (Seminar)	2		教授 松田 美佐
社会情報学基礎理論特講A	Socioinformatics Theory A	2		教授 松田 美佐/安野 智子/小山 憲司/辻 泉/尹 智鉉
社会情報学基礎理論特講B	Socioinformatics Theory B	2		休講
社会情報学調査法演習A	Socioinformatics Methods A (Seminar)	2		休講
社会情報学調査法演習B	Socioinformatics Methods B (Seminar)	2		休講
図書館情報学特講A	Library & Information Science A	2		教授 小山 憲司
図書館情報学特講B	Library & Information Science B	2		教授 小山 憲司
図書館情報学演習A	Library & Information Science A (Seminar)	2		教授 小山 憲司
図書館情報学演習B	Library & Information Science B (Seminar)	2		教授 小山 憲司
情報システム学特講A	Information Systems A	2		休講
情報システム学特講B	Information Systems B	2		休講
情報システム学演習A	Information Systems A (Seminar)	2		休講
情報システム学演習B	Information Systems B (Seminar)	2		休講
コミュニケーション論特講A	Communication Theory A	2		兼任講師 諸橋 泰樹
コミュニケーション論特講B	Communication Theory B	2		兼任講師 諸橋 泰樹
メディア論特講A	Media Theory A	2		兼任講師 深澤 弘樹
メディア論特講B	Media Theory B	2		兼任講師 深澤 弘樹
情報科学特講A	Computer Science A	2		兼任講師 尾崎 知伸
情報科学特講B	Computer Science B	2		兼任講師 尾崎 知伸
記録管理学特講A	Records Management A	2		兼任講師 李 東真
記録管理学特講B	Records Management B	2		兼任講師 李 東真

社会情報学専攻博士後期課程

<履修方法について>

1. 専攻の科目を中心に16単位を履修すること。

授業科目名	英字授業科目名	単位	英語 開講	担当者	
社会心理学特殊研究A	Social Psychology A	2		教授	安野 智子
社会心理学特殊研究B	Social Psychology B	2		教授	安野 智子
社会情報学理論と方法論特殊研究A	Socioinformatics Theory and Methods A	2			休講
社会情報学理論と方法論特殊研究B	Socioinformatics Theory and Methods B	2			休講
文化社会学特殊研究A	Sociology of Culture A	2		教授	辻 泉
文化社会学特殊研究B	Sociology of Culture B	2		教授	辻 泉
メディア論特殊研究A	Media Theory A	2			休講
メディア論特殊研究B	Media Theory A	2			休講
図書館情報学特殊研究A	Library & Information Science A	2		教授	小山 憲司
図書館情報学特殊研究B	Library & Information Science B	2		教授	小山 憲司
情報システム学特殊研究A	Information Systems A	2		教授	飯尾 淳
情報システム学特殊研究B	Information Systems B	2		教授	飯尾 淳
コミュニケーション論特殊研究A	Communication Theory A	2		兼任講師	諸橋 泰樹
コミュニケーション論特殊研究B	Communication Theory B	2		兼任講師	諸橋 泰樹
メディア・コミュニケーション論特殊研究A	Media Communication Theory A	2		教授	松田 美佐
メディア・コミュニケーション論特殊研究B	Media Communication Theory B	2		教授	松田 美佐
情報科学特殊研究A	Computer Science A	2		兼任講師	尾崎 知伸
情報科学特殊研究B	Computer Science B	2		兼任講師	尾崎 知伸

教育学専攻博士前期課程

<履修方法について>

※英語による科目は、表中の「英語」に○がついています。留学生、留学を希望する学生、専門分野を英語で学んでみようと思う学生は、是非履修してください。履修方法・履修条件は、一般的な科目と同じです。

1. 専攻の科目を中心に32単位を履修すること。
2. 「教育学総合演習A・B」を1年次に必ず履修すること。

授業科目名	英字授業科目名	単位	英語開講	担当者
教育哲学特講	Philosophy of Education	2		教授 下司 晶
教育哲学演習	Philosophy of Education (Seminar)	2		教授 下司 晶
教育思想史特講Ⅰ	History of Educational Thought Ⅰ	2		兼任講師 青柳 宏幸
教育思想史特講Ⅱ	History of Educational Thought Ⅱ	2		兼任講師 青柳 宏幸
教育史特講	History of Education	2		教授 高木 雅史
教育史演習	History of Education (Seminar)	2		教授 高木 雅史
教育方法学特講	Methodology of Education	2		教授 濱谷 佳奈
教育方法学演習	Methodology of Education (Seminar)	2		教授 濱谷 佳奈
教育行政学特講	Educational Administration	2		教授 池田 賢市
教育行政学演習	Educational Administration (Seminar)	2		休講
学校教育学特講Ⅰ	School Education Ⅰ	2		兼任講師 星野 真澄
学校教育学特講Ⅱ	School Education Ⅱ	2		兼任講師 星野 真澄
教育社会学特講	Sociology of Education	2		教授 眞鍋 倫子
教育社会学演習	Sociology of Education (Seminar)	2		教授 眞鍋 倫子
生涯学習論特講	Lifelong Education	2		准教授 佐藤 智子
生涯学習論演習	Lifelong Education (Seminar)	2		准教授 佐藤 智子
教育調査法特講Ⅰ	Research Methods in Education Ⅰ	2		兼任講師 森 一平
教育調査法特講Ⅱ	Research Methods in Education Ⅱ	2		兼任講師 大森 直樹
教育学研究特講Ⅰ	Special issues in Educational Research Ⅰ	2		兼任講師 大内 裕和
教育学研究特講Ⅱ	Special issues in Educational Research Ⅱ	2		休講
教育学総合演習A	Introduction to Educational Sciences A (Seminar)	2		池田 賢市／佐藤 智子 ／眞鍋 倫子
教育学総合演習B	Introduction to Educational Sciences B (Seminar)	2		下司 晶／高木 雅史 ／濱谷 佳奈

教育学専攻博士後期課程

<履修方法について>

1. 専攻の科目を中心に16単位を履修すること。

授業科目名	英字授業科目名	単位	英語開講	担当者	
教育哲学特殊研究A	Advanced Study in Philosophy of Education A	2		教授	下司 晶
教育哲学特殊研究B	Advanced Study in Philosophy of Education B	2		教授	下司 晶
教育方法学特殊研究A	Advanced Study in Methodology of Education A	2		教授	濱谷 佳奈
教育方法学特殊研究B	Advanced Study in Methodology of Education B	2		教授	濱谷 佳奈
教育行政学特殊研究A	Advanced Study in Educational Administration A	2		教授	池田 賢市
教育行政学特殊研究B	Advanced Study in Educational Administration B	2			休講
教育社会学特殊研究A	Advanced Study in Sociology of Education A	2		教授	真鍋 倫子
教育社会学特殊研究B	Advanced Study in Sociology of Education B	2		教授	真鍋 倫子
教育史特殊研究A	Advanced Study in History of Education A	2		教授	高木 雅史
教育史特殊研究B	Advanced Study in History of Education B	2		教授	高木 雅史
生涯学習論特殊研究A	Advanced Study in Lifelong Education A	2		准教授	佐藤 智子
生涯学習論特殊研究B	Advanced Study in Lifelong Education B	2		准教授	佐藤 智子
教育学特殊研究 I	Advanced Study in Methodology of Educational Research I	2		兼任講師	大内 裕和
教育学特殊研究 II	Advanced Study in Methodology of Educational Research II	2			休講

心理学専攻心理学コース 博士前期課程《2025年度入学生対象》

＜履修方法について＞

専攻の必修科目・選択必修科目と共通科目から32単位を履修すること。

「限」欄に×印のある科目は臨床心理学コースの院生以外は履修不可です。また、「限」欄に★印のある科目は科目担当教員に事前に相談の上、認められた場合のみ他研究科・他専攻の学生も履修可能です。

「公」欄に○印の科目は公認心理師になるために必要な科目です。

※英語による科目は、表中の「英語」に○がついています。留学生、留学を希望する学生、専門分野を英語で学んでみようと思う学生は、是非履修してください。履修方法・履修条件は、一般的な科目と同じです。

授業科目名		英字授業科目名	単 位	公	限	英語 開講	担当者	備考
必修科目	心理学基礎理論	Fundamentals Psychology	2		×		教授 中村 菜々子／山科 満／有賀 敦紀／高瀬 堅吉／富田 拓郎	1年次配当
	臨床神経心理学特講 I	Clinical Neuropsychology I	2				教授 緑川 晶	
	臨床神経心理学特講 II	Clinical Neuropsychology II	2				教授 緑川 晶	
	臨床神経心理学演習 I	Clinical Neuropsychology (Seminar) I	2				教授 緑川 晶	
	臨床神経心理学演習 II	Clinical Neuropsychology (Seminar) II	2				教授 緑川 晶	
	認知心理学特講 I	Cognitive Psychology I	2				教授 有賀 敦紀	
	認知心理学特講 II	Cognitive Psychology II	2				教授 有賀 敦紀	
	認知心理学演習 I	Cognitive Psychology (Seminar) I	2				教授 有賀 敦紀	
	認知心理学演習 II	Cognitive Psychology (Seminar) II	2				教授 有賀 敦紀	
	文化・認知心理学特講 I	Comparative Cognitive Psychology I	2				教授 山口 真美	
	文化・認知心理学特講 II	Comparative Cognitive Psychology II	2				教授 山口 真美	
	文化・認知心理学演習 I	Comparative Cognitive Psychology (Seminar) I	2				教授 山口 真美	
	文化・認知心理学演習 II	Comparative Cognitive Psychology (Seminar) II	2				教授 山口 真美	
	生涯発達心理学特講 I	Lifespan Developmental Psychology I	2				教授 高瀬 堅吉	
	生涯発達心理学特講 II	Lifespan Developmental Psychology II	2				教授 高瀬 堅吉	
選択必修科目	生涯発達心理学演習 I	Lifespan Developmental Psychology (Seminar) I	2				教授 高瀬 堅吉	
	生涯発達心理学演習 II	Lifespan Developmental Psychology (Seminar) II	2				教授 高瀬 堅吉	
	心理学情報処理演習	Psychological Research and Computers	2				兼任講師 金沢 創	
	心理学研究法特講	Research Method in Psychology	2		★		兼任講師 金沢 創	
	ACADEMIC WRITING AND PRESENTATION SKILLS IN PSYCHOLOGY	Academic Writing And Presentation Skills In Psychology	2		★	○	兼任講師 笹尾 敏明	
	心理統計法特講	Statistics in Psychology	2		★		兼任講師 渋井 進	
	COMMUNITY PSYCHOLOGY	Community Psychology	2		★	○	兼任講師 笹尾 敏明	
	犯罪心理学特講(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	Criminal Psychology	2	○	×		兼任講師 大宮 宗一郎	
	神経心理学特講(保健医療分野に関する理論と支援の展開)	Current Issues of Neuropsychology	2	○	×		兼任講師 四ノ宮 美恵子	
	学校カウンセリング演習(教育分野に関する理論と支援の展開)	School Counseling (Seminar)	2	○	×		教授 富田 拓郎	
	障害児心理学特講(福祉分野に関する理論と支援の展開)	Psychology on Handicapped Children	2	○	★		兼任講師 山本 淳一	
	心理支援に関する理論と実践	Theory and Practice of Psychological Support	2	○	×		教授 高瀬 堅吉	
	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	Support Theory and Practice for Family, Group, and Community	2	○	×		兼任講師 徳丸 享	
	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	Support Theory and Applications in Industry and Work Area	2	○	★		兼任講師 千田 若菜	
	心理的アセスメントに関する理論と実践	Theory and Practice of Psychological Assessment	2	○	×		兼任講師 高野 公輔	
	心の健康教育に関する理論と実践	Theory and Practice for Psychological Education	2	○	★		教授 中村 菜々子	
自由選択科目	心理実践実習①	Advanced Practical Training in Psychology I	1	○	×		教授 高瀬 堅吉／緑川 晶	1年次配当
	心理実践実習②	Advanced Practical Training in Psychology II	2	○	×		休講	2年次配当

＜公認心理師の受験資格取得について＞ 【2025年度以降入学者対象】

中央大学大学院文学研究科博士前期課程心理学専攻心理学コースでは2025年度以降の入学者に対して、公認心理師になるために必要な科目を設置しています。公認心理師受験資格を取得するためには、大学において公認心理師になるために必要な科目を修めて卒業し、かつ、大学院において公認心理師になるために必要な科目を修めて修了する必要があります。

本大学院の場合、修了に必要な単位数（最低32単位）を修め、かつ選択必修科目および自由選択科目にある公認心理師になるために必要な科目（59頁の表で「公」欄に○がついている科目）を全て履修する必要があります。自由選択科目は修了に必要な単位数には算入されないことに留意してください。

なお、公認心理師になるために必要な科目を履修できるのは、入学前の指導教員との面談および入学試験の口述試験（面接）において認められた者に限ります。この手続きを経ずに、入学後に履修希望を申し出ても、心理実践実習①②の履修は認められません。

心理学専攻心理学コース 博士前期課程《2024年度入学生対象》

<履修方法について>

※英語による科目は、表中の「英語」に○がついています。留学生、留学を希望する学生、専門分野を英語で学んでみようと思う学生は、是非履修してください。履修方法・履修条件は、一般的な科目と同じです。

1. 「心理学基礎理論Ⅰ・Ⅱ」は1年次に履修する必修科目です。

(※1) この科目は 「心理学専攻」 所属の学生以外は履修・聴講できません。

授業科目名	英字授業科目名	単 位	英語 開講	担当者
臨床神経心理学特講Ⅰ	Clinical Neuropsychology I	2	教授	緑川 晶
臨床神経心理学特講Ⅱ	Clinical Neuropsychology II	2	教授	緑川 晶
臨床神経心理学演習Ⅰ	Clinical Neuropsychology (Seminar) I	2	教授	緑川 晶
臨床神経心理学演習Ⅱ	Clinical Neuropsychology (Seminar) II	2	教授	緑川 晶
認知心理学特講Ⅰ	Cognitive Psychology I	2	教授	有賀 敦紀
認知心理学特講Ⅱ	Cognitive Psychology II	2	教授	有賀 敦紀
認知心理学演習Ⅰ	Cognitive Psychology (Seminar) I	2	教授	有賀 敦紀
認知心理学演習Ⅱ	Cognitive Psychology (Seminar) II	2	教授	有賀 敦紀
文化・認知心理学特講Ⅰ	Comparative Cognitive Psychology I	2	教授	山口 真美
文化・認知心理学特講Ⅱ	Comparative Cognitive Psychology II	2	教授	山口 真美
文化・認知心理学演習Ⅰ	Comparative Cognitive Psychology (Seminar) I	2	教授	山口 真美
文化・認知心理学演習Ⅱ	Comparative Cognitive Psychology (Seminar) II	2	教授	山口 真美
生涯発達心理学特講Ⅰ	Lifespan Developmental Psychology I	2	教授	高瀬 堅吉
生涯発達心理学特講Ⅱ	Lifespan Developmental Psychology II	2	教授	高瀬 堅吉
生涯発達心理学演習Ⅰ	Lifespan Developmental Psychology (Seminar) I	2	教授	高瀬 堅吉
生涯発達心理学演習Ⅱ	Lifespan Developmental Psychology (Seminar) II	2	教授	高瀬 堅吉
心理学基礎理論Ⅰ	Fundamentals Psychology I	2	教授	中村 菜々子/ 山科 満
心理学基礎理論Ⅱ	Fundamentals Psychology II	2	教授	山口 真美/有 賀 敦紀/高瀬 堅吉
心理学情報処理演習	Psychological Research and Computers	2	兼任講師	金沢 創
心理学研究法特講	Research Method in Psychology	2	兼任講師	金沢 創
ACADEMIC WRITING AND PRESENTATION SKILLS IN PSYCHOLOGY	Academic Writing And Presentation Skills In Psychology	2	○ 兼任講師	笹尾 敏明
心理統計法特講	Statistics in Psychology	2	兼任講師	渋井 進
学校カウンセリング演習(教育分野に関する理論と支援の展開)	School Counseling (Seminar)	2	教授	富田 拓郎
COMMUNITY PSYCHOLOGY	Community Psychology	2	○ 兼任講師	笹尾 敏明
犯罪心理学特講(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	Criminal Psychology	2	兼任講師	大宮 宗一郎
神経心理学特講(保健医療分野に関する理論と支援の展開)	Current Issues of Neuropsychology	2	兼任講師	四ノ宮 美恵子
障害児心理学特講(福祉分野に関する理論と支援の展開)	Psychology on Handicapped Children	2	兼任講師	山本 淳一

心理学専攻臨床心理学コース 博士前期課程《2025年度入学生対象》

<履修方法について>

1. 必修科目および選択必修科目（A群～E群、各群2単位以上）を必ず履修すること。
2. 備考欄に配当年次が指定されている科目は、その配当年次でなければ履修できません。
3. 自由選択科目は修了必修単位数には含まれません。
4. 「限」欄に×印のある科目は心理学専攻の院生以外は履修不可です。また、「限」欄に★印のある科目は科目担当教員に事前に相談の上、認められた場合のみ他研究科・他専攻の学生も履修可能です。
5. 「公」欄に○印の科目は公認心理師になるために必要な科目です。

※英語による科目は、表中の「英語」に○がついています。留学生、留学を希望する学生、専門分野を英語で学んでみようと思う学生は、是非履修してください。履修方法・履修条件は、一般的な科目と同じです。

授業科目		英字授業科目名	単 位	公	限	英語 開講	担当者	備考
必修 科目	心理学基礎理論	Fundamentals Psychology	2		×		教授 中村 菜々子/山科 満/富田 拓郎/ 有賀 敦紀/高瀬 堅吉	1年次配当
	臨床心理学特論Ⅰ	Clinical Psychology I	2		×		教授 山科 満	
	臨床心理学特論Ⅱ	Clinical Psychology II	2		×		教授 中村 菜々子	
	臨床心理面接特論Ⅰ(心理支援に関する理論と実践)	Psychotherapy I(Theory and Practice of Psychological Support)	2	○	×		教授 山科 満	
	臨床心理面接特論Ⅱ	Psychotherapy II	2		×		教授 中村 菜々子	
	臨床心理査定演習Ⅰ	Psychological Assessment (Seminar) I	2		×		兼任講師 石川 健太	
	臨床心理査定演習Ⅱ	Psychological Assessment (Seminar) II	2		×		教授 富田 拓郎	
	臨床心理基礎実習Ⅰ	Practice of Clinical Psychology I	1		×		中村 菜々子/長谷川 恵美子/遠藤 幸彦	1年次配当
	臨床心理基礎実習Ⅱ	Practice of Clinical Psychology II	1		×		山科 満/中根 千景/長谷川 恵美子/ 遠藤 幸彦	1年次配当
	臨床心理実習A(心理実践実習③)	Advanced Practice of Clinical Psychology A (Advanced Practical Training in Psychology III)	2	○	×		緑川 晶/山科 満/中村 菜々子/富 田 拓郎/千田 若菜	2年次配当 通年科目
臨床心理実習B	Advanced Practice of Clinical Psychology B	2		×		緑川 晶/山科 満/中村 菜々子/徳 丸 孝/富田 拓郎	2年次配当 通年科目	
選択 必修 科目	A群	心理学研究法特講	2		★		兼任講師 金沢 創	
		ACADEMIC WRITING AND PRESENTATION SKILLS IN PSYCHOLOGY	2		★	○	兼任講師 笹尾 敏明	
		心理統計法特講	2		★		兼任講師 洪井 進	
	B群	臨床神経心理学特講Ⅰ	2		★		教授 緑川 晶	
		文化・認知心理学特講Ⅰ	2		★		教授 山口 真美	
		認知心理学特講Ⅰ	2		★		教授 有賀 敦紀	
		生涯発達心理学特講Ⅰ	2		★		教授 高瀬 堅吉	
		学校カウンセリング演習(教育分野に関する理論と支援の展開)	2	○	×		教授 富田 拓郎	
	C群	COMMUNITY PSYCHOLOGY	2		★	○	兼任講師 笹尾 敏明	
		犯罪心理学特講(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	2	○	×		兼任講師 大宮 宗一郎	
D群	神経心理学特講(保健医療分野に関する理論と支援の展開)	2	○	×		兼任講師 四ノ宮 美恵子		
	障害児心理学特講(福祉分野に関する理論と支援の展開)	2	○	★		兼任講師 山本 淳一		
E群	心理療法特講	2		×		兼任講師 水島 栄		
	臨床心理地域援助特講	2		×		教授 山科 満	2年次配当	
自由 選択 科目	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	Support Theory and Practice for Family, Group, and Community	2	○	×		兼任講師 徳丸 孝	
	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	Support Theory and Applications in Industry and Work Area	2	○	★		兼任講師 千田 若菜	
	心理的アセスメントに関する理論と実践	Theory and Practice of Psychological Assessment	2	○	×		兼任講師 高野 公輔	
	心の健康教育に関する理論と実践	Theory and Practice for Psychological Education	2	○	★		教授 中村 菜々子	
	心理実践実習①	Advanced Practical Training in Psychology I	1	○	×		教授 高瀬 堅吉/緑川 晶	1年次配当

<臨床心理師の資格取得について>

本大学院は、(公財)日本臨床心理師資格認定協会から**第2種大学院**の指定を受けています。博士前期課程心理学専攻**臨床心理学コース**を修了した人は、修了後1年以上の心理臨床経験を積むことによって、同協会が実施する臨床心理師資格審査を受けることができます。

臨床心理学コースの授業科目は、第2種大学院の基準を満たすように編成されていますので、必修科目については全科目を、選択必修科目についてはA、B、C、D、Eの科目群のそれぞれから1科目以上を履修してください。修士論文は必修であり、論文のテーマと内容は臨床心理学に関するものでなければなりません。指導教授は、臨床心理学コースの専任教員であることが必要です。指導教授を選定する際はご注意ください。

なお、文学研究科心理学専攻博士前期課程**心理学コース**を選択した場合は、たとえ課程修了後に心理臨床経験を積んだとしても臨床心理師の資格審査は受けられません。また、資格認定制度上、臨床心理学コースを修了していない場合には、博士後期課程心理学専攻を修了しても臨床心理師の資格審査は受けられません。個人申請を予定している人は、履修届提出日までに指導教授に相談してください。

<公認心理師の受験資格取得について>

本大学院では、公認心理師になるために必要な科目を設置しています。公認心理師受験資格を得るためには、4年制大学において公認心理師になるために必要な科目を修めて卒業しており、かつ、本大学院において必要な科目を修めて、修了する必要があります。本大学院の場合は、博士前期課程心理学専攻臨床心理学コースの修了単位数(32単位)に加えて、公認心理師になるために必要な科目を全て履修する必要があります、少なくとも合計41単位を修得することになります。

公認心理師受験資格取得を考えている人は、自身が要件を満たしているかを含め、履修計画について履修登録前に指導教授に相談してください。

<履修イメージ図>

62頁の略図です。詳細は62頁を確認してください。

臨床心理士受験資格取得の履修範囲(32単位)

博士前期課程の修了要件となる単位を修得する必要があります。

博士前期課程修了要件	科目群		履修方法
	必修科目		すべて履修
	選択必修科目	A群	各群2単位以上履修
B群			
C群			
D群			
E群			

公認心理師受験資格取得の履修範囲(少なくとも41単位)

博士前期課程の修了要件となる単位に加えて、自由選択科目の単位取得が必要となります。

博士前期課程修了要件	科目群		履修方法
	必修科目		すべて履修
	選択必修科目	A群	各群2単位以上履修、かつ、選択必修科目における公認心理師になるために必要な科目を全て履修
B群			
C群			
D群			
E群			



自由選択科目	公認心理師受験資格を必要とする場合はすべて履修(9単位)
--------	------------------------------

心理学専攻臨床心理学コース 博士前期課程《2024年度入学生対象》

＜履修方法について＞

※英語による科目は、表中の「英語」に○がついています。留学生、留学を希望する学生、専門分野を英語で学んでみようと思う学生は、是非履修してください。履修方法・履修条件は、一般的な科目と同じです。

1. 必修科目および選択必修科目（A群～E群、各群2単位以上修得）を必ず履修すること。
2. 「臨床心理基礎実習Ⅰ・Ⅱ」、「心理学基礎理論Ⅰ・Ⅱ」は1年次に、「臨床心理実習A（心理実践演習）・臨床心理実習B」については2年次に履修しなければなりません。
3. 自由選択科目は修了必修単位数には含まれません。
4. 臨床心理学コースの学生以外は履修不可です。ただし、備考「限」欄に★印の科目は科目担当教員に事前に相談の上、認められた場合のみ他研究科・他専攻の学生も履修可能です。
5. 備考「公」欄に○印の科目は公認心理師になるために必要な科目です。

授業科目		単位	英語 開講	身分	担当者	備考	公	限
必修科目	心理学基礎理論Ⅰ	2		教授	中村 菜々子			
				教授	山科 満			
	心理学基礎理論Ⅱ	2		教授	山口 真美			
				教授	有賀 敦紀			
				教授	高瀬 堅吉			
	臨床心理学特論Ⅰ	2		教授	山科 満			
	臨床心理学特論Ⅱ	2		教授	中村 菜々子			
	臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	2		教授	山科 満		○	
	臨床心理面接特論Ⅱ	2		教授	中村 菜々子			
	臨床心理査定演習Ⅰ	2		兼任講師	石川 健太			
	臨床心理査定演習Ⅱ	2			休講			
	臨床心理基礎実習Ⅰ	1		教授	中村 菜々子	1年次担当		
				兼任講師	長谷川 恵美子			
				兼任講師	遠藤 幸彦			
臨床心理基礎実習Ⅱ	1		教授	山科 満	1年次担当			
			兼任講師	中根 千景				
			兼任講師	長谷川 恵美子				
			兼任講師	遠藤 幸彦				
臨床心理実習A（心理実践実習）	2		教授	緑川 晶	2年次担当 通年科目		○	
			教授	山科 満				
			教授	中村 菜々子				
			教授	富田 拓郎				
			兼任講師	千田 若菜				
臨床心理実習B	2		教授	緑川 晶	2年次担当 通年科目			
			教授	山科 満				
			教授	中村 菜々子				
			教授	富田 拓郎				
			兼任講師	徳丸 享				
選択必修科目	A群	心理学研究法特講	2	兼任講師	金沢 創			★
		ACADEMIC WRITING AND PRESENTATION SKILLS IN PSYCHOLOGY	2	兼任講師	笹尾 敏明			★
		心理統計法特講	2	兼任講師	渋井 進			★
	B群	臨床神経心理学特講Ⅰ	2	教授	緑川 晶			★
		文化・認知心理学特講Ⅰ	2	教授	山口 真美			★
		認知心理学特講Ⅰ	2	教授	有賀 敦紀			★
		生涯発達心理学特講Ⅰ	2	教授	高瀬 堅吉			★
		学校カウンセリング演習（教育分野に関する理論と支援の展開）	2	教授	富田 拓郎		○	
	C群	COMMUNITY PSYCHOLOGY	2	兼任講師	笹尾 敏明			
		犯罪心理学特講（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	2	兼任講師	大宮 宗一郎		○	
	D群	神経心理学特講（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	2	兼任講師	四ノ宮 美恵子		○	
障害児心理学特講（福祉分野に関する理論と支援の展開）		2	兼任講師	山本 淳一		○	★	
E群	心理療法特講	2	兼任講師	水島 栄				
	臨床心理地域援助特講	2	教授	山科 満	2年次担当 履修条件：「家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践」の単位を修得していること。			
自由選択科目	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	2	兼任講師	徳丸 享		○		
	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	2	兼任講師	千田 若菜		○	★	
	心理的アセスメントに関する理論と実践	2	兼任講師	高野 公輔		○		
	心の健康教育に関する理論と実践	2	教授	中村 菜々子		○	★	

<臨床心理士の資格取得について>

本大学院は、(公財)日本臨床心理士資格認定協会から**第2種大学院**の指定を受けています。博士前期課程心理学専攻**臨床心理学**コースを修了した人は、修了後1年以上の心理臨床経験を積むことによって、同協会が実施する臨床心理士資格審査を受けることができます。

臨床心理学コースの授業科目は、第2種大学院の基準を満たすように編成されていますので、必修科目については全科目を、選択必修科目についてはA、B、C、D、Eの科目群のそれぞれから1科目以上を履修してください。修士論文は必修であり、論文のテーマと内容は臨床心理学に関するものでなければなりません。指導教授は、臨床心理学コースの専任教員であることが必要です。指導教授を選定する際はご注意ください。

なお、文学研究科心理学専攻博士前期課程**心理学**コースを選択した場合は、たとえ課程修了後に心理臨床経験を積んだとしても臨床心理士の資格審査は受けられません。また、資格認定制度上、臨床心理学コースを修了していない場合には、博士後期課程心理学専攻を修了しても臨床心理士の資格審査は受けられません。個人申請を予定している人は、履修届提出日までに指導教授に相談してください。

<公認心理師の受験資格取得について>

本大学院では、公認心理師になるために必要な科目を設置しています。公認心理師受験資格を得るためには、4年制大学において公認心理師になるために必要な科目を修めて卒業しており、かつ、本大学院において必要な科目を修めて、修了する必要があります。本大学院の場合は、博士前期課程心理学専攻臨床心理学コースの修了単位数(32単位)に加えて、公認心理師になるために必要な科目を全て履修する必要があります、少なくとも合計42単位を修得することになります。

公認心理師受験資格取得を考えている人は、自身が要件を満たしているかを含め、履修計画について履修登録前に指導教授に相談してください。

<履修イメージ図>

64頁の略図です。詳細は64頁を確認してください。

臨床心理士受験資格取得の履修範囲(32単位)

博士前期課程の修了要件となる単位を修得する必要があります。

博士前期課程修了要件	科目群		履修方法
	必修科目		すべて履修
	選択必修科目	A群	各群2単位以上履修
B群			
C群			
D群			
E群			

公認心理師受験資格取得の履修範囲(少なくとも42単位)

博士前期課程の修了要件となる単位に加えて、自由選択科目の単位取得が必要となります。

博士前期課程修了要件	科目群		履修方法
	必修科目		すべて履修
	選択必修科目	A群	各群2単位以上履修、かつ、選択必修科目における公認心理師になるために必要な科目を全て履修
B群			
C群			
D群			
E群			



自由選択科目	公認心理師受験資格を必要とする場合はすべて履修(8単位)
--------	------------------------------

心理学専攻 博士後期課程

<履修方法について>

1. 専攻の科目および共通科目の中から16単位を履修すること。

授業科目名	英字授業科目名	単位	英語 開講	担当者
学校臨床心理学特殊研究Ⅰ	School Clinical PsychologyⅠ	2		教授 富田 拓郎
学校臨床心理学特殊研究Ⅱ	School Clinical PsychologyⅡ	2		教授 富田 拓郎
認知心理学特殊研究Ⅰ	Cognitive PsychologyⅠ	2		教授 有賀 敦紀
認知心理学特殊研究Ⅱ	Cognitive PsychologyⅡ	2		教授 有賀 敦紀
文化・認知心理学特殊研究Ⅰ	Comparative Cognitive PsychologyⅠ	2		教授 山口 真美
文化・認知心理学特殊研究Ⅱ	Comparative Cognitive PsychologyⅡ	2		教授 山口 真美
生涯発達心理学特殊研究Ⅰ	Lifespan developmental PsychologyⅠ	2		教授 高瀬 堅吉
生涯発達心理学特殊研究Ⅱ	Lifespan developmental PsychologyⅡ	2		教授 高瀬 堅吉
臨床・健康心理学特殊研究Ⅰ	Clinical and Health PsychologyⅠ	2		教授 中村 菜々子
臨床・健康心理学特殊研究Ⅱ	Clinical and Health PsychologyⅡ	2		教授 中村 菜々子
神経心理学特殊研究Ⅰ	NeuropsychologyⅠ	2		教授 緑川 晶
神経心理学特殊研究Ⅱ	NeuropsychologyⅡ	2		教授 緑川 晶
精神医学特殊研究Ⅰ	PsychiatryⅠ	2		教授 山科 満
精神医学特殊研究Ⅱ	PsychiatryⅡ	2		教授 山科 満
心理学特殊講義Ⅰ	PsychologyⅠ	2		兼任講師 森口 佑介
心理学特殊講義Ⅱ	PsychologyⅡ	2		兼任講師 上田 祥行

特別指定科目

授業科目	単位	備考
特別指定科目Ⅰ	2	特別指定科目の履修方法等の細目については、Cplusに掲載します。
特別指定科目Ⅱ	2	
特別指定科目Ⅲ	2	
特別指定科目Ⅳ	2	
特別指定科目Ⅴ	2	
特別指定科目Ⅵ	2	

2. 文学研究科の学位審査に関する取扱要領

■文学研究科学位論文審査及び最終試験に関する取扱要領

この取扱要領は、中央大学大学院学則及び中央大学学位規則に基づき、学位論文（修士論文及び課程による者の博士論文をいう。）の審査並びに最終試験について、必要な事項を定める。

学位は、所定の年数以上在学し、修了に必要な単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、学位論文の審査及び最終試験の評価について、それぞれ合格した者に対して授与する。

1. 学位論文審査について

学位論文の審査は、学位授与方針を踏まえて、以下の観点について、修士学位又は博士学位を授与するに十分な水準にあるかどうかを審査する。

修士論文審査の評価は、S（100点～90点）、A（89点～80点）、B（79点～70点）、C（69点～60点）を合格とし、E（59点以下）を不合格とする。

博士論文審査の評価は、合格又は不合格とする。

(1) テーマ設定に関して

- ・問題設定がこれまでの研究に対して重要な意味を持つか。
- ・問題意識が明確かつ課題設定が合理的であるか。

(2) 研究方法の適切性に関して

- ・研究目的を達成するためにふさわしい研究方法が用いられているか。
- ・必要な研究上の倫理に対して適切な配慮がおこなわれているか。

(3) 論文構成と論理性に関して

- ・論文全体の構成が適切で明確な結論へと導かれているか。
- ・考察の展開が論理的に必要な論証がなされているか。

(4) 論文の形式に関して

- ・用語や文体が正確かつ明晰であり、図表やデータ等が適切に用いられているか。
- ・参考文献・資料等の引用や注記が適切におこなわれているか。

(5) 独自性と意義に関して

- ・出された結論や論証の方法などにおいて、独自性と学問的意義・社会的意義を持っているか。
- ・今後の研究への発展可能性を持っているか。

(6) 不正行為に関して

- ・資料に対し、捏造、改ざん等の不正な取り扱いをしていないか。
- ・先行研究の成果等の盗用や作為的な取り扱いをしていないか。

2. 最終試験について

最終試験は、原則として口述試験にて行い、学位授与方針を踏まえて、以下の観点について、修士学位又は博士学位を授与するに十分な水準にあるかどうかを審査する。

修士学位の最終試験の評価は、S（100点～90点）、A（89点～80点）、B（79点～70点）、C（69点～60点）を合格とし、E（59点以下）を不合格とする。

博士学位の最終試験の評価は、合格又は不合格とする。

- (1) 論文内容に関する質問に適切に回答することができたか。
- (2) 論文の学問的意義・社会的意義について示すことができたか。
- (3) 当該分野の研究に必要な言語能力や基礎となる幅広い知識を示すことができたか。
- (4) 取り組んだ研究課題を広く活用する応用能力を示すことができたか。

(5) 研究者や高度専門職業人に求められる高い倫理観や社会的責任の認識を持っているか。

3. 評価結果の取扱いについて

学位論文の審査結果及び最終試験の評価結果については、成績原簿及び成績証明書に記載する。

4. 評価結果に関する問い合わせについて

学位論文の審査結果及び最終試験の評価結果に関する問い合わせは、「成績評価問い合わせに関する取扱要領」を準用する。

- 1) 問い合わせは、成績証明書が交付される学位授与式日より起算して2週間以内に「審査結果問い合わせ書」に基づき、自身の審査結果について、問い合わせることができる。ただし、不合格者は、修了者発表日から起算する。
- 2) 問い合わせの結果、評価結果に変更が生じたときは、研究科委員会において審議・決定する。

5. その他

- 1) この取扱要領に定めのない事項については、研究科委員会において審議し、決定する。

附 則

(施行期日)

- 1 この取扱要領は、2015年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この取扱要領は、2022年4月1日から施行する。
(経過措置)
- 2 改正後の修士論文及び最終試験に評価基準は、2022年度入学生から適用することとし、2021年度入学生はなお従前の例による。

(参考)

【学位論文審査基準に関する補足説明】

(1) テーマ設定に関して

論文のテーマを設定するにあたっては、そのテーマが当該研究分野において有効なテーマであるかが問われます。それまでに追究されてくることがなかった新しい課題や、その課題を解明することによってそれまでの研究史を見直すことができるようなテーマであることが望まれます。ただし、それまでの研究史において繰り返し追究されてきたテーマであっても、その論文の論証によって従来の研究を補強したり、別の論証の仕方を提示することができたりするのであれば、それも有効なテーマになり得ます。そうした問題意識を持って、テーマ設定が明確になされていることが重要です。

(2) 研究方法の適切性に関して

設定したテーマを追究し、結論に導いていくためには、それにふさわしい適切な研究方法が選択されている必要があります。当該研究分野においてさまざまな研究方法が用いられているはずですが、テーマに沿った分析・考察をおこなう際、多くの研究方法の中からもっとも有効な方法が選択されていることが重要です。また、選択したテーマと研究方法にしたがって、データ・資料などを適切に収集・処理することも求められます。さらに、研究にあたっては、著作権やプライバシーなど法令上の権利を尊重することはもちろん、偏見や差別に基づいた分析に陥らないよう注意し、全体として研究上の倫理に十分な配慮をすることが必要です。

(3) 論文構成と論理性に関して

論文を作成するにあたっては、結論に至るまでの過程を明示する必要があります。全体が一貫したテーマに基づいて作成されていることが必要であり、その上で問題設定から適切な順序で仮説や論証を積み重ねて、最終的に結論へ至る

ことが求められます。特に博士論文においては全体の考察の体系的性が求められますので、論文の各章が効果的に配列された上で、論証や考察が緊密に結びつき、全体が論理的な一貫性を持つことが重要です。

(4) 論文の形式に関して

論文作成にあたっては、それぞれの研究分野において守らなければいけない形式があります。論文中の用語の意味や文体が明快で、当該研究分野で用いられている専門用語の使い方や文章の書き方に適合しているか、図表やデータ等が正確かつ有効に用いられているか、に注意をしてください。また、参考文献や資料等を用いるにあたっては、原文を尊重するとともに、著者・書名（論文名）・発行所（掲載誌）・発行年等を明記することが必要です。さらには、当該研究分野におけるルールにもとづき、必要に応じた注記を加えて本文を補うように心がけてください。

(5) 独自性と意義に関して

研究論文においては、その内容に独自性と意義があることを求められます。独自性とは、出された結論における独自性には限らず、テーマ設定自体に独自性がある、結論は同じでも論証の方法などにおいて独自性がある、これまで発見されていない資料を見出している、これまでできていない新たな調査をおこなっている、といったさまざまな意味での独自性があり得ます。独自性を確保するためには、先行研究の十分な検討がなされていることが必要です。また、設定された課題や導き出された結論が、今後の研究に発展し、さらに大きな成果をあげることが期待できるものであることが望ましいと言えます。特に博士論文においては、論文で設定された課題や導き出された結論が、過去の当該分野の研究史に照らして重要な学問的意義や社会的意義を持つことが重視されます。加えて、博士論文においてはそれらの基準を満たし、直ちに出版または学会誌等の掲載論文にできるような水準の論文になっていることが求められます。

(6) 不正行為に関して

研究論文においては、研究上の資料や先行研究の成果に関して、厳密な取り扱いをしなければいけません。そのためには、資料に恣意的な操作をすることなく引用・紹介し、その出典等を明示しなければいけません。また、研究の世界ではプライオリティを最大限に尊重する義務がありますので、当該研究分野の先行研究がある場合は、必ずそれを明示し、自分の論文の内容との関係を示すことが必要です。資料をねつ造・改ざんしたり、先行研究を自分の論文に無断で取り入れたりするなど、この点に不備がある場合は、その論文は剽窃または盗用をおこなったとみなされます。こうした行為が論文中に確認された場合には、他の部分でどのような意義を持つ論文であっても、その論文は審査において不合格と判定されます。

【最終試験審査基準に関する補足説明】

最終試験の目的は、提出した論文内容を確認すると同時に、提出者が学位（修士・博士）にふさわしい能力を備えているかを確認することです。したがって、提出した論文内容に関する質疑応答が主におこなわれますが、提出した論文の課題に関連する内容や、それを支える能力、さらには今後への応用能力があわせて問われることになります。

(1) 論文内容に関して

最終試験においては、主として、提出した論文の内容に関する質問が審査委員からなされます。論文のテーマ設定、結論、研究方法、実験や調査の過程、論証の過程などについて、審査委員からの質問に適切に回答する必要があります。また、論文に十分に書ききれていない部分に関して、補足の説明を求められることもあります。したがって、書かれた内容だけでなく、それに関連する内容についても準備をして、最終試験に臨むことが必要です。

(2) 論文の学問的意義・社会的意義に関して

論文の内容が正確であることを示すだけではなく、その内容が学問的意義・社会的意義を持つことについての説明をすることも必要になります。学問的意義とは、出された結論や論証の過程がこれまでの研究に照らして独自性を持つ、研究課題に関する新たな資料の発見がある、新たな調査をおこなっている、今後の研究への発展可能性を持つ、などのさまざまな意義が考えられます。社会的意義とは、おこなった研究が当該学問分野に限定されることなく、広く社会において共有される意義を持っていることを指します。これらの点についても最終試験において問われますし、特に博士論文におい

ては、このような学問的意義・社会的意義を持つことが重視されます。

(3) 研究に必要な能力・知識に関して

研究を進めるにあたっては、論文の表面にあらわれる分析・考察の部分だけではなく、それを支えるさまざまな能力や知識が必要になります。最終試験においては、当該学問分野の研究に必要な言語能力や関連する幅広い知識の有無が問われます。

(4) 研究課題の応用能力に関して

学位（修士・博士）は、取り組んだ研究課題についてだけ与えられるものではなく、その研究をおこなった人の研究能力に対して与えられるという一面も持っています。提出した学位論文が学位にふさわしい内容であることはもちろんですが、論文で対象とした研究課題をそれだけで終わらせることなく、学位取得後も広く応用していく能力を論文提出者が持っていることが必要です。最終試験では、そのような応用能力の有無が問われます。

(5) 倫理観と社会的責任の認識に関して

学位論文の作成において研究能力を身につけ、それを示すことはもちろん必要ですが、その過程において、資料や先行研究を尊重すること、種々の権利に配慮すること、特定の思想や立場に偏しないこと、などの研究上の倫理を身につけていくことも重要です。また、高い学位を持つ人は、その能力を活用して社会に貢献する責任を持つこととなります。学位取得後に研究者になる場合でも、その他の専門的職業に就く場合でも、こうした倫理と責任に関する認識を持っていることが必要です。最終試験ではこのような認識が問われますし、特に博士論文提出者については、この点に関する十分な認識を持っていることが求められます。

3. 文学研究科の学位授与方針に基づく知識・能力の到達度評価表

到達度評価表は、ディプロマ・ポリシーと学位審査基準との関連を示すものです。

■文学研究科博士前期課程

学位授与方針に示す博士前期課程を修了するにあたって備えるべき知識・能力

DP1 実践力	学位	【文学研究科】 研究能力および広く豊かな学識を背景に、自己の専門分野や実社会における問題を解決できる。
	文学	国文学: 日本文学・日本語学・漢文学・日本文化に関する幅広い知識を教育実践に活かしたり、実社会における円滑な人間関係の構築に役立てたりすることができる。
		英文学: 高度な英語力と英語圏文学・英語圏文化・英語学・言語科学・英語教育学に関する知識を背景に、実社会における問題解決に向けて、着実に取り組むことができる。
		独文学: ドイツ語圏の語学・言語学・文学・文化・歴史・社会等に関し、自分の研究対象とした分野について問題の発見を行い、それに対して独自の見解を実証的・論理的な解法で提示できる。
		仏文学: フランス語の体系的な理解に基づいて、実践的なフランス語運用能力を身につけるとともに、その能力を実社会で活用することができる。西洋美術史の専門的な知識を身につけ、美術館での実践的な活動に結びつけることができる。
		中国言語文化: 日本語および中国語を使って専門分野の文献資料を正確に読み取り、自分の研究課題に対して広い視野から主体的な学びができる。
	史学	日本史学: 学内外の研究会や史料調査活動等への積極的な参加を通じて、自らの研究テーマを掘り下げることができる。
		東洋史学: アジア・アフリカの原典史料の解釈力および歴史的な視点に立った思考力を背景に、自己の専門分野や社会の諸問題を解決することができる。
		西洋史学: 豊かな市民生活に不可欠な、生涯にわたる学びの礎を築くことができる。
	哲学	哲学: 広く豊かな哲学・思想史的な学識にもとづき、人間存在に根ざす普遍的・根本的課題と現代社会が抱える現実問題を相補的に理解し解決していくことができる。
社会学	社会学: 調査研究にて培った学識、調査力、構想力をもとに、専門研究領域において貢献するとともに新しい社会を構想する力を持つ。	
社会情報学	社会情報学: 社会情報学についての研究能力および豊かな学識を背景に、社会情報に関連する諸問題を解決できる。	
教育学	教育学: 教育学および関連する学問領域を踏まえて研究対象・方法を適切に設定したうえで分析・考察することができ、教育に関する実務においても実践することができる。	
心理学	心理学コース: 最先端の研究方法を学び、研究場面で実際に運用することができる。 臨床心理学コース: 心理学の科学的研究方法を学んだ上で、臨床心理学のテーマ設定ができ、それに相応しい研究方法を選択し運用することができる。加えて、臨床場面では公認心理師・臨床心理士に相応しい心理支援の専門職としての基本的な技能を発揮することができる。	
DP2 知的教養	学位	【文学研究科】グローバル化、高度情報化が進行する国際社会と地域社会に貢献できる知的教養を有し、さらに、日本および海外の文化を学ぶことで、自己の専門分野とその関連する領域を広く豊かに認識できる。
	文学	国文学: 蓄積した幅広い知識と具体的な事象に即した思考方法とによって獲得できた日本についての深い認識によって、日本文化とその歴史を相対化し、その特質と魅力を国際社会と地域社会に向けてアピールできる。
		英文学: 高度な英語力と英語圏文学・英語圏文化・英語学・言語科学・英語教育学に関する知識を背景に、国際社会と地域社会に貢献できる知的教養を、グローバルに共有することができる。自分と他者のもつ文化や言語を広く深く豊かに認識できる。
		独文学: グローバル化、多民族化、高度情報化が進行するドイツ語圏諸国との国際交流に貢献できる知的教養を有し、日本およびドイツ語圏諸国の文化を学ぶことで、自己の専門分野とその関連する領域を広く豊かに認識できる。
		仏文学: フランス語圏文学やフランス美術の歴史を理解するとともに、その背景にある思想や文化、社会に関する深い知識を有し、その知識を実社会において活用することができる。
		中国言語文化: 専門分野の研究手法に関する基本的な知識を修得するとともに、漢字を紐帯とする東アジアの多様な文化を理解し、学識を広げることができる。
	史学	日本史学: 日本史学・考古学を主とする幅広い知識と専門的な学力をもち、歴史的な視点で社会をとらえることができる。
		東洋史学: 現代世界に貢献できるアジア・アフリカに関する知識や情報を有し、日本社会とアジア・アフリカの歴史・文化を関連づけて学ぶことで、自己の専門分野および関連諸領域を深く認識できる。
		西洋史学: 世界の複数の地域と時代の多種多様な人々の生き方を、それぞれの史料と論理的方法論を用いて分析することができる。
	哲学	哲学: 広く日本・中国・西洋における古今の知的教養を主体的に学修することによって、世界の文化の多様性をその根源から柔軟に理解することができる。
社会学	社会学: グローバルな視点と臨床的な視点の複眼的思考のもと、現代社会並びにその過去と未来の姿を見通し、多様な社会のあり方を論ずることができる。	
社会情報学	社会情報学: グローバル化、高度情報化が進行する国際社会と地域社会に貢献できる社会情報学の知的教養を有し、社会情報とその関連する領域を広く豊かに認識できる。	
教育学	教育学: 教育学だけでなく関連する学問領域にも目を配り、幅広い視野から教育に関する諸課題の構造や問題点について認識することができる。	
心理学	心理学コース: 心理学のみならず関連する学問領域において幅広い知識を有し、研究結果を多角的に論じることができる。 臨床心理学コース: 心理学・臨床心理学全般のさまざまな知識を有するだけでなく、人間の心理的な営みの結果である文化や歴史についての幅広い教養を備え、研究と臨床の両面に活用することができる。	

DP3 論理 構築力	学位	【文学研究科】 研究対象と真摯に向き合い、そこから論理を構築し、その結果出てくる自己の考えや高度な理論を正確に論述し説明することができる。
	文学	国文学:日本文学・日本語学・漢文学・日本文化に関して丁寧かつ批判的に読解・分析する修練を通じて獲得した語彙力や思考力によって、研究史をふまえた上で自らの研究を構想し、読解・分析・考察したことを他者にわかるように合理的かつ説得的に論述することができる。
		英文学:高度な英語力と共に身につけた言語理解力と言語分析力、および、英語圏文学・英語圏文化・英語学・言語科学・英語教育学の研究を通して磨いた論理的思考と合理的説得力を基盤に、他者の考えとその背景にある主張を理解し、自分の考えを明確に説明することができる。
		独文学:ドイツ語圏諸国の対象分野を研究する方法論と分析手法を修得し、論理的思考の結果として導かれる自己の考えや高度な理論を正確に論述し説明することができる。
		仏文学:フランス語圏文学やフランス美術史を研究するための専門的な視点や手法を修得したうえで、自らの問題意識に基づくテーマを設定し、精密な資料批評に基づく実証的な方法を通じて分析・考察を行い、独自の見解を説得的に提示することができる。
	中国言語文化:原典資料等を用いて仮説を検証する能力を身につけ、学問的課題に関する思考プロセスを明確にし、論理的に筋道を立てて考えていくことができる。	
	史学	日本史学:着実な手法で史料(資料)から情報を読み取り、先行研究との違いを十分に意識しながら歴史を叙述することができる。
		東洋史学:アジア・アフリカに関する研究対象と真摯に向き合い、独自の論理を構築し、自己の考えや理論を的確に論述・説明することができる。
		西洋史学:厳格な史料読解と分析に基づいて、各自がテーマとする事象を客観的に再構成することができる。
	哲学	哲学:高度な論理性に裏打ちされた思考能力を習得することにより、異なった思考回路や価値観に対しても開かれた柔軟な論理的思考と、説得力に富んだ表現力を形成することができる。
社会学	社会学:帰納的ならびに演繹的な方法を用いて理論構築が出来、かつ様々な理論レベルで議論し、かつ記述や説明ができる。	
社会情報学	社会情報学:社会情報学の研究対象と真摯に向き合い、そこから論理を構築し、自己の考えや高度な理論を正確に論述し説明することができる。	
教育学	教育学:教育学における規範的アプローチ、実証的アプローチ、実践的アプローチの違いを踏まえ、適切な学問的手法を用いて研究を遂行することができる。	
心理学	心理学コース:先行研究に基づいて仮説を設定し、科学的な手法を用いて得られたデータを基に統計学的手法によって仮説を検証し、新たな問題設定に繋げることができる。 臨床心理学コース:事例研究や質的研究を含む幅広い先行研究に基づいて問題を設定し、科学的な手法を用いて得られたデータを客観性を担保しながら分析し、新たな問題設定に繋げることができる。	
DP4 発信力	学位	【文学研究科】 自己の研究成果を学会等での発表、著書や論文を通じて積極的に発信し、世に広く問うていくことができる。
	文学	国文学:深めた知見を学内外の学会で発表し、研究成果を社会に発信できる。また、学修で得た日本文学・日本語学・漢文学・日本文化に関する幅広い知識と独自の知見を、自らの得意とする方法で社会に発信・還元することができる。
		英文学:高度な英語力を活かして、自己の研究成果を学会発表や合同研究会を通じて積極的に発信し、国内外の学生や研究者に問うことができる。
		独文学:自己の研究成果をドイツ語圏諸国と日本の学会等で発表し、ドイツ語と日本語の著書や論文を通じて積極的に発信し、世に広く問うていくことができる。
		仏文学:学内の研究発表会を通して、自らの研究成果を論理的に示し、他者の質問や批評に適切に応答することができる。
	中国言語文化:自己の調査結果や研究成果を口頭や文章によって効果的に伝える技術を修得し、発信することができる。	
	史学	日本史学:様々な学会に参加して研究発表を行い、研究成果を論文にまとめて主張することができる。
		東洋史学:アジア・アフリカに関する自己の研究成果を学会等で発表し、論文等を通じて的確に発信し、幅広く社会に問いかけていくことができる。
		西洋史学:知的好奇心とクリティカルな思考に基づいて、行動することができる。
	哲学	哲学:学術的な研究成果を専門学会等で継続的に発表し続けると同時に、その研究成果が広く社会に受容され積極的な影響を与えられるような一般的な仕方も発信していくことができる。
社会学	社会学:書籍、論文、研究発表において、自己の議論や研究上の発見が他者によって明確に理解されるように、提示できる。	
社会情報学	社会情報学:社会情報学の研究成果を、学会等での発表・著書や論文を通じて積極的に発信し、世に広く問うていくことができる。	
教育学	教育学:研究成果を学会発表あるいは論文などによって発信するとともに、教育に関する実務においても展開することができる。	
心理学	心理学:心理学コース;研究成果を国内外の学会等で発表した上で、論文として提示することができる。 臨床心理学コース:研究成果を国内外の学会等で発表した上で、論文として提示することができる。臨床事例の経過とアセスメントを過不足無く要約し、事例検討会で発表することができる。	

到達度評価表

		学位授与方針に示す博士前期課程を修了するにあたって備えるべき知識・能力			
		DP1 実践力	DP2 知的 教養	DP3 論理 構築力	DP4 発信力
修士論文 審査観点	(1) テーマ設定に関して ・問題設定がこれまでの研究に対して重要な意味を持つか。 ・問題意識が明確かつ課題設定が合理的であるか。	◎	○		
	(2) 研究方法の適切性に関して ・研究目的を達成するためにふさわしい研究方法が用いられているか。 ・必要な研究上の倫理に対して適切な配慮がおこなわれているか。		◎	○	
	(3) 論文構成と論理性に関して ・論文全体の構成が適切で明確な結論へと導かれているか。 ・考察の展開が論理的に必要な論証がなされているか。	○		◎	◎
	(4) 論文の形式に関して ・用語や文体が正確かつ明晰であり、図表やデータ等が適切に用いられているか。 ・参考文献・資料等の引用や注記が適切におこなわれているか。		○	◎	
	(5) 独自性と意義に関して ・出された結論や論証の方法などにおいて、独自性と学問的意義・社会的意義を持っているか。 ・今後の研究への発展可能性を持っているか。	○			◎
	(6) 不正行為に関して ・資料に対し、捏造、改ざん等の不正な取り扱いをしていないか。 ・先行研究の成果等の盗用や作法的な取り扱いをしていないか。	◎			○
最終試験 審査項目	(1) 論文内容に関する質問に適切に回答することができたか。			◎	○
	(2) 論文の学問的意義・社会的意義について示すことができたか。	○		◎	
	(3) 当該分野の研究に必要な言語能力や基礎となる幅広い知識を示すことができたか。		◎		○
	(4) 取り組んだ研究課題を広く活用する応用能力を示すことができたか。		○		◎
	(5) 研究者や高度専門職業人に求められる高い倫理観や社会的責任の認識を持っているか。	◎		○	

■文学研究科博士後期課程

学位授与方針に示す博士後期課程を修了するにあたって備えるべき知識・能力

DP1 独創性	学位	【文学研究科】 研究能力および広く豊かな学識を背景に、自己の専門分野や実社会に新しい知見を独自の視点で加えていくことができる。
	文学	国文学:日本文学・日本語学・漢文学・日本文化に関する深い学識にもとづき、独自の視点で自らの研究分野に清新な論を積み上げることができる。 英文学:専門的な研究を通して培った研究能力および広く豊かな学識を背景に、学界や実社会に対し、独自の視点から新しい知見や発想を加え、展開することができる。 独文学:ドイツ語圏諸国に関する専門分野の研究能力および広く豊かな学識を背景に、自己の専門分野や実社会に新しい知見を独自の視点で加えていくことができる。 仏文学:自らの専門分野に関する先行研究を調査し、フランスの最新の学問的潮流や傾向を把握したうえで、高度な問題意識に基づく独自の視点を導き出すことができる。 中国言語文化:日々の基礎研究を通じて研究テーマの本質について理解を深め、新しい視点から自己の研究成果を作り上げ、その重要性を示すことができる。
	史学	日本史学:着実な史料(資料)分析をもとに先行研究を批判的に検討し、歴史に対する独自の見方を提示することができる。 東洋史学:研究能力およびアジア・アフリカに関する幅広い学識を背景に、自己の専門分野や現代社会に新しい知見と独自の視点を加えていくことができる。 西洋史学:知的好奇心とクリティカルな思考に基づいて、独自の研究を展開することができる。
	哲学	哲学:哲学・思想の豊かな伝統を新たに再構築することによって、これまで取り上げられることのなかった新しい問題位相に光を当て、そこから独自の解釈ないし思考を展開していくことができる。
	社会学	社会学:高度な知的教養と論理構築力を基礎とし、従来の研究上の欠落を埋める新しい知見を加えることができる。
	社会情報学	社会情報学:社会情報学の研究能力および広く豊かな学識を背景に、社会情報に関して、専門分野や実社会に新しい知見を独自の視点で加えていくことができる。
	教育学	教育学:教育に関する諸課題について、教育学あるいは関連する学問領域における高度な研究手法によって深く分析・考察することができる。
	心理学	心理学:問題設定した領域において、国際水準の新規な成果を挙げることができる。
	DP2 発信力	学位
文学		国文学:日本文学・日本語学・漢文学・日本文化に関する国内外での学会発表や学術誌への論文発表を通じて、自らの研究成果を積極的に発信できる。 英文学:最先端の研究成果を国内外の学会での発表、日本語や英語による著書や論文を通じて積極的に発信し、自立した研究者として世に広く問うていくことができる。 独文学:ドイツ語圏諸国や日本国内をはじめとする学会、またその他の国際学会等での自己の研究発表、著書や論文を通じて積極的に発信し、自立した研究者として世に広く問うていくことができる。 仏文学:学会での発表や、学会誌および学内紀要への論文投稿を通じて、研究成果を積極的に発信し、日本やフランス語圏諸国において、研究者・教育者として自立し活動できる。 中国言語文化:日本語または中国語による学会での口頭発表や学術論文の執筆・刊行を通じて、自己の研究成果に関する情報を公表することができる。
史学		日本史学:様々な学会に参加して研究発表を行い、成果を論文にまとめて提示することをくり返すことで、独自の見解を主張することができる。 東洋史学:アジア・アフリカに関する自己の研究発表を学会等で発表し、著書や論文等を通じて積極的に発信し、研究者として社会に関わり続けることができる。 西洋史学:歴史への問いかけや研究成果を言語化し、市民社会の一員として学会の内外で活動できる。
哲学		哲学:学術的な研究成果を専門学会等で継続的に発表し、学術専門書や論文を介してそれを世に問い続けると同時に、その研究成果が広く社会に受容され積極的な影響を与えられるような一般的な仕方で発信していくことができる。
社会学		社会学:自己の研究成果を明確に伝える力のみならず、自立した研究者として新しい研究領域を開拓し、アピールする力を持つ。
社会情報学		社会情報学:社会情報学の研究成果を、学会等での発表・著書や論文を通じて積極的に発信し、自立した研究者として世に広く問うていくことができる。
教育学		教育学:教育学あるいは関連する学問領域における高度な研究手法によって分析・考察した結果を、著書や論文などで公表し、高い評価を受けることができる。
心理学		心理学:国内外の学会等で研究成果を繰り返し発表し、学会の査読付き雑誌に複数回論文を掲載できる。

DP3 知的教養	学位	【文学研究科】 グローバル化、高度情報化が進行する国際社会と地域社会に貢献できる知的教養を有し、さらに、日本および海外の文化を学ぶことで、自己の専門分野とその関連する領域を独自の視点で広く豊かに認識できる。
	文学	国文学:蓄積した幅広い知識と具体的な事象に即した思考方法とによって獲得できた日本についての深い認識によって、日本文化とその歴史を相対化し、その特質と魅力を国際社会と地域社会に向けてアピールできる。 英文学:学術研究を通して得た教養に基盤を置き、グローバル化、高度情報化が進行する国際社会と地域社会に貢献できる知的教養を有するだけでなく、自己と他者を広く深く豊かに認識し、尊重することができる。 独文学:グローバル化、多民族化、高度情報化が進行するドイツ語圏諸国との国際交流に貢献できる知的教養を有し、日本およびドイツ語圏諸国の文化を学ぶことで、自己の専門分野とその関連する領域を広く豊かに認識できる。 仏文学:フランス語圏文学やフランス美術の歴史を理解するとともに、その背景にある思想や文化、社会について高度の専門知識に習熟する。フランスと日本、フランスと諸外国との相互的な影響関係に関心を持ち、国際的な視野に基づきながら、主体的に研究・教育活動や社会貢献活動に関わることができる。 中国言語文化:中国語原典資料の読解を軸とした知的訓練を体系的に積み重ねることによって、専門分野にとらわれない汎用的な思考力を養い、学問的課題を発見することができる。
	史学	日本史学:日本史学・考古学を主とする幅広い知識と専門的な学力をもち、歴史的な視点で社会をとらえ、社会の問題に取り組むことができる。 東洋史学:現代世界に貢献できるアジア・アフリカに関する知識や情報を有し、日本社会とアジア・アフリカの歴史・文化を関連づけて学ぶことで、自己の専門分野および関連する領域を独自の視点から深く認識することができる。 西洋史学:ある現象を一定の距離からクリティカルに観察し、また、その史料の複雑さを十分に理解し、それを評価することができる。
	哲学	哲学:広く日本・中国・西洋における古今の知的教養を主体的に学修することによって、世界の文化の多様性をその根源から柔軟に理解すると同時に、自己の専門領域に固有な理解をいわば世界哲学的な観点から多角的に再構築することができる。
	社会学	社会学:グローバルと臨床という複眼的思考のもと、社会の過去と未来の姿を見直し、多様な社会のあり方を論じることに加えて、社会のあるべき姿についても論じる知的教養をもつ。
	社会情報学	社会情報学:グローバル化、高度情報化が進行する国際社会と地域社会に貢献できる社会情報学の知的教養を有し、社会情報とその関連する領域を独自の視点で広く豊かに認識できる。
	教育学	教育学:教育学あるいは関連する学問領域に精通し、幅広い視野と深い分析能力をもって教育に関する諸課題の構造や問題点について認識することができる。
	心理学	心理学:心理学のみならずさまざまな領域における幅広い教養を有し、自身の研究成果をそれらと関連づけながら論じることができる。
DP4 論理構築力	学位	【文学研究科】 研究対象と真摯に向き合い、そこから論理を構築し、その結果出てくる自己の考えや高度な理論を正確に論述し、様々な分野の人々を説得することができる。
	文学	国文学:日本文学・日本語学・漢文学・日本文化に関して丁寧かつ批判的に読解・分析する修練を通じて獲得した語彙力や思考力によって、研究史をふまえた上で自らの研究を構想し、読解・分析・考察したことを他者にわかるように合理的かつ説得的に論述することができる。 英文学:高度な英語力と学術研究を通して磨いた論理的思考と合理的説得力を基盤に、様々な考えを持つ他者とその背景にある主張を理解し、自分の考えを明確に説明するだけでなく、立場や考え方の違いを超えて、共感を得ることができる。 独文学:ドイツ語圏諸国に関する研究対象と真摯に向き合い、そこから論理を構築し、その結果出てくる自己の考えや高度な理論を正確に論述し様々な分野の人々を説得することができる。 仏文学:フランス語圏文学やフランス美術史を研究するための専門的な視点と手法に習熟するとともに、高度の資料批評に基づく実証的な方法を通して分析・考察し、独自の見解を説得的に提示することができる。 中国言語文化:人文科学・中国学分野の研究方法を修得することによって客観的事実と原典資料に依拠した論理的思考を展開し、自己の提示した仮説を説得力のある結論へと導くことができる。
	史学	日本史学:着実な手法で史料(資料)から情報を読み取り、先行研究との違いを十分に意識しながら歴史像を組み立てることができる。 東洋史学:アジア・アフリカに関する研究対象と真摯に向き合い、独自の論理を構築し、自己の考えや理論を正確に論述し、多様な分野の人びとを説得することができる。 西洋史学:多角的な視点と歴史記述の深い理解からエビデンスを分析し、歴史的出来事の因果関係を理解することができる。
	哲学	哲学:高度な論理性に裏打ちされた思考能力を習得することにより、異なった思考回路や価値観に対しても開かれた柔軟な論理的思考を展開し、強靱で説得力に富んだ表現方法を開発・構築していくことができる。
	社会学	社会学:理論構築を行い、かつ理論的に記述・説明できる力に加えて、自己の研究分野において新しい理論や理論的枠組を提示できる。
	社会情報学	社会情報学:社会情報と真摯に向き合い、論理を構築し、自己の考えや高度な理論を正確に論述し、様々な分野の人々を説得することができる。
	教育学	教育学:教育学における規範的アプローチ、実証的アプローチ、実践的アプローチの違いを踏まえたうえで適切に組み合わせるなど、高度な学問的手法を用いて研究を遂行することができる。
	心理学	心理学:心理学ないし臨床心理学の最先端の研究成果を踏まえた問題設定を行った上で、科学的手法によって収集されたデータに対し独自の視点を含む多角的な分析を加え、緻密な論理構成に基づいてその学問領域における新たな成果を提示できる。
DP5 実践力	学位	【文学研究科】 研究能力および広く豊かな学識を背景に、自己の専門分野や実社会において、根本的な問題提起をすることができる。
	文学	国文学:日本文化・日本文学・日本語学・漢文学に関する幅広い知識を背景に、自らの研究を深め、それを教育実践に活かしたり、専門分野に寄与するような問題提起をしたりすることができる。 英文学:高度な言語能力、研究能力および広く豊かな学識知識を背景に、専門分野および実社会における問題を発見し、その解決に向けて着実に取り組むことができる。 独文学:ドイツ語の専門文献を解読し、ドイツ語の資料を分析する能力およびドイツ語圏に関する学識を背景に、自己の専門分野や実社会において、根本的な問題提起をすることができる。 仏文学:実践的な職業のための高度なフランス語運用能力およびプレゼンテーション能力を発揮できる。美術館でのインターンを通して、専門的な知識だけでなく実践的な経験を活かして職業に結びつけることができる。 中国言語文化:高度な中国語運用能力・専門知識・分析力・判断力を駆使し、高度専門職業人として活躍することができる。
	史学	日本史学:学内外の研究会や史料調査活動への積極的な参加を通じて自らの研究テーマを掘り下げると同時に、社会に貢献することができる。 東洋史学:アジア・アフリカの原典史料の解釈力および歴史的な視点に立った思考力を背景に、自己の専門分野や現代社会における根本的な問題への解決方法を提示することができる。 西洋史学:史料の収集・分析や論理の構築など、知的なトレーニングを経て得られたクリティカルな思考力を日常生活において活用することができる。
	哲学	哲学:広く豊かな哲学・思想史的な学識にもとづき、人間存在に根ざす普遍的・根本的な哲学的課題と現代社会が抱える現実問題を相補的に理解し、そこから新たな解決策を提案していくことができる。
	社会学	社会学:自己の研究分野における貢献のみならず、あるべき社会を構想・提案し、その実現に向けて行動する力を持つ。
	社会情報学	社会情報学:社会情報学の研究能力および広く豊かな学識を背景に、社会情報学や実社会において、根本的な問題提起をすることができる。
	教育学	教育学:教育学および関連する学問領域に精通したうえで遂行された研究結果を公表するとともに、教育に関する諸課題の解決に向けて研究活動および実務において高度な実践力を発揮することができる。
	心理学	心理学:心理学のみならず関連する諸領域の幅広い学識に基づいて設定された問題に対し、最新の手法を含む多様な研究手法を駆使して解決に向かうことができる。

到達度評価表

		学位授与方針に示す博士前期課程を修了するにあたって備えるべき知識・能力				
		DP1 独創性	DP2 発信力	DP3 知的教養	DP4 論理 構築力	DP5 実践力
博士論文 審査観点	(1) テーマ設定に関して ・問題設定がこれまでの研究に対して重要な意味を持つか。 ・問題意識が明確かつ課題設定が合理的であるか。	◎		○	○	◎
	(2) 研究方法の適切性に関して ・研究目的を達成するためにふさわしい研究方法が用いられているか。 ・必要な研究上の倫理に対して適切な配慮がおこなわれているか。			◎	○	
	(3) 論文構成と論理性に関して ・論文全体の構成が適切で明確な結論へと導かれているか。 ・考察の展開が論理的に必要な論証がなされているか。		◎		◎	○
	(4) 論文の形式に関して ・用語や文体が正確かつ明瞭であり、図表やデータ等が適切に用いられているか。 ・参考文献・資料等の引用や注記が適切におこなわれているか。			○	◎	
	(5) 独自性と意義に関して ・出された結論や論証の方法などにおいて、独自性と学問的意義・社会的意義を持っているか。 ・今後の研究への発展可能性を持っているか。	◎	◎			○
	(6) 不正行為に関して ・資料に対し、捏造、改ざん等の不正な取り扱いをしていないか。 ・先行研究の成果等の盗用や作偽的な取り扱いをしていないか。		○			◎
最終試験 審査項目	(1) 論文内容に関する質問に適切に回答することができたか。		○		◎	
	(2) 論文の学問的意義・社会的意義について示すことができたか。	◎			◎	○
	(3) 当該分野の研究に必要な言語能力や基礎となる幅広い知識を示すことができたか。		○	◎		
	(4) 取り組んだ研究課題を広く活用する応用能力を示すことができたか。	○	◎	○		
	(5) 研究者や高度専門職業人に求められる高い倫理観や社会的責任の認識を持っているか。				○	◎

緊急時の避難について

災害その他緊急の事態が発生した場合は、次のように行動してください。

(1) 緊急事態が発生した場合は、すべて大学から緊急放送でお知らせしますので、指示に従って冷静に行動してください。

(2) 大地震の際の行動マニュアル

I. 大地震が起きた場合の基本行動

- 地震の主震動は1分～2分程度であるため、落ち着いて行動する。
- 余震があることも頭に入れておく。
- 衣類・持ち物等で頭を覆い、落下物（黒板・モニター・蛍光灯等）や転倒物から身を守る。
- ドア付近の人はドアを開け、出口を確保する。

II. 避難する場合の基本行動

【屋内から屋外への避難】

- ① 出口に殺到しないで整然と避難する。
- ② 身体障害者や負傷者がいる場合は、周りの学生とサポートをする。
- ③ 停電した場合、誘導灯を目印に避難する。
- ④ 避難には、必ず階段を使用する。その際には、姿勢を低く保つ。
- ⑤ ドアを開放したまま避難する。ただし、火災が発生し消火不能の場合はドアを閉めて避難する。
- ⑥ 煙が発生したら煙を吸わないよう、ハンカチ等を口と鼻にあて、姿勢を低くして避難する。

【屋外から避難場所への避難】

- ① 衣類や持ち物で頭を覆い、落下物から身を守る。
- ② 窓ガラス・外壁・看板等の落下物に注意する。
- ③ 地面の亀裂や陥没、隆起に注意する。

多摩キャンパス

避難場所	号館、棟別
桜広場	1号館、2号館、中央図書館、8号館、9号館、10号館、11号館、ヒルトップ'78
ラグビー場	3号館、4号館、第1体育館、サークル棟別棟(1)、Cスクエア、グリーンテラス、弓道場、馬房、グローバル館、FOREST GATEWAY CHUO、国際教育寮
陸上競技場	5号館、6号館、7号館、炎の塔、第2体育館、サークル棟別棟(2)(3)

※各号館・各棟に避難場所が掲示されていますので、ご確認ください。

茗荷谷キャンパス

地震等の災害により停電が発生し、帰宅困難なケースの構内一時待機場所は以下となります。

1 階：エントランスホール・茗荷谷学生センター

B1階：学生食堂・購買

※緊急放送でお知らせしますので、その指示に従ってください。

2025年4月

【中央大学 大学院事務室】

経済学・商学・文学・総合政策研究科（多摩キャンパス）

〒192-0393 東京都八王子市東中野742-1

TEL. 042-674-2613

法学研究科（茗荷谷キャンパス）

〒112-8631 東京都文京区大塚1-4-1

TEL. 03-5978-4143

CHUO UNIVERSITY

GRADUATE SCHOOLS

Courses catalog & Programs of study

2025-2026

Letters